大正六年九月十四日第三種郵便物認可・昭和十四年十二月廿五日印刷納本・昭和十五年一月一日發行・毎月一回一日發行・

第廿三輯第一號　昭和十五年一月一日

建築と社會

皇紀2.600年を迎えて……片岡安
2.600年を迎えて……大島三郎
皇紀2.600年の初頭に當りて……中澤誠一郎
皇紀2.600年を迎えて……山田守
皇紀2.600年を迎えて……木村榮二郎
年頭所感……新名種夫
2.600年を迎えて……瀧本義一
紀元2.600年を迎えて……中野順次郎
迎年祈世の御題を拜して……岩尾保衛
戰時下の新年を迎ふ……龜井幸次郎
卒業生就職の狀態を通じて……中野順次郎
防護室に就いて……設備委員會

紫烟室　中支の戰線より（詩）、生命保險と住宅問題、ぎようにんべん、戰時體制版工場の高層化

文　獻　會員劇場設計の規準、都市構築の基本形態、本邦都市發達の動向と其の諸問題
古建築新抄　新建築欄　會報

日本建築協會

登録商標 OHNO SHUTTER PATENTED

日英米特許四〇個・實用新案登錄六〇個併用

大野式防火捲上ヶ戸

〔特許大野式シヤツター〕

主要製品

大野式シヤッター

大野式ルーブルシヤッター

大野式融金付自動閉鎖戸

大野式工場用軸承

大野式轉子入軸筐・戸車

各種防火扉・鋼製建具類

應用特殊機械類設計製作

東京市大森區新井宿七丁目

株式會社不二製作所提携

株式會社 大野製作所

東京市芝區三田四國町二番地・電話三田(45)三七三七三七三八三七八七

取付出張員詰所・大阪市此花區上福島中二・電話福島(45)五八八

一枚のルーフイング・一滴の瀝青をも使はず而も絶對防水の新工法
トタン・スレート・陸屋根如何なる屋根の雨漏りも完全且つ迅速に手直出來る修繕材



陸屋根斷面

スレート屋根防水斷面

輕量屋根斷面

◇戰時國策に應へ如何なる屋根の故障も雨漏りも簡單に手直し出來る修繕材

1. 糊狀液狀に分れ兩者の合理的配合に依り遺憾なる修繕目的を達す
2. モルナイト自體寒暑の影響を受けず龜裂脫落無く耐久力半永久的且黒色スレート色、灰、錆、白、綠各色あり
3. 施工簡易素人にも簡單に使用出來る

◇ルーフキング防水層に依らず一滴のアスファルトを使用せぬ新時代の簡易防水工法

1. 熔融せるアスファルトを使用せざる爲現場で煮焚の必要なし
2. モルナイトは氣溫に對する感度殆どなく爲に龜裂剝離を起さず絶對完全防水となる
3. 新築工事の場合の外既設防水修理の場合も大小に不拘自由に修繕可能
4. 施工上特別の技術を必要とせず

御照會の節は「建築と社會」廣告の旨御申添下さい。詳細カタログ仕樣書送呈

特殊塗料と建築材料

大阪營業所

大阪市西區土佐堀船町16

電話土佐堀(44)3208 振替大阪13903

會　　告

本協會定款第十七條、第十八條及第二十條に依り昭和十四年十一月二十九日開會の評議員會に於て理事、會長、副會長、常務の選擧を執行致しました結果下記の通りであります

（當日常務の職務分掌を頭書の通り互選）

理事 會長	片岡　安氏	理事 副會長	今林彦太郎氏
理事 副會長	坂　靜雄氏		
常務（主記）	伊藤正文氏	常務（主記）	北垣熊之介氏
常務（主記）	玉置豐次郎氏	常務（主記）	三浦　茂氏
常務（主記）	藪中一良氏		
常務（主計）	岩尾保衛氏	常務（主計）	桐本楠雅氏
常務（主計）	米倉威夫氏		
常務（編輯）	龜井幸次郎氏	常務（編輯）	北川正彌氏
常務（編輯）	棚橋　諒氏	常務（編輯）	政岡基次氏

（五十音順）

昭和15年1月

社團法人 日本建築協會

大阪都市計畫防火地區圖を頒布す

今回下記內務省告示に依つて大阪の防火地區が廣範圍に渉つて追加指示されましたに就いて、同防火地區圖を次の通り實費にて頒布しますから御入用の方は至急お申込下さい

大阪都市計畫防火地區圖(二萬分ノ一)1部

- **實　　費　15錢**　(外に送料3錢)
- **送金方法　振替**　(振替口座大阪39975)

內務省告示

大阪都市計畫防火地區追加變更ノ件

昭和十年十月二十八日附議　議事第一一九號　第六〇四

內務省告示　第百八十八號

大正十二年七月十三日內務省告示第二百二十七號大阪都市計畫防火地區追加變更ノ件

昭和十一年四月四日內閣ノ認可ヲ受ケ昭和十一年四月二十九日ヨリ之ヲ施行ス其ノ係關圖面ハ大阪府廳及大阪市役所ニ備へ置キ從覽ニ供ス

昭和十一年四月九日

內務大臣　潮　惠之輔

申込所　社團法人 **日本建築協會**

建築と社會

第23輯　第1號　昭和15年1月發行

一月號

目　次

皇紀2.600年を迎えて……片岡　安（1）
2.600年を迎えて……大島三郎（3）
皇紀2.600年の初頭に當りて……中澤誠一郎（3）
皇紀2.600年を迎えて……山田　守（4）
皇紀2.600年を迎えて……木村榮二郎（6）
年頭所感……新名種夫（7）
2.600年を迎えて……瀧本義一（10）
紀元2.600年を迎えて……中野順次郎（11）
迎年祈世の御題を拜して……岩尾保衛（11）
戰時下の新年を迎ふ……龜井幸次郎（13）
卒業生就職の狀態を通じて……中野順次郎（15）
防護室に就いて……設備委員會（23）

☆紫烟室☆

中支の戰線より（詩）……恒岡俊行（38）
ぎようにんべん……中筋麻芳（39）
生命保險と住宅問題……諏訪一郎（41）
戰時體制版……小宮賢一（43）
工場の高層化……伊藤甫（44）
讀者……堀口甚吉（45）

☆文獻☆

會員劇場設計の規準……堀口甚吉（47）
都市構築の基本形態……後藤典夫（54）
本邦都市發達の動向と其の諸問題……東京市政調査會（56）

☆古建築新抄☆

古建築の四季……藤原義一（　）

☆新建築欄☆

日本・助松郊外學園（大阪）
外國・フインランドの國會議事堂（フインランド）ヒルデンのヒツトラー・ユーゲントの家、Fritz Schumacher 教授古稀の祝、マインツのドイツ鐵道本省の增築、ヒツトラー・ユーゲントの勤勞隊宿舍、ヴアイエルの警察スキー練習所（ドイツ）Macclesfield の看護婦寄宿舍（イギリス）國立フアシスト社會擁護協會駐在所・シシリー島カタニヤの裁判所・ゼノバの聖マルチエリーノ教會堂（イタリー）Castle Village のアパートメント・ホワイトプレインズ病院・シカゴの住宅・イリノイ州のスプリングフイールドの電話會社（アメリカ）イギリスの化學工場（英國）ウイスコンシン大學の紀念劇場（アメリカ）

會報……（60）



社頭に祈る

皇紀2600年を迎えて

工學博士
本會々長　片岡安

“一に中華民國の反省を促し、速に東亞の平和を確立せんとする”と云ふ御勅語を拜し奉りてから早くも第三回目の新年なる皇紀 2.600 年を我等は迎えたのであ

る。が然し聖戰は今も尙ほ續いて居るのを忘れてはならぬ。而も千變極まりなき歐洲戰局の行くてを見守りながら萬難を排して事變處理に邁進せねばならぬ重大なる年を迎へた譯なのである。かゝる時期に於て我が建築界の前途を眺めるならば、我々は想像だもしなかつた程の大轉換期に遭遇して居る樣な氣がする。而も此輝やかしき 2.600年を契機として今や轉換期の最高潮期に直面して居るのではあるまいか。

何故なれば、我が日本帝國現代の文化は過去七十年の永い年月の間に潮の如く押寄せて來た歐洲文明の爲めに、固有の傳統的文化の混亂をば民族的自覺の上に反省し且つ新文化の建設に努力せねばならぬ時期に直面して居るからである。

我が日本の國民的生命は肇國このかた一貫した不斷の發展を續け、而もそれが周流充實して今日に及んだのである。此の間幾度となく外來の文化に禍ひされたのであるが、大和民族はよく大化革新と云つた如く常にかゝる災禍をば克服し、民族的自覺を昂揚し續けて來たのは歷史に徵するまでもない。然るに明治の維新を契機として西洋文明の思想的重壓は稍もすれば世界に誇るべき皇統連綿として絕ゆるところを知らない皇室の尊嚴をば忘れ帝國臣民たることさへ無視する樣な思想的危機に直面し、大正の末期から昭和の初めにかけて外來文化の思想的災禍の最高潮にあつた事は、吾人の記憶に未だ新たなるものがあらう。だが然し日支事變を契機として大和民族特有の愛國的熱情を持つ赤誠は東亞の新秩序の建設と云ふ民族的使命の自覺と共にかゝる危險なる外來思想の再檢討、再吟味を要求して來たのである。而して我が民族が古來より繼承して來た傳統的文化の確認の上に新日本の建設と東洋的文化創造への力强い出發が開始されたのである。此の意義深い劃期的な時期に際し皇紀 2.600年は輝かしい希望を乘せて到來したのである。

此の時に際し、かゝる時代的意志を表現する都市建設とそして新日本建築の創造とが開始されねばならない。都市建築は何日の時代でも時代を反映しない事はなかつた。故に此の新文化の建設に重要な役割をはたすべき都市建築は常に東洋的傳統的な日本精神が基調となつて表現されなければならないのは論ずるまでもない。何故なれば精神と形態とは常に相伴はねばならぬものであるからである。今や國是が必要とする都市建築が內地に大陸に起らねばならぬ時にあたり、我等は最大の努力を以つて新しい民族的建築を創造し以つて國威を世界に闡明せねばならぬ。此處に建築報國の眞意義があるのではあるまいか。

二千六百年を迎へて

大島三郎

毎朝起き出でゝ柔かな陽光を浴び、新鮮な空氣を吸ふ時、心自ら新となり何となく眞面目な神聖な氣分となつて、迎ふべき一日の計りごとをなしかく行はんとする心構えになるものですが、年新なる元旦に於ては、この毎朝の心構に勝るや大きなプランと心構とが自然と生れて來るものである。皇紀2.600年と云ふ更に大きな時流の標識に載され鼓舞された人の心は、毎日々々の新な心構えよりも、毎年毎年の心構えよりも、よりづうつと大きな心構えを持つのが自然であると思ふ。——何も毎朝でなくとも、何も新年でなくとも何も2.600年を迎へた時でなくとも、人間は常々自省し得來の正しき自分の發展の道線を見上げなくてはならないのであるとも云へるが、勿論それはそれでもよいが、時流の標識、標識に醒めては、自分の發展の道をうち迎ぎ見透し、それを正しくよく歩むべき身仕度を改める事もよい事と思ふ。我々建築家に各自の進むべき正しき道を、うち仰がしめ、それに向つて身仕度を改めさする事は、誠に本誌の善良なる企である。

行き詰つたものには破壞作用が生じ、其の破壞作用に續いて新建設が起る。2.600年を迎へし吾々日本人が、よきプランに總力を傾注すべきは大陸の新建設である。これは我は行詰つてゐた日本人の爲の建設でもあるが、又行き詰つた支那人の支那人の爲の建設でもある。又世界の文化に寄與貢獻すべき東洋新文化の大建設として有意義なものでなくてはならない。

我々日本の建築家には、其の建築的な東洋新文化建設が課せられてある通り、我々遞信建設家には、遞信建築に關する東洋新文化建設の責任が課せられてあるのであつて、我々は多年其の事に當り技を練つた專門建築家を大陸の其の需所に分ちて、其の建設に努めんとしてゐるのであるが、此の時流の大標識「皇紀2.600年」によつて覺醒、我等の進路を新にうち仰ぎ、その旅裝を固め度いと思ひます。

皇紀二千六百年の初頭に當りて

中澤誠一郎

2.600年の昔、神武天皇天業弘恢の偉業を偲び奉り、日本今日の非常時局に思ひを致すとき、時には胸躍り、時には感迫り、此の時に生れ合はせたることこそ寔に男子の本懷であると切に思ふのである。

紀元2.600年の初頭に當り我等は、湧き起る此の感懷を暫く抑へて靜かに思はねばなら

ぬ。單なる御芽目度ではない單なる御祝ではない。それは一億國民が靜かに日本肇國の精神を新たにし、一億國民が一死盡忠を期する悉々たる聲でなければならぬ。大義を實踐するといふことは我々として何を爲すべきことであるかと思はねばならぬ時なのである。自己の脚下を見ねばならぬ。そこから盛り上る勇氣こそ2.600年にふさわしい生きた力である。

我々は最も謙虛でなければならぬ。

功をあせり、功に激するも謙虛を缺ぐが爲である。利を貪り、他を陷るゝも然り、內に和を缺き外に侮りを買ふも亦然りである。謙虛は即ちまことの根基であり、道德の本源である。若し道德地に墜ちて何の爲すところあらんやである。我々は敢て他を顧みて言ふを要しないのであるが、試みに眼前に橫はれる最も手近の例を見ても徒らに鼓腹して慶祝の意を表すべきでないのみならず凜然として死生の岸頭に絕し、一億國民が堅く手を握り合ひて一言を發せざるもの之れ年頭の最も崇嚴なる慶祝であると思ふものである。

我々は建築家として爲さねばならぬ多くの事を持つてゐる。皆重要なことばかりである。だがその中には必ずしもすべてが重要でないのみならず、時には、從來の惰性から來る錯覺もないとはいへない。唯重要なるが故にその打開を求むるその前に、何故に重要なるか、果して亦その考へ方に誤りはないかと謙虛な氣持で反省せねばならぬ。謙虛な氣持からは必ず眞實の判斷が出來るであらう。建築界擧げて斯く反省した結果は期せずして無言の內に手を握り合ふことが出來るであらう。そは必ずや日本肇國の精神に生き、大義の實踐に外ならぬであらう。非常時日本に貢獻すべきものは自然に此處から出て來るであらう。

我々建築家はその方面を問はず、老若を論ぜず紀元2.600年の年頭に當り謙虛に靜思して斯界の行手を見つめ兩頭を絕して手を握り合ひ度いと思ふ。

皇紀二千六百年を迎えて

山田守

Der Mensch ist etwas, das uberwunden soll.——ZARATHUSTRA

あらゆる生物はダーウヰンの云ふた如く進化しつゝある。人間も自然の法則に從つて進化發展しつゝある。

人間界に於ける様々な相剋さへも生物界に於ける生存競爭の様に、そしてそれが生物界の進化發展を促すが如く、人間界の文化發展に力を與ふるものである。

平和は何人も希望する所である。そして其平和の時代に色々の文化が進展しつゝある。

しかし其の平和であつた機構が古くなり相當に無理を生じて來ると、その無理を平和裡に是正する事を成し得ない場合には、破壞作用として戰爭の如き人間同士の相剋が發生する。この人間同士の相剋は好ましきものではないが、誠に止むを得ないものであつて、より高度の文化的大建設の大事業を意味するものである。かくての破壞行爲はその積み上げらるべき建造物の大いさと其の文化高度によつて價値が決定され人類文化發展史上には意義を生ずるものである。

我々の過去の文化は我々の過去の時代に適切なるものであつたであらうが、それは今日の文化でもなく又明日の文化でもあり得ないのである。それは今日の文化建設に又明日の文化建設に大いに役立つ事があるにしても、直ちに今日の文化でも又は明日の文化であつてはならない。我々は一日も過去の文化に或は今日の文化にすらも低徊する事は許されてゐないのである。昨日の我に飽きない者は明日への發展向上の力を失つた者であり、昨日の文化に安住するものは明日の文化を創造するに足らざる者である。我々は昨日の我を反省して明日の我に足らざる所と適せざる所とを自覺しなくてはならない。我々は昨日の文化を認識して其れが明日の文化に缺けたる所を見鑑め其の革むべき所を感得せなければならない。そして今日の文化建設は一段と高度を增し、明日の文化建設は今日の文化建設よりも更に一段と高度を增さなければならない。かく人間文化は絶えず超克さるべきものである。

我々建築家は日本建築史上に於て、神社建築の原始的素朴的美觀に感銘し法隆寺唐招提寺の佛教建築の大陸的日本建築美に打たれ或は桂離宮修學院の日本化されたる木造建築美に共鳴した。又支那建築史上に於ては萬里の長城の雄大性に或は大同とか龍門の石窟の偉觀さては天壇とか明の十三陵等の壯觀に感動した。この我々建築家の日本建築史上に於ける大陸建築史上に於ける過去建築文化への感動は尤も事であり必要な事である。この過去建築文化上の長所美點を充分に今日の建築文化に咀嚼消化の上これを吸收し再生することは必要なる事である。而して他の一面に於ては現代建築文化の觀點より日本建築史支那建築史を再吟味し十二分に其の缺點たり弱點たる所を洞察し觀破し之を根絶排除せなければならないのである。

「皇紀二千六百年を迎ふ」……これ日本文化及び東洋文化の一大反省、批判、清算の機會である。そしてこの好機を得て今日より明日への東洋新文化創造の準備を整へなくてはならない。

明治以來の我々建築家の仕事を大觀すれば新舊歐米建築の輸入の範圍を超ゆる事少く、或は過去日本建築清算に努めたる範圍を超ゆる事少なしと云ふべきと思ふ。國內を顧るも過去の建築を清算して新たに明日の建築創造に奮起すべき秋である。又大陸建築の明日の意義ある建設も破壞作用を行つた日本の建築家の責任であるが、この機會に近年支那大陸に於て行はれた建築を觀すれば、過去の支那建築を近代構造に移動せる如き低徊模倣の建

築に過ぎなかつたのであり、或は歐米先進國の殖民建築である。

我々日本の建築家は今ぞ東亞の舞臺に立ち上つて明日の高度文化を持し且つ東西古今の建築樣式を清算し超克したる建築創造に當らなければならない秋である。而して明日への東亞の建築創造の大舞臺は誠に廣大にして、又世界建築文化の競爭場でもある。我々日本の建築家は個人的にも又全體的にも奮起せなくてはならないのである。過去の英米人の建築した大陸建築は決して尊敬すべきものではない。かの靑島を絲と文化建築とのオワシスと化した獨逸の建築にしてもそれは殖民建築の一例に過ぎないのではあつたが、今や大陸の低徊建築を破壞し大陸の殖民建築を排除して、眞によき明日の大陸建築を創造を開始するに當つて、これを指導するに足るべき良質の建築家が奮起して大陸に赴く事が必要な事である。出稼ぎ建築家丈では歐米殖民建築家にも叶はぬ事となるのである。今や日本の第一級の建築家の奮起を必要とする。又何んと云ふても大陸は廣大であるから、建築建設に日本建築家の大量參與すべき事も必要である。戰爭と同じく兵數が相當に物を云ふ事になる、建築家たる者一度は大陸の土を踏むべきである。次に又我國建築家の總力を發揚して大陸建築に傾注する爲には大陸に直接に赴き之に參與する建築家のみならず、老人とか弱體とか或は色々の事情で內地に殘る建築家が相當あり、其の所謂銃後建築家の中には立派な學識經驗を持つてゐる者があるのだから、この內地の學識經驗者の力も又大陸建設の計畫に集め出來る丈大陸建築創造の銃後の後援をさせなければならないと思ふ。

この銃後後援の爲に本會に於ても建築學會に於ても、又は建築士會に於ても或は土木建築協會等に於ても、大陸建築の重責を痛感し大陸建築に關する委員會を起し委員會を活躍せしめて出先との連絡を計り手を携へて大陸建設の爲に總力を發揚すべき秋である。

今にして日本建築家が覺醒奮起しなければ明日の大陸建築は再度歐米人にリードさるゝ事となり、戰には成功しても文化戰では從ふ結果となるのである。又今にして大陸建築の用材を大陸に於て生產する方法を講ぜなければ美しき日本の山野を荒廢せしめる事になるであらう。

人間の生活は絶えざる向上の一路を辿るべきものではあるが、今は東洋再建の大切な秋であり、折しも皇紀2.600年と云ふ日本文化の大精算の機會に出會ふたわけである。我々日本の建築家の上に大きな責任がどしんと重かれてしまつたのである。まつたく我々日本の建築家は今こそボヤンボヤンしてゐられないではないか。大反省の好機皇紀2.900年を迎へたる日本建築家の肩には明日の大陸建築創造の大重任がかゝてゐる。

【我等は今日迄の大陸の建築を超克せなければならない】

皇紀二千六百年を迎へて

木村榮二郎

若し人間が十進法で數を勘定してゐなかつたならば、2.600といふ數字も2599などとい

ふ數字同樣に極く平凡な數字であつたかも知れないが、幸ひ十進法で勘定して居たゝめに2600といふ數字は我々に慶賀の意を催さしめる底のきつちりとした感じを與へるのである。つまり紀元2.600年と雖も今迄我々の過して來た多くの年々と同じ樣に平凡な日々が流れて行くのであらふから、それに對する所感も唯平生の所懷に過ぎない譯なのである。

言ふ迄もない事だが、大陸の建設に對し今日本はその全運命を賭けてゐるのであるが、建築家としても之に全力を打ち込むべきであり、又こうした大きな建設の時代に偶々建築家として存在するといふ事は當然我々の大きな喜びである筈なのである。

惟ふに日支間の眞の融和は建設によつてのみ成就し得るのであるが、しかもその建設たるや未開地にでなく、既に5.000年の文化を有する土地に行ふものであるから、何等かの意味でそれに對し文化的に拮抗し得るものでなければならず、我々建築家の責務も重且つ大と言はなければならないのである。

今日本本土に於て溫室咲き的に育つて來た日本の建築が大陸に進展して行くといふ場合色々の問題がある譯であるが、何よりも第一に日本に東亞をカバーしリードして行き得るほどの立派な建築の體系が存在してゐるであらふかと云ふ事が氣懸りである。

例へばドイツ人の靑島の經營の場合を考へると、彼等は假令陳腐なものであるとしても一通り完成したヨーロツパ建築の規範を有してゐたので、それによつて、一應壯麗なスペクタクルを有する街を造り上げたのであつた。

日本人はどうか。正直の所、日本內地に於てすら美しい街は存在してゐない。日本の代表的な街だといつて外國人に銀座通りを案內出來るであらうか。銀座の無秩序さ低俗さは實に其儘日本の建築的貧困さを物語つてゐるものである。我々は新京の建築を批難する前に、あの程度の事しか出來なかつた日本の建築界を顧るべきであらう。大陸の建設に直面して、日本は先づ日本內地の建築的貧困さに呆然たらざるを得ないのである。總ては——日本內地も含めて——これからなのである。

しかし我々は只唯悲觀のみをしてゐるものではない。寧ろ大いなる期待をもつてゐるものである。それはこの異常な時代の澎湃たる流れ、大いなる壓力によつて日本の建築は今こそ本當のものとして產れ出るであらうといふ胎動を感ずるのである。こふいふ機會にこそ長い眠をとつてゐた日本の偉大な力、强力なる姿が現はれて來るであらう。我々は自分自身の手によつてそれが顯示されるべきだといふ期待と信念とで心躍り身戰くのを禁ずることが出來ないのである。

年頭所感

新名種夫

紀元2600年を迎へるに當つて、先づ思ひ出されることは、事變前萬國博やオリムピツク

などの記念事業の計畫に胸を躍らせてゐた建築界のことどもである。

それ等の開催に伴ふ觀光客を當て込んで計畫せられたホテルだけでも數へ切れない程の數に上り、早いものは既に工事に着手したものさへあつた。

帝都の催物に呼應して、各地方で計畫せられてゐた紀念事業に至つては、多過ぎて既に記憶の埒外に出てしまつた程である。

だがそれ等の華かな夢は、支那事變といふ前古未曾有の國難の爲に全く跡形もなく消え失せて、今我々の目前にあるものは、強力な統制と物資の不足とであり、30年の苦難が豫想せられる文字通臥薪嘗膽の時代となつた。

餘りにも華かな豫想を伴つたものであるだけ、今2600年を迎へるに當つて、誠に感慨無量なるものがあるのである。

だが、飜つて考へるに 2600 年はこの爲に一層その意義が深くなつたとも言へるとも思ふ。

神武の建國は決して華かなお祭騒ぎの中に行はれたものではなく、數限りなき艱難を克服することに依つて成就せられたこと勿論であつて、今日我國が東亞の盟主として、大陸に行ひつつある建設の指導精神は、とりもなほさず神武建國の精神であるからである。

この意味で、今日の苦難こそ2600年を迎へるに最もふさはしいものであるとも言へるのである。

缺乏に耐え、苦難を凌ぎつつ、而も常に聖代の有難さを謳歌する心こそ、我國民の傳統であり、これこそ紀元2600年、年頭の心構へでなければならぬ。

☆　　☆　　☆

以上の如き心組みを持つた上、扨この年頭から主張して置き度いことが 2、3 ある。

☆　　☆　　☆

その第1は物資の問題である。

全ての物資は本年に入りて一層窮屈になるといふことは、政府も專門家も口を揃へて唱へてゐる所である。

1つの物資の不足は他の物資の不足を招き、原因が結果となり、結果が更に原因となつて、結局に於て、全て建築界へ悲觀的な材料となりつつある。「大風が吹いて桶屋が繁昌する」といふ論法を聯想せられるのが最近の物資の狀態である。

鐵の事は當分當にする方が間違つてゐやうが、セメントの不足は一體何うなるのだろうこれは土木建築界にとつて鐵よりも一層重大な問題である。鐵は少くとも今日程度の供給があれば、何とか木造建築はやつて行けるのであるが、セメントが得られないのでは建築は全く不可能である。

この狀態が本年も依然續くものとすれば、木造建物建築統制規則などの効果に待つ迄も

なく、平和的な建築は木造まで全く休業である。木造建物統制規則の坪數制限に對して、無筋コンクリートの建築に最後の活路を求めんとしてゐた建築界も、セメントの不足に依つて全く雪隱詰の形となつた。

セメントの不足は結局石炭の不足に原因する。石炭の不足は一體何に原因するのであるか。

北支の炭鑛の巨大な埋藏量に就いては聞くこと既に久しく、今度の事變に依つてそれは既に我國權益の埒内にある筈だ。理由はいろいろあるであろうが、手の屆かない鰻香は、空腹者にとつて却つて刺激になるばかりである。

昨年の初頭、政府の物動計畫のほんの一端が公表せられたが、それだけでも國民は將來への期待に於て、心構への上に大に明るさを見出し得たのであるから、本年も政府は年頭に上の計畫の進捗狀態を發表し、更にその將來への見通しを國民に了解せしめることこそ精動にも增して必要なる事柄であり、建國紀元2600年の劈頭に政府の國民に向つてなすべき最も有効適切な方策である樣に思ふ。

☆　　☆　　☆

本年度の業界に於て、今一つ明確に豫想せられることは、住宅難が益々激化するであろうといふことである。

これに對して、木造建物建築統制規則は小貸家住宅の建築を助成するかの如く一應は考へられるのであるが、一方家賃の抑制と建築材料の騰貴とは、家主をして小貸家よりも更に簡易なアパート——名稱はアパートであるが、實質は我々の學生時代の下宿屋の外觀を洋風にし、内容を一層殺風景にしたものに過ぎないものに走らしめる傾向が多分にある。

事實、木造建物統制規則が公布せられてより、町外れに、何とこの種の建物が殖えつつあるかを見れば、この傾向は既に事實となつて現はれつつある樣である。

所で、最近或結核專門の醫者が、アパート居住者に結核患者の特に多いことを指摘し、アパート建築の現狀の憂ふべきを說いてゐることは大に注目すべき事であると思ふ。

今日簇生しつゝあるアパートは、言はば密集住宅の最後の形式だとも考へられ、從來の小貸家住宅よりも更に質的に低下したものであつて、國民體位の向上を最も必要とする今日、こうしたアパートの助長に依つて住宅難の一部を解決せんとするが如きは、大に考へなければならない事柄だと思ふ。

筆者は歲末所感にも少しくこの問題に觸れておいたのであるが、國民保健の爲に、厚生省に於て1日も早く住宅建築の最低限度の規定を制定公布し、市街地建築物法の空地面積や採光面積などの規定の不完全さを補ひ、室内の換氣量、濕濕度、照度等までを含む衛生學的な基礎に立つて、住宅の質の低下を防止せられむことを、年頭更めて主張してやまないものである。

☆　　☆　　☆

次は防空施設の問題。

事變の始ると同時に、都市防空施設の重要性が强調せられ、その速かなる整備が盛に唱導せられたのであるが、豫算の關係からその實施計畫は極度に縮小せられ、それが更に資材の不足に依つて阻まれ、今日實施の狀態は誠に心細き限りである樣だ。

それに、我國都市に於ける防空は畢竟するに防火であるとの立前から、防火改修事業實施の計畫が立てられてから、我國の防空設備は一應落着く所に落着いたかの感を伴つて、本格的な防空施設促進の熱意が、非常に薄らいだ樣に感じられるのである。

特に、先んじて防空施設の必要を强調して來た建築家の間に於て一層この感の深いのは大に反省しなければならない樣に思ふ。

木造都市の防空はとりもなほさず都市防火であるといふ建築家の主張は、防火改修の實施に依つて、兎も角も實行に移されたものではあるが、それは我々の主張の最低限度であつて、決して理想ではないのである。

都市を空襲の慘禍から救ふ爲には、建築家の協力を必要とするあらゆる施設の完備に俟たなければならないことは言ふ迄もないことで、理想は遙かに高遠な所にある筈である。

防火改修はその理想へ到達する迄の、差迫つた現狀に對する應急處置に過ぎないのであつて、これに依つて熱を冷すべく、防空施設は餘りにも長期を要する難事業である。

都市武裝促進委員會結成當時の我建築協會のこの問題に對する熱心さを想起し、最近本格的防空施設への一般建築界の熱情の冷却を省み、建築協會としても本年はこの方面に更めて出直す必要が大にあるのではないかと思ふ。

二千六百年を迎えて

瀧本義一

國を擧げて奉祝すべき紀元2600年を迎へて思は肇國の古と現世との間を往來する。日向の國を御發途東征の軍を進められ或は浪速に、或は生駒に或は熊野に幾多の艱難の道を履ませられて大和國橿原の宮に宮柱太く建てさへ給へるその昔と現世とは、其間2.600年を隔るとは云へ多くの似通へる點がある樣に思はれる。今や皇軍將兵は支那海を押し渡つて大陸の各地に轉戰し興亞の聖業達成に精進して居る。地域は攝河泉紀和に較ぶべくもなく廣大で聖戰の規模も亦懸絶甚しきも皇運の隆盛と民族の發展を阻む惡魔を膺懲する聖戰たることに變りは無い。底津岩根に搖ぎなき東洋平和の宮柱が打建られるも近きことと信じて居るが、もしもその礎を本年に据えることが出來るならばこれに勝る紀元2.600年記念事業はないと考へる。

紀元二千六百年を迎へて

中野順次郎

技術者不足の打柄私は一つの國策を提案したいと思ふ。

義務教育としての小學校（國民學校）から出る全國の少年は國家の大切とする人的資源であるが、之等の素材を如何に伸し如何に職業づけるかの國家の方針に對してである。

農業、工業、商業、其何れをも必要とすること勿論なるも、日本としての國家産業上に一つの目標と方針がある筈で、この目標に向つて全國の少年をば如何なる方面に如何なる方針で伸さうとするのか、文部省にしても、厚生省にしても確固たる方策を樹てゝ貰はねばならぬ。

そこで私の考へて居るのは、小學校を出た者を大部分實業教育の出來る様にして置くことである。理想的に言へば徴兵檢査迄の就學年限等と云ふことになるが、それよりも最短年限で三年でも四でも兎に角實業學校へならば工業であれ、農業であれ必ず入學出來る様にしてやることである。場合に依つては國家が學資の補助をしてやつて學習の便宜を與へることにすれば良い。其爲に中學志願者や更に高等、專門學校志願者が減ることは一向差支へないと思ふ。中學から上級學校に進まうとする者は、將來國家の指導的地位に立つ者を考へて嚴選に嚴選する必要もあるから、寧ろ入學難のある程いゝとも言へる。併し從來の如く學力ばかりで無く、體力、人物、家庭、素質、等の要素を入れての入學難であるならばである。

國家の要求する産業の方向に從つて先づ實業教育を施して置けば、國民が如何なる場合にも産業戰士であると同時に如何なる場合にも第一線の武人にもなれると言ふことであつて、國家百年の大計であると信ずる。

技術者の不足の如きは最早問題では無く、恰も中隊長が無ければ、小隊長で然らざれば分隊長が代つて指揮するが如く、日本の國に農業戰士として上等兵から伍長、軍曹、あたりの者をどしどし養我せなければならないと思ふ。

迎年新世の御題を拜して

岩尾保衛

皇祖が大日本帝國を建設せられ賜ひ、皇統連綿として天穰と共に窮り無く、肇國の理想

に準應して遠く萬世の礎を定め賜ひ、天下無比の精華は順々乎として宣揚せられ、光輝ある一億國民は肅々として國運の大盛に浴し、聖代の高德に對し絶大の歡喜を感じ、無邊の皇恩に應へ奉らんことを期するものである。

この光輝ある紀元2.600年を迎へて感極まりなきの時に當り、今や世界を擧げて動亂の渦中に漂ひ、所謂世界の一大轉換に直面して居るのである、我國は日支事變第四年を迎へて大東亞建設の覇業は着々としてその緒につき、只々邁進の機運に際會し、國家總動員の大令下に國民の自制自肅、萬難を排して國憲の尊嚴に服應し、國策の重鎭に服從し、國難を排撃することにこれ努めねばならぬ重大時機である。

然るに現今國策の一端として實施せられたる物價統制の趣旨を逆用して、暗中飛躍即ち暗取引を行ひ、暴利を占斷し、國難重疊の中に民心を不安に陷れんとするが如き行爲に至りては、天人共に許すべきものではない、且又統制の壁に籍口し、曲解盲同何れも物價の釣上策を廻らし、物貨の惜賣若しくは不賣等陋惡手段を弄し、國民はこれ等不德輩の爲に日々恐怖を受ける樣であるならば、この間に於ける眞の狀感を調査研究して民心の不安を解消し、安業とその生活の安定を計るの道を講じ、國民の恐怖生活狀態を脫せしめ、初めて眞の擧國一致がなし得らるゝものであつて、而して國民をして長期聖戰に耐へ得るものである。爲政者たるもの宜しく調査研究せられ萬遺漏なきを期せられたいものである。曩に

明治大帝御製の中に

神垣に朝まゐりしていのるなる
　　國と民とのやすからめ世を
國民のうへやすかれとおもふのみ
　　わが世にたえぬ思なりけり

を拜し、かくも民臣の上に慈愛を垂れ賜ふた大御心の程に對し奉り、國民は皆唯々かしこさに感泣するばかりである。然も今や國民は營々として萬難を排し、國難克服の熱誠に燃え、而して國家の長計に準應し、大東亞の建設に邁進し、倍々國威宣揚に精勵を致してゐるのである。

飜て大東亞建設の爲に我々土木建築業界が重要なる使命を有し、社會政策上その實務の重大なるものがある。即ち大陸建設の第一歩は實に我々が第一線に立たねばならぬことである。何と言つても通信、交通機關である。海に陸に通信通話、鐵道、橋梁、道路、その外各種產業機構に就ても總て其基礎的施設は、我々の双肩に負はざるものはないのである。過般應招せられて北支に在る同人よりの通信によれば、在留邦人が領事館に米の切符を持ち、一日一人宛二合の交附を受くべく肅然として列を爲して居るといふ、而もその肅然たる姿こそ日本人の強さであると、斯の如く見解をなしたる我等の同人あることが又日本人の強さでなければならぬ。

幸ひ我が建築協會はこの間に處し、多數の技術者と團體が動がさること二十餘年の歷史

を有する我々の協力を以て多々倍々大陸百年の建設大計を誤らざらんことに努力したいものである。

茲に紀元2600年の光輝ある歴史を有する我々國民は、倍々緊嚴以てこの國難に處し、赤誠以て愛國精神を發揮し、大東亞建設の理想に邁進し、最も記念すべき曠古の光榮に對し敬虔と感激の意を致し　皇祖の御大賢に奉答し、國體の精華と萬世不窮の皇運を扶翼し奉るべきであつて、國民試練の最好時機たることを閑却してはならぬ次第である。

☆

建設の民祈りけり初灯り

☆

戰時下の新年を迎ふ

龜井幸次郎

東亞の新秩序建設をめざして我等は過去２ケ年半を國家の總力を擧げて戰ひ續けて來たが、今や意義深い皇紀２.６００年を迎へたのである。だが然し第一線は今も尙、戰ひを續けられて居る事を忘れてはならぬ。即ち我等の父は、兄弟は、友人は第一線の戰場に於て此の輝かしい新年を、戰ひの內に或は休戰の內に迎へたのである。此の時に於て年頭の所感を記述するのは全く感慨無量のものがある。

今迄の「年頭の感」と云ふものは「本年も例年の通り賃餅仕り候」の後に來るものとして、慣習的に目出度、目出度の外交辭令で事が足りた譯であるが、本年の年頭の感はそんな生やさしいものでは許されないものがある樣な氣がする。即ち國民は擧つて事變處理に向つて眞劍の頑張りの爲め再出發を必要とする年であると同時に、更に加はつて來るであらうところの統制經濟の重壓に耐へ得るところの國民的〝日本精神〟の涵養と「僞裝日本精神」の陶汰とを最も必要とする新年でもある。故に戰時體制下の新年の所感として、戰時經濟の體制下の技術家を反省してみることにする。

戰時經濟の體制を整へる事に關する急激なる要求は今日まで潛在的に存在して居つた諸問題を、急速に現實の問題として表面に押し出して來た。即ち平時に於ては、只單に學問上の可能性としてのみの存在として僅かに存在の意義を持續して來た多くの問題が、戰爭目的遂行の必要から現實の問題としてクローヅアツプされて來たり或は昨日まで極めて緩慢な步調で自然的に處理されて來た諸問題が、一擧に强化されて而も短期間內に早急に解決が要求されて來たのである。

此の事は戰時體制が齎した新たなる事態とも云ふべきものであらう。即ち戰時體制下に

於ける我國の新經濟組織は金より物それ自身がより大切なる事態を漸次吾人の實生活の內に具體化せしめつゝあるのを痛感するであらう。國家全體の爲には個人主義的私經濟へ相當の干涉と壓力とが期待されてよいのは今更喋々の必要もないのである。而も此の新態を中心に想像だもされなかつた多くの困難も吾人は旣に覺悟を定めて居るところであらう。

國際情勢の逼迫したる現下の事態に對應しながら亞細亞民族への輝しき黎明としての東亞新秩序の建設の故に、我々は國家の總力を以つて聖戰目的を達成せねばならないのである。此の必然的の要求は生產力の擴充、資金の調整、物動計畫等々と云つた類ひの銃後生活に於ける種々な制約が身邊に益々押しせまつて來たのは又已むを得ないところなのであらう。

東亞の新秩序建設の中樞指導力が日本であり、我が大和民族の宿命的使命であるとするならば、我々は其處に限りなき民族的名譽と責務とを感ぜねばならない、而して虎視耽々としてそのすきを狙つて居る白人勢力を壓める爲の偉大なる力として我が大和民族の實力が存在せねばならない。だが然し斯くの如き名譽ある輝しき使命は一體何によつて達成さるべきであるか？それは云ふまでもなく、大和民族として生を此の世に受けた人それ自身で、それは決して物それ自體ではない。人は常に天與の自然的資源を開發し工夫し且つ又之を人類福祉の爲に使驅するが故に今日の驚くべき科學的文化世界を築いたのである。此の故に東亞新秩序の建設は少くとも亞細亞民族の幸福と平和への建設の爲の科學と技術の動員を意するものである。だが然し間違へてはいけない。何故なれば科學と技術と云つてもそれ自體では何等意味をなさないからである。即ち我々の生活に利便と幸福を齎すであらうところの近代科學の粹を集めた機械にしたところで、機械それ自身では科學でも技術でもない筈である。それを適當に運轉し得る人間の衷介を得て初めてその使命なり、その本來の機能が滿足されるべきものであるのは申すまでもない。此處に於て我々日本人が如何に重要なる使命の內に此の東亞の新秩序に對處して居るかを知る事が出來る。

大陸に展開された天與の資源開發も、國內に於ける生產力擴充もそして聖戰目的遂行に必要なる凡ての方策も、要するに大和民族としての我々が中心となつて之を推進さすべきものであると云ふ民族的自覺が最も必要である樣な氣がする。

今日の日本に取つて斯くの如く重要であるところの人的資源に對する國家の關心は、必ずしも贊成し得るものとは云へない。何故なれば、斯くの如き重責を負ふ科學の又は技術の戰士は、常に國家へ眞に奉仕する道が阻まれて居る樣な機構で働かされてゐるからである。此の故に我々は何日しか小乘的な技術家氣質と云ふ特種の氣風を養成し、今や此の氣質に禍され、興亞に技術家としての大業の責務を擔ふところの元氣に缺くるところのあるのを遺憾とするのである。殊に我々建築を以つて國家に奉仕せんとする者は須く時難克服に必要なる元氣と精神とを以つて國家が要求して居るところの事變處理に向つて、今年こそは更に忍耐力を發揮して建築報國へと邁進しやうではないか。

卒業生就職の狀態を通じて

中野順次郎

昨年度（昭和14年度）の建築界を省みて種々の記錄的な問題を擧げられるが、其の中で建築技術者の不足に關するものは最も大きな問題であると思はれる。

此の三月を期して 2000 人に近い卒業生諸君が補充されることにはなるものゝ斯程の充員では到底追ひつかぬ現狀となつてゐる。依然として本年はこの問題の爲めに對策を考へる必要があり、更に將來に對する根本的の解決法をも覺悟してかゝらなければならぬ次第である。昨14年度を通じて工事請負業方面から各官廳、軍部方面、軍需關係工場方面に及んで要求された建築技術者は全體的延數に於て一體何程であつたらうか。

これに就いて適確な數字を擧げることは困難であるとしても一應檢討してかゝらねばならぬ出發點ではあるまいか。

昨年度は各方面に於て種々と論議されるところまでは至つたが未だ充分の資料も示されず從而技術者養成の方法に就いても具體的な方針が樹つたとは云へない狀態であらう。

茲に新卒業生への採用申込の有樣を通じて２ツ３ツの資料を報告し何等かの參考に致したいと思ふ次第である。

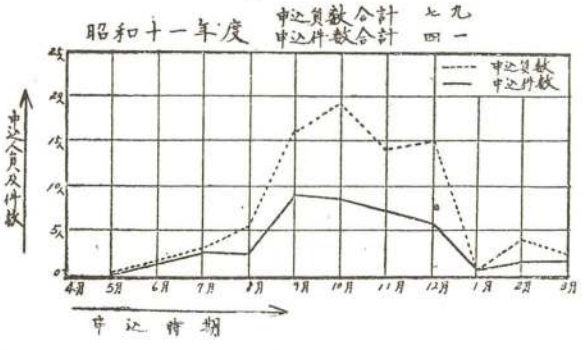
即ち新卒業生に對する申込數だとか、或は申込んで來る方面だとか、亦これに對して就職せんとする卒業生の傾向等についてこゝ數年來の實狀を詳細に調べてみると、一つの事情が判然と認められるのであつて、更に技術者補充の方策に及んでも一つの見當が得られるのではあるまいかと思ふ。

☆採用申込數增加の有樣

本年度私の科に申込みのあつた數を數年前からの分と比較してみることにする。

昭和10年度頃から次第に增加の傾向にあつた申込數は１昨年度（12年度）あたりから目立つてゐるが、更に14年度は激增してゐることが表の示す通りである。（第１表參照）

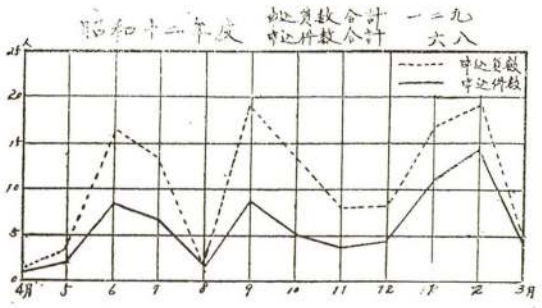
第 1 表

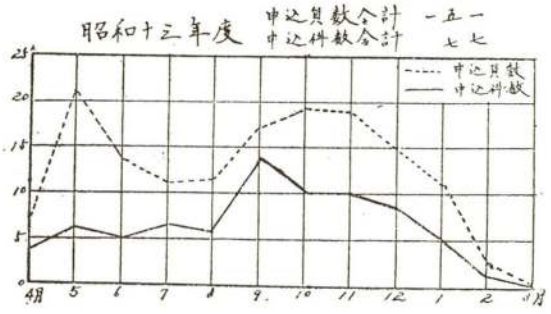


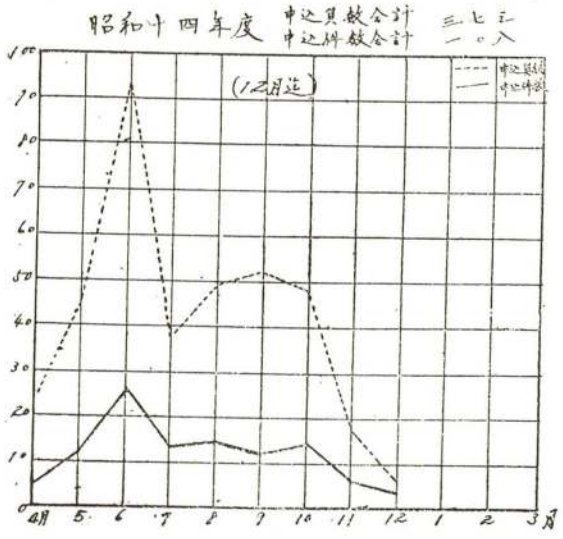
表示の通り點線が申込數で實線は申込先の件數となつてゐるが、79人→129人→151人→373 人と增加の一方である。

之を申込のあつた月別に考へてみると更に變化を認めることが出來る。

從來は年が明けて二月か三月頃でないと建築科の生徒には申込が







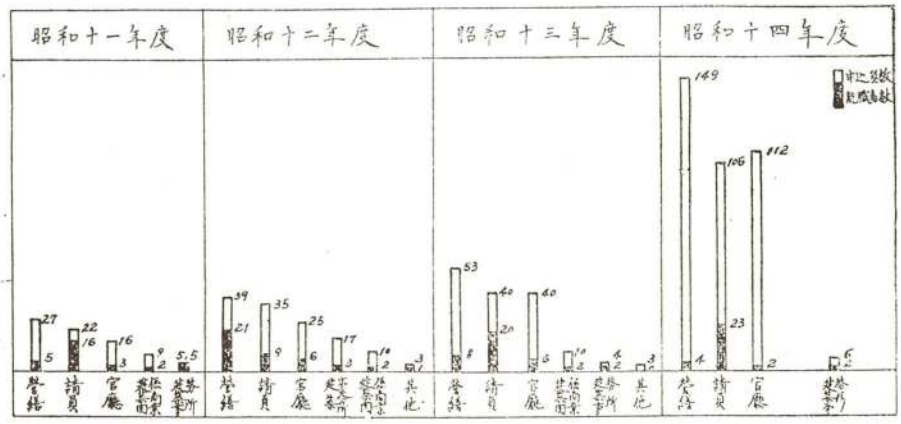
無かつた。従つて申込數の最も多いのが二月三月の頃となつたもので時には四月五月の次年度殘りになつてこの狀態を示すこともあつた位ひで、これが建築界特有の就職現象であつたのである。

然るに最近は次第に時期が早くなつて來て、10年度は12月から1月に、それから10月—9月となり更に1昨年度は5月6月頃に繰上げられると云ふ有樣であつて、昨年度の如きは既に6月頃を以て最高の申込數となつた程に變化して來たのである。

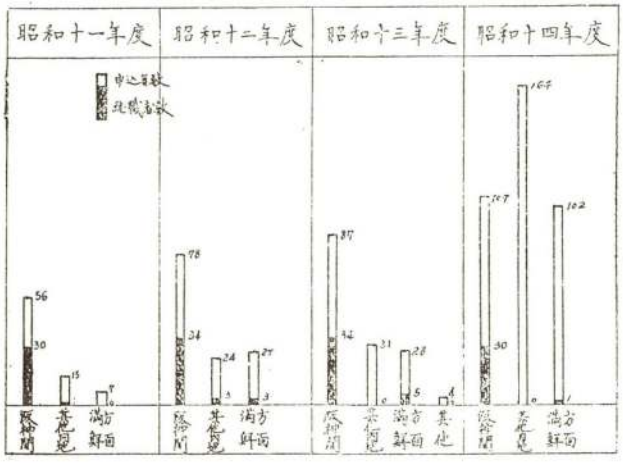
斯樣の理由は機械とか電氣、化學方面の卒業生に對する豫約申込の必要があつたことに關連してゐると考へらるゝも既に卒業生配給の統制を受けてゐる之等の專門では豫約の出來なくなつた昨年度に於てすら此の有樣であることからみると、矢張建築界自體が人不足で困ることに原因してゐたことも明らかである。尤もこゝに注意すべき點は卒業生を得ることが次第に困難であると云ふことになると自然採用申込をする側でも早手廻しとなり、從而要求數にも割增しをつけて置くと云ふ結果になる筈であるから、この儘の數字を建築界其儘の要求狀態とみることは當らないであらう。併し乍ら一面には最早申込んでも駄目であるからと云ふので12月以降は各方面共申込を斷念した向も相當にある樣であるから、これを豫想すると11月以降の後半の申込數は尙實際よりは少くなめとなつてゐると觀測することも出來るのではあるまいか。

斯くして次年度廻しとなることから遂一年と累加の傾向をとることにもなる譯である。

第 2 表　仕事別 申込員數・對ス就職者數



地方別 申込員數ニ對ス就職者數



（第 3 表）

何れにしても

昭和11年度……79人で就職希望卒業生の約２倍

昭和12年度…… 129人……約３倍強

昭和13年度…… 151人……約４倍

昭和14年度(12月迄)…… 373人……約10倍

の有様で14年度の如きは激増の人數で注意すべき現象である。

尙採用申込先の數も41⟶68⟶77⟶108と次第に增してゐるが、之は卒業生を要求する範圍が次第に廣くなつたことを物語るもので、殊に14年度の如きは朝鮮、滿洲方面からの要求が非常に多くなつてゐるのである。

これに就いては次第に廣くなる豫想を下すことが出來るから北支、中支方面からの申込も追々起つて來ること勿論である。

☆申込先の種類

卒業生を要求して來るのは如何なる方面からが最も多かつたか。之も數年來の有様を第2表に依つて比較してみることにする。(第2表參照)

昭和11年度と12年度は余り變化しないが、13年度から傾向が變つて14年度には非常な變化を認めることが出來る。

甚だしく變つたのは設計事務所方面が殆どなくなつて會社の營繕方面が激增し、更に官廳方面の要求が多くなつて來たことであつて、これの原因は更に深く考へなければならないものがある。

先づ設計事務所方面は從來の如き設計事務がなくなつて比較的手數の要らない工場建築とか一時的假設建築物が多くなつた關係上所員の增加を要しないどころか次第に減らさなければならぬ様な有様となつた。當然新卒業生を雇入れる會社も必要もなくなつたと云ふのが一般の事情ではあるまいか。或は深く建築事務所なる存在性が現狀の如き社會狀態に於ては眞先に仕事を得られなくなる様なことになつてゐるのか、兎に角工事請負業方面の狀態に比較して非常なる相異があるのである。

一般官廳方面は戰爭の起ると同時に人員を少くして技術者を工事業界に或は軍方面に移動した關係上、今度は逆に入手不足で仕事が忙しくなつたと云ふことを聞くが、其結果新卒業への採用申込が多くなつた點もあると思ふ。最近になつて官廳方面からの要求が目立つて多くなつたのは更に仕事もどしどしやる必要が起つたのかと想像するが、過去の有様に比較して非常な變化である。更に會社の營繕については軍需に關する產業界の發展から建設的仕事の激增したことであつて從來から第二義的の方面であつたのに、こゝ數年間は最も申込數が多いと云ふ現象である。

尙附加へて考へれば建築專門で無いところから建築科の卒業生を申込んで來ることである。特殊な方面であるが、例へば化學工場、機械製作工場の一員として建築卒業生を採用し、將來は工場の經營的業務の方に進めてみたいからと云ふ様な要求のあることである。これの數は極く僅かで問題にはならぬが從來なかつた現象である點が面白い。これは恐らく化學や機械等の技術者不足から來る餘波と見られる。併し一面には之を建築卒業生の足場にして進むことが出來ないとは云へないから、申込先としても又建築技術者としても將來の研究を要する部門ではあるまいか。

併し何んと云つても毎年申込數の定つて多いのは工事施工の會社方面であつて、これに就いては14年度の現狀として何人あつても足らぬと云つた始末であるらしい。

從來は2名採用とか3名募集とかであつたものが14年度の如き何人でも構はぬからと申込まれるのが普通の有樣である。

實際に工事をやつて行く上に第一線に立つて働くところの現場技術員がなければ困ると云ふが、尙何人程の技術者があれば日本の建築工事は滿足して施工出來るのであるか、これこそ誠に重要な點であると思はれる。

☆卒業生の希望方面

卒業生が就職したい方面はどんなところか、更に都市工業學校生徒の任地希望はどうか未だ卒業生の配當統制を受けてゐないから各自の都會や希望を考へて就職先を撰ぶことにはなつてゐるものゝ、卒業生の進路にも一つの傾向がみられる。これは學校の方針や家庭の事情に依つても變る筈である。

學校としては何處も同じだと思ふが國家の現狀に應じて最も重要な方面に就職する樣すゝめる樣にしてゐることは當然である。

併しこゝに注意すべき點は機械方面とか化學方面の如く軍需産業と然らざるものとが判然としてゐる有樣が建築界に於ては非常に異ることである。

軍需關係の建物ばかりを施工してゐる會社があるかと云ふとこれは定つてゐない。それなら軍關係とか軍需工場の方面以外に就職したものゝ職場は何處かと云ふことになると、學校の現場もあれば兵舍の工事場もある。斯樣な事情の下に置かれてゐる卒業生が進む方面がどうなつてゐるか。數年來の模樣を第二表で比較してみる。(第二表參照) 申込數の下に黑く塗つた部分が就職者の數であるが、殆ど一定してゐるのは工事施工の會社方面に就職する者の割合であつて、13年度迄は全數の半分がこの方面を希望してゐるのである。

殘りの半數が局廳とか營繕、事務所等に分れてゐるが、14年度になつては大多數が工事請負方面に就職してゐる現狀である。

これについて私は中等程度の建築卒業生は先づ工事現場に勤務させるのが順當では無いかと考へる次第である。

最も有効に働かせるには此の元氣一杯の卒業生をば先づ工事に從はせること、これに依つて實際の技術を習得しつゝ文字通り建築技術者の第一線に起つと云ふ考へである。

勿論官廳の監督技術者とか設計事務所の頭腦本位の技術者になることも進むべき道ではあらうが、併し官廳とか設計事務所では年齡とか常識の條件もあつて相當長い間を補助的な仕事を受持つことが必要と思はれる。

亦この方面の仕事は仕事としても實は可成むづかしい筈のものであつて年の若い判斷力の未熟な者にとつては無理な點が多いのではないかと思はれる。引較べて工事施工方面では種々な係があるから現場主任とか工事主任の下に統制を受けつつ、先づ部分的の係の技

術員として一人前の仕事を覺え技術の習得をすることになつて、卒業生としても進み易いところがあるのではあるまいかと思ふ。

結果からみて殆ど全部の者が工事施工の第一線を希望する様になつた。之が卒業生の進むべき常道の如くになりつゝあるが、私の學校のみならず他校に於ても同様ではあるまいか。然りとすれば採用申込先の不足數は自然會社營繕關係、官廳方面と云ふことになるがこれは將來採用側も養成の方面も共に研究すべき問題だと思ふのである。

次は卒業生の任地別であるが、第三表は就職先の本據が何處にあるかに依つて調べた數であつて卒業生が實際に働いてゐる職場はこれとは大分に異る。(第3表參照)

採用申込先が相當廣い範圍となつてゐるにも不拘大都市に本據を持つ會社からの要求が依然として多い關係上、どうしても大都市中心に採用される傾があるのは致し方が無い。尤も建築企業の性質からみてこれが當然であるのかを知れないが、同じ請負關係の會社へ就職するとすれば內地の大都市に本據のある場合を希望することが一般の傾向になつてゐるのである。

或は都市の卒業生と地方にある學校卒業生との相異もあらうが、將來卒業生の分布に就いても一考を要する點ではあるまいか。

☆建築技術者の補充教育

技術者の不足に對する問題は既に種々の對策が進められつゝあるとも云はれるが、茲に注意すべきことは學校教育に依る技術者養成と、小學校から直接職工的に育てゝ行く方法との比數關係である。

補充を必要とするから直ぐに速成で建築從業員を養成せよと云ふ論議に對して私は少し考へものだと思つてゐるのである。

建築に關する技術は機械に於ける仕上工とか旋盤工と云つた様に餘り基礎智識の無い者にでも直接練習だけで極く短期間に役に立つ程度の工員では間に會はぬ點が多分にあることを區別しなければならぬ。

例へば左官職人とか石工、大工とか假に斯様の工員を養成することが出來てどんどん補充してみたところで、是等の集合だけで建築物の施工は出來るものではない。

職人と材料を集めてこれに頭腦的な施工計畫と監督指導者があつて一つの建物が出來上る。これが建築の特徵である。

昔に於ては今の建築家と云ふものが無く棟梁程度で家が出來たと云ふが、これは現狀と非常に異るところの狀態に於てこそ出來たのである。

この時分には建物の使用目的からみても住宅とか神社、寺院、町家、民家の程度で極く僅かの種類のものしかなく、亦この使用目的が殆ど研究されるなぞと云ふこともなかつたから設計計畫の必要も現代とは非常に違ふ。亦之を組立てるにしても木材、竹材、土壁の程度で新材料取扱の研究が單に職人の經驗だけに委されて居つた有様である。

斯様な昔の狀態と現在の建築施工の狀態とを比較したならば建築技術員と云ふものを如何に養成してかゝらねばならぬか誠に判然としてゐる筈である。

現在の建築技術なるものは昔に比較して非常に範圍の廣いもので化學にしても物理學、數學、或は更に經營能率學、經濟學に至るまで一應は建築技術員に必要なる基礎教育でなければならぬ。

建築技術員が不足してゐるからと云つても小學校卒業の者を二年や三年の教育で補充技術員にするなどと考へたら失敗であること云ふまでもない。併し一面熟練工的職人も是非必要であること之亦最近の大きな問題になつてゐる狀態である。從而現狀の建築界に於ては昔からあるところの熟練職人もどしどし增さなければならぬと同時に學校教育に依る科學的教養を受けた建築技術者も非常に必要なことになるのである。

學校教育に依る殊に中等程度の工業學校に於ける建築技術員の養成について其機關を大いに增加させなければならぬと同時に、熟練工的職人が如何にしたら養成出來るかも併而研究されなければならない。

更に注意してかゝるべきは社會の側であつて工業と云へば機械、技術者と云へば電氣や機械に關する方面とばかりを想像する常識のあることは困つたものである。

若しも想像の如く機械、電氣や化學方面のみに、小學校卒業生が向ふと云ふのであれば建築關係技術者の補充には非常な支障が生ずるのではあるまいか。

場合に依つては國家の學資補助の制度を設けるとも必要數だけの者は養成し補充せなければならぬことになるであらう。

如何に教育機關が增加されたとしても、或は如何に大工や左官の養成設備が開かれたとしても從來の如く社會の子弟が建築の專門を重要視しないとなつたらどうするか。勿論斯様なことは速急にどうと云ふことも出來ないから自然の成行に放任して置いても次第に時勢が解決すると考へることも出來る。

併し建築だけが一步づゝ遲れて進むと云ふ様なことは決して正しい常識とすべきでは無く亦社會の發展上にもよくない現象であると信ずるものである。

この事は明治初年以來建築教育の始められた時代から、即ち建築技術家なるものが社會の一部門として存在する様になつてからの問題であるべきであつて、今日迄解決の出來てゐないところではあまいか。

建築自體は太古の頃から既に衣食の業と共に起つてはゐるが、建築技術家なるものは他の工業方面技術者に比べて比肩出來難い程の出發點に置かれてゐると思はれるのである。

生產工業としては後れてゐると云へばその通りであるが技術其の者としては實に悠久の歷史を受け繼いでゐる點で既に立派な藝術作品までも殘してゐる有様である。

技術者を補充するに當つて、斯様な性質を考慮に算入してかゝる必要があることを忘れてはならない。

新しい卒業生諸君が出て活躍せんとする建築界に對して私は以上の如く觀察してゐる次第である。

昭和15年は正に皇紀2600年に當る際でもあり、この機會を捉へて建築界にも種々と重要な仕事があると思はれるが、先づ技術者のことに就いて、之が養成方法、社會的立場及發展の途、或は社會からの關心等のことに關して考究の必要を感ずるものである。

更に進而は歷史の建築から躍進して現代工業への建築としての健全なる發達を目標とし更に其範圍とする大日本の廣さをも考へてお互建築人の覺悟を新にしたいと念願する次第である。

神都（宇治山田市）に綠地帶計畫を實施

內務省ではかねて現行都市計畫法中不備の點を改正すべく計畫局に命じ鋭意改正原案の作成にあたらせてゐたが過般完成を見また大藏、農林等の關係省との打合せを了したのでいよいよ來る20日過ぎこれが審議機關である都市計畫中央委員會を開催、右改正原案を附議檢討、正式決定の上來る七十五議會に提出その實現を期することゝなつた、現行都市計畫法の改正は防空と國民の保健衛生向上の建前より最近その重要性を增せる綠地帶計畫を現行法中に包含せしめんとするものとして、當初は綠地法として單行法の制定が企圖されたが愼重研究の結果、現行都市計畫法中に包括することゝし以て綠地帶の實現を容易ならしむると共に實現せる綠地を永久に維持保存せんとなすもので改正原案の骨子は左の如くである、尙當日の中央委員會には右の他宇治山田市の神都計畫實施に當り今後現行都市計畫法を以ては遂行上種々の支障を來す惧れがあるので同計畫に對しては關東大震災の復興に際し適用せる如く特別計畫法を適用するため右議案をも上程することゝなつた

1. 綠地帶計畫區域內における工作物の制限をなすことゝ綠地帶の實現を容易ならしむる爲その計畫區域內に建築物その他の工作物を設置する事を禁止若しくは制限する規定を設け又一旦實現した綠地帶の區域內にても永久に綠地として保存する事を規定する
2. 綠地帶に必要なる土地の收用を認むること—綠地帶用地は總て買收の建前を採り事業執行者に對し土地收用權を認むる。

防護室に就いて

※

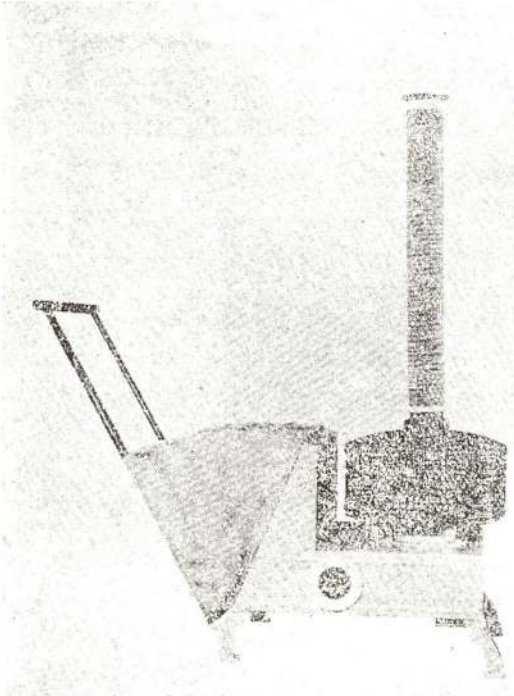
昭和14年　設備委員會報告

前大戰に胚胎する世界的の現狀不滿は遂に歐洲に再び、爆發して益々擴大の徴を示し日廻ましい國際情勢の變轉を前に各國は何れも日夜軍備の充實に狂奔しつゝある。

近時の戰爭には空襲は大要素となつて居り、從つて防空事業は國土防衛の最も重點と云ふべく之が完備は銃後國民の責務となつて來て居る。

我國は諸種の條件に於て世界の各國と趣きを異にする所非常に多く、防空方法も此の特殊性を大いに考慮しなければならぬ上に、近時には建設資材の不足といふ重荷が加はり、大いに研究成果の實施を阻害して居るのであるが、今日は理論より實行の時代であつて、徒に理論の完璧を待ち得ず、現狀にて實施し得る範圍の防空施設を一先づ迅速に普及せしめる事が焦眉の急ではないだらうか。この趣旨に依り當設備委員會に於て、現時の防空方法各論の動向を檢討して、我國の現況にて適用し得るものに就ての概要を纏めてみた。以下の內容甚だ獨斷に流れる感が多いが、資料の一端にでも供する事を得ば委員會の幸甚とする所である。

1. 空襲方法と其の威力



※頁37參照　　（家庭用防空用濾過器）

我國が戰時に如何なる程度の空襲を覺悟すべきかに就ては、各方面の權威者に依つて既に論議されて居るが、それを概括すれば大體次の樣なものとなるだらう。襲撃目標となる憂のある我國の大都市は、歐洲諸國に於けるものと異り敵の航空基地よりの距離比較的遠く、地勢上その他の環況に依り航續距離の大きい重爆撃機の樣な大型機の襲撃を受ける率が最も多いとされ、その機數は支那事變の經過等に鑑みても多い時で100機內外、一般に30機乃至40機の連續的襲撃が普通豫想せられる。

この空襲機數の內、飛行距離の

遠大、地理上、天候上の支障或は防空兵力の阻止等の爲に所期の目的地に迄到達し得るのは多くともその約½位とされ、尚目的地上空に滯空し得る時間も1時間以上に亘ることは稀と考へられて居る。爆撃の方法としては、水平爆撃と急降下爆撃とがあり、後者の方が命中精度、効力共に良好であるが、重爆撃機の様な重量の大きい機では低空爆撃や急降下爆撃の實施は困難とされ、從つて相當高度を保つての水平爆撃に依る事とならう。

爆彈には普通爆彈、燒夷彈、瓦斯彈等の種類があり、普通爆彈の中にも破片爆彈、地雷彈破甲爆彈等の種類があるが、一般構築物の對稱となるのは地雷彈であつて、その大きさは15kgから 1ton 以上にも及ぶものがあり、尚彈量を增すに從ひ威力も增大する結果將來は更に彈量を增加するものと思はれるが、航空機の性能、爆撃法、命中精度、彈量と威力との相對關係等より見て、特殊の場合を除いて一般に200kg 內外限度にても500kg位が對策の目安とする事が出來るとされて居る。

爆彈が目標物への落下した場合には、彈種の落下の際の運動量、被彈物の性質等に應じて侵徹續いて爆破の作用を起し、更にそれに依る震動、爆風破片の飛散等の爲相當廣範圍に被害を及すこととなる。

今200kg地雷彈の落下の場合を例に取つて見れば大體次の如くなる。

侵徹作用……被彈物が　鐵筋コンクリートの場合　20cm ～ 30cm の深さ
　　コンクリート　30cm ～ 60cm
　　土　壤　3m ～ 12m

爆破作用……鐵筋コンクリートの場合に於ても半徑約30cmの球狀範圍內が粉碎されその外周の更に1.5～2倍の範圍內が震盪力の爲崩壞作用を起す

爆風に依る風壓作用……爆發點を中心として半徑約45m 位迄の範圍內の木造バラック建は大破し100m位にても强固な硝子板を破壞し、被害は半徑約 140m以內に及ぶ

震動作用……爆發に依る震動は可成の强さに達するが時間的に見て短く被害は局部的である

燒夷作用……極めて燃燒し易いものがない限り火災は起らない

燒夷彈は特別の目標に對しては10kg、20kgの大型のものも用ひられるが木造街に對しては1kg、2kgの小型のものを多數同時に用ふる場合が多いであらう。

大型燒夷彈の場合は普通の鐵筋コンクリート屋根板を貫通するが、輕量燒夷彈の場合は鐵筋コンクリート建築に對しては被害がないが木造家屋に命中すれば屋根を貫き、天井又は床上に落下して發火する。

瓦斯彈もなるべく被彈區域を擴げる爲、50kg 以下が多く 100kg を超ゆるものは餘り使用されない。

瓦斯彈は炸藥量が少く、從つて構築物に對する破壞威力は僅少ではあるが、塡充された

瓦斯は風力も自らの擴散力に依つて相當廣範圍に擴がつてその性能を發揮し、地上40mの高さに及ぶ事もある。

瓦斯を以てする空襲には此の他に持久性瓦斯液の雨下法があり、効果を前者より更に廣範圍に及し得る利があるが、無風の時は比較的低空でなければ利用出來ず、我國都市の攻撃には低空空襲は困難であるから、瓦斯彈に依る方が多いとされて居る。瓦斯の滯留時間は氣候、風力、市街の密度等で異つて來るが、一時性瓦斯の場合は極めて短時間であるが持久性瓦斯の場合は一週間に達する事もあつて將來は持久性瓦斯を多く用ふる樣になるのではないかとされて居る。

2. 防護室設置の方針

防護室は空襲に際してのあらゆる人命上の危險より免れしめる目的を以て設置されるのであつて、將來益々增大されるだらう所の攻撃手段の發達さをも充分考慮に加へて、之に抵抗し得られる樣に施設される事が必要ではあるが、實際には前述の如く現在に於て、爆撃の一般狀況として想定せられる 200kg 地彈の落下の場合にさへ普通の鐵筋コンクリート造建築物の屋根及床 4.5 層位を貫通すると云われ今之を防ぐ爲に、屋根に耐彈層を設けるとすればその厚さ1.25m以上を要する事となる。

その上我國の如く地震の對策をも講じて居く、必要のある場合には屋根荷重に應じて建築物全體の構造を增强する事となる故、攻撃程度に伴つて防護力を增して行かうとすれば今後の建築物は驚くべき頑丈なものとせねばならず、經濟上、或は建物の利用上より見て特殊構造物を除く外は一般的に完全に施設する事は到底出來まい。

この如く爆撃に對する防護室の効果は現在にても相當限定的となるを免れないが、市街の全區域の建物が必ずしも同一程度の防護力を必要とするとは思はれず、又大型爆彈の直撃を被る危險は特殊重要建築物か若しくはその極めて近接する區域のみと考へば、一般市街の場合には相當條件が輕減されるのではないだらうか。故に絕對的防護と迄は六ケ敷くとも、空襲に依る被害を出來る限り減殺する爲には市街の區域に應する建築物の種類、重要さ、密度、爆撃を受ける危險の程度等を基礎としてある防護の目度を假想して、我國の國情に即した所の經濟的な防護室の施設を廣く講ずる必要があらう。

防護室の具備すべき條件としては耐爆、耐毒、耐火の三點であるが之を現在我國の都市の實際の建築物に就いて檢討して見る。

市街地建築物の適用を受ける區域に於ての鐵筋コンクリート構造物は、殆んど耐震構造となつて居るから、屋根をある程度耐爆的に補强すれば中型以下の爆彈の直撃にも抗し得るとされ、窓、出入口等の開口部を爆風、破片の飛散等に對して適當に防護するならば、耐爆耐火の性能は大であり、更に耐毒施設を具へ得るならば最も有効な防護室を設ける事が出來る。

しかし乍ら遺憾にも現在では都市に於てこの樣な耐震耐火的建築物の數が極めて僅少で

あり、從つて此處に設け得る防護室の收容總量も全人口より見て少率であり、且建物の分布狀態も必ずしも理想的には行つて居らないから、一般市民が普く之を利用し得ると云ふ事は出來ないのである。

都市の大部分を占める木造建物は爆撃の直接對象とされる事は少からうが、重要區域或は建物の近隣地では爆撃の炸裂に依る風壓の破片等の被害を受ける事はあると思はれる。しかも木造建物は之等の爆彈の二次的作用に對してさへも充分抵抗する事が出來ないから耐爆性は殆んど無いと云つても良い。又最も想像され易い輕量燒夷彈を以てする攻撃の場合にも、被彈箇所より容易に發火すべく、且大震災の例に見る如く倒壞した家屋が火災の原因ともなり易いのであつて、耐火的には極めて脆弱なものである。

この爲に我國の木造建物街に於ける防空方法は防火第一主義が採られ、しかも火災の發生は免れ得ないものとして防護の主眼目を消火乃至は延燒防止策に置かれ、消火設備の整備、防火團體の訓練、建築材料及構法に依る木造家屋の緩燃性化等に力が注がれて居る。

又木造家屋は元來開放的であり構造上にも隙間の絶無を期し得ず、その上空襲の際には屋內の建具、襖等の燃え易きものを取脫して火災の發生を防止し、邪魔物を取除けて消火活動を便にして置く必要がある故、毒瓦斯に對する防護は非常に困難となる。

木造建物に於ても敷地の一部に鐵筋コンクリート造の土藏樣のものを設ける場合は、輕量燒夷彈、破片、爆風、毒瓦斯に對して相當有效に防護する事が出來、又家屋內の一部を周壁、天井を「ラス」張「モルタル」塗とすれば輕量燒夷彈、爆風等に對してはある程度の効果は上げられる。しかし此の程度のものは近邊に中型以上の爆彈が落下すれば、その炸裂に依る震動の爆風の爲に隙間は必ず生ずるものであるから、瓦斯に對しての絶對的防護は望めない。

以上の如く防護室としては鐵筋コンクリート建物が最も有效であるから、出來る限り高層建築物を利用して、防護室收容量の增加を計ると共に、最も危險な木造建物密集街に於ては公共用として地上或は地下式の有效な防護室を出來る丈多數設置して、一般市民の避難所に供すべきであらう。

しかし之等の有效な防護室を全市民に普く行きわたる程多數に設置する事は、實際に於ては却て容易ならぬ事であり、忽ちの實現は不可能であるから、各家屋に於ても多少の不完全性は覺悟の上で各構造に應じて適切な補強を施し、破壞又は火災に抗し以て空襲の慘禍の擴大防止に努める事が肝要であらう。

防護室の收容量が少い區域、或は永久的の防護室を設け得ない場所にては、戰時に臨時的に防空壕を設けて爆彈の破片や爆風に依る人的被害の輕減が計られる。之は廣場、道路傍等に地上或は半地下式として工作せられるので、設備は簡單であるから毒瓦斯に對しては不完全であるが、工事は容易であり、經費も多くを要しないから比較的多數の市民が之に依る事が出來、能率的な防護設備とされて居る。

3. 防護室の位置

前述の如く防護室としては特に防護專用の特殊構造物を設けない限り、鐵筋コンクリート造の如き耐震建築物を利用するのが最も効果的であるが、この場合の補強方法として最近公布された防空建築規則に於ては、高層建築物の屋根は厚さ 40cm 以上の耐彈構造とする様に規定されて居る。

40cmの耐彈層を有する場合の耐爆力は大體次の如く見られて居る。

イ）50kg彈の命中のときは耐彈層に僅に侵徹するのみで炸裂し最上階に被害を及ぼさぬ場合が多い。

ロ）100kg彈の場合は屋根は貫通し得ないが爆破威力の爲に最上階室は相當破壞されるがそれ以上の室は被害を免れ得る。

ハ）耐彈層の下側に木造架構等で充分補強すれば250kg彈の場合に於ても貫通を防ぎ得るも爆破威力の爲には最上階のみならずそれ以下の階も相當の被害を免れ難い。

以上に依ると防空建築規則に於ては50kg彈を標準にしたものと見られるが更に安全を期すときは、建物の最上階は餘り適當とは云へず要すれば防護室の位置としてはそれ以下の階を選ぶべきであらう。

爆彈が建物の側壁に上方より命中する率は非常に少いのであるが、この場合壁が鐵筋コンクリート造等の場合は、普通爆彈は下方に跳飛び壁體自身には大した被害を與へない。只窓、入口等の開口部が危險であるから、この部分を壁體と同程度の强度を有する様に補强し、且爆彈を受け止める恐のある様な突出部を造らない様にしなければならない。しかし窓の面積は普通の建物で全壁面の3割以上にも達するから、高層建築などではその窓總面積は非常に大きなものとなり、經費その他より特に重要な部分を除いては何れの窓にも充分な防護施設を備へる事は容易ならぬ事であらうと思はれる。

高空より落下した爆彈が直接窓に飛込めば大きな被害を受けるが、かゝる場合は非常に稀であらうが、直接又は跳飛に依つて建物附近に落下炸裂した爆彈の破片や破壞物片の飛散して開口部に命中する事はあり得る故、地上に近い階の開口部は少く共破片に依る被害を防ぐ位の防護施設は必要とするであらう。又高層階に於ても爆風による窓硝子の破壞は防止せねばならない。

瓦斯彈の落下の場合にはその爆破力は僅少であるから、構造主體の破壞の如き問題はなく、又瓦斯の徒なる飛散を止める爲爆風も大したものではないから、衝撃に對しての開口部の施設は前記程度で勿論充分であり、建物の外部が瓦斯で充滿された場合に於てその室内侵入を防げば良い事となる。

東京と大阪に於て行はれた實地試驗の結果に依れば、直接外壁に接する室は開口部を嚴重に閉鎖した上、隙間はくまなく目張り等の處置を取られたにも關はらず、微細な間隙を通しての瓦斯の侵入量非常に多いが、之に反して更に接する後方の室では殆ど侵入せず

前室の窓の一部が開放されて居る場合に於てさへ侵入量は極めて微量である事を示して居る、之は外壁に當る瓦斯壓が前室で減殺されて次室に侵入する程の壓力を有しなくなるものと考へられる。

この結果より見る時は同じ瓦斯防護施設を施す場合には、外壁に對して一つの室を間に置いた場合が比較にならない程有利である事が分る。又外壁或は開口部は防護の設備に係はらず、破壞口を生ずる恐れが多いのであるから防護室の位置としては直接外壁に接する場所は避けるべきであらう。

爆彈が建物の極めて近傍に落下すれば土中に侵徹し地下室或は基礎の外側にて炸裂する事となる。爆彈が屋根上の如き大氣中に開放された場所に命中した場合には、その「エネルギー」の大半が空中に消費せられるに反し、土中に於て炸裂すればその全「エネルギー」が有効となつて爆彈の最大威力を發揮し、且爆破力は弱點に向つて威力を加へる事となるから、地下室の側壁等が强固さの足りない時は相當激烈な影響を被る譯である。從つて地下室を防護する爲には屋根の場合に比してより强固な耐彈構造とし、尙その外側周圍に砂等を充塡して外壁に働く爆破威力を減殺する必要がある。

又普通設けられて居る「ドライエリヤ」も耐彈的には前記と同樣に弱點となるから、之も相當の方法を講じて出來る限り開放した場所で爆破を炸裂せしむべきである。地下室の防護は此の如く構造上、經濟上、比較的容易でない上、地質の軟弱の場所にては一朝、側壁に破壞口を生ずれば土砂に埋沒される危險も生じ、又瓦斯に對しても有利とは思はれないから、高層建築の防護室の設置場所としては餘り適當とは云へないのでなはいだらうか。しかし乍ら木造建物街に於ける鐵筋コンクリート造の小建築物の如き、破壞爆彈の直擊の憂少く、破片や爆風或は火災に對しての防護をのみ考慮すれば良い、場合には地下室は防護室の位置として有利な場所となるだらう。

木造住宅等に防護室を設ける場合は、一部の室の周圍を鐵筋コンクリート造又は「ラス」張「モルタル」塗とするが、之の趣旨は絕對的防護を期するのではなく火災に對しても此の部への延燒が比較的容易ならぬのを利用して、人員或は物質の避難に便ならしめる事にあるので、家屋內で安全な空地に面した室を選ぶべきである。

又廣場等に單獨防護室或は防空壕を設ける場合には、排水の良い乾燥した土地にて且周圍の建物の破壞又は火災に依る影響を受ける事の少い場所が條件とされる。

4. 防護室の大さ

防護室は防火及防毒目的を達する爲、外氣と完全に連絡を絕たれるから、その室內容積は想定の收容狀態に應じて不足を生じない丈の空氣量を保持し得る大きさが必要であつて萬一空氣量が不充分の恐れある場合は機械換氣の設備に依つて濾過した空氣の供給を計らねばならない。

換氣設備を具へない場合の所要室内容積は收容人員、收容時間及收容者1人當りの空氣需要量を知れば算出する事が出來る。

一建物の防護室收容豫定人員は建物の種類に應じて常住者、通勤者、外來者數の狀態を考慮して定められるが、我が國に於ては耐彈、耐火的建築物が少い關係上高層建築物の一階、二階或は地下室等の比較的街路に近い階に設けられる防護室の場合は、充分に公共防護室の意味を持つものであるから、相當外來者數を多く見込む必要があるのであらう。又高層建築物などに於ては大きな防護室を一ケ所に設けるよりもなるべく、各階に分散配置として避難時の混雜を防ぎ或は萬一の破壞に依る被害を局限すべきであつて、使用の便、收容者の統制などの上から見ても一室の收室人員は50人以内とする事が望まれて居り、同一場所に大きな防護室を設ける場合は堅固な間仕切に依つて區劃しなければならない。

收容時間は前述の如く我國の地理的事情に依つて侵入敵機の都市上空に滯留し得る時間は先づ1時間以内と見られて居る事に依り、それに多少の餘裕を見込んでも2時間位限度としても3時間位に目度を置く事が出來るのであらう。室内一人當りの所要空氣量は種々の條件或は收容者の耐力の個人差等に依つて異るが、東京に於て行はれた實驗（衛生工業協會及内務省主催の防護室避難實驗）の結果が大に參考とし得る。

實驗概況

使用防護室の空氣量＝＝86.9立方米（收容者の占める容積を除いた實際空氣量）

收　容　人　員＝＝70人

1人當り空氣量＝＝1.24立方米

	實驗1時間經過後	同2時間經過後	同3時間經過後
炭酸瓦斯含有量	1.4%	3.5%	4.7%
頭痛を起せる者	7人	10人	
息苦しき者	3人	14人	40人

防護室内の空氣は收容人員の呼吸、燈火その他の原因に依つて炭酸瓦斯及種々の有機物質の發生、溫度及濕度の增加を來して漸次不良となるが、炭酸瓦斯の增加それ自身は大して人體に有害ではないが、之の增加が空氣の不良化の認知標準とする事が出來る。普通都會地に於ける空氣中の含有量は略0.04～0.06%位であつて之が增加した場合如何なる程度迄耐え得るかは氣溫、その他室内狀況或は精神狀態に左右される所も多く、實驗と實際の場合とでは相當異るものではあらうが、上記の結果より見れば先づ炭酸瓦斯含有量3%位迄に目安を置く事が許されるのではなからうか。

1人當りの炭酸瓦瓦發生量も年齡、身體動作の靜激に依つて相當の差異のあるものであるが、普通の人が安政狀態に居るときは1時間に平均0.017立方米、激しく活動中はその2倍以上にも上るが今0.02立法米（前記實驗に於て2時間目より3時間目に至る間の平均發生量が凡そ之に當る）位を取れば收容時間2時間とせば1人當り1.54立方米、3時間使用と

せば2.31立方米の空氣需要量となる。

防空規則に於ては規模の大きい建築物に設けられる防護室及び準防護室は居室の床面積の十分の一以上の面積を必要とし、更に防護室は收容室と前室とに區別され、收容室の面積は防護室の場合は100平方米、準防護室の場合のは50平方米を超過しない事とされて居る。

東京に於ける數個の商會事務所建築物の容積は從業員の關係に就いては次の樣になつて居る。

延面積と居室面積との比率	約70%	
從業員1人當り居室面積	5～10平方米	平均7.8平方米
基準階の天井內法	2.90～3.20米	平均3.1米

今此の例の樣な建物に於て前記の空氣量を需要するものとせば、收容室の面積は2時間の使用の場合は1人當り0.5平方米、3時間使用の場合は0.75平方米となる。又防空規則を之に適用して見れば、從業用1人當り防護室面積は平均0.78平方米以上容積に於て平均2.42平方米以上を取るべき事となる。

更に規則に於ては防護室內を前室と收容室とに區分して、收容室への危險の波及を出きる丈少くする事になつて居るが、前室の大きさはその防護室が單にその建物內の居住者の避難用としてのみ使用せられる場合には、10平方米迄の內法面積で充分であるが、防護室が路面に近い階に在つて外部よりの被害者を收容し、除毒、手當等の作業を行ふ設備を考慮しなければならない場合には約20平法米內外の面積を必要とする。今建物の基準階に設けられる防護室で收容者を50人以下と考へ面積を居室面積の1/10の率に取るときは收容室のみで平室1人當り面積0.58平方米となり、前室に20平方米を要するときは平均0.38平方米となつて、前記の必要面積に少しく不足する事が見られる。

防空規則には延面積600平方米以下の一般建物に就ては別に規定されてないが、この程度以下の建物に於ても居室の1/10以上の率の面積を取れば40人～50人の收容數を準備すべき事となる故總て前記に準じたる防護室を1室は設ける必要があらう。

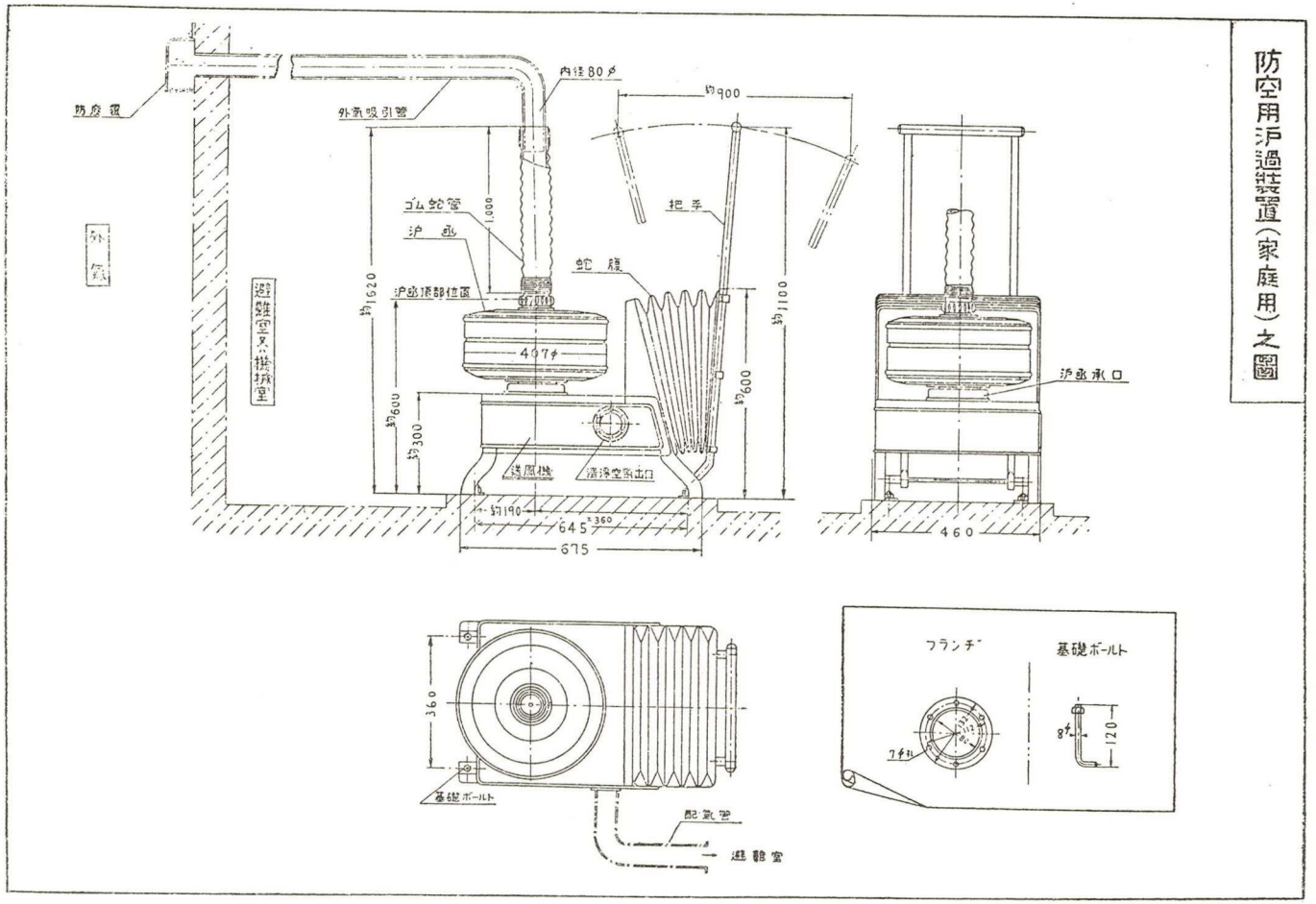
5. 防護室の設備

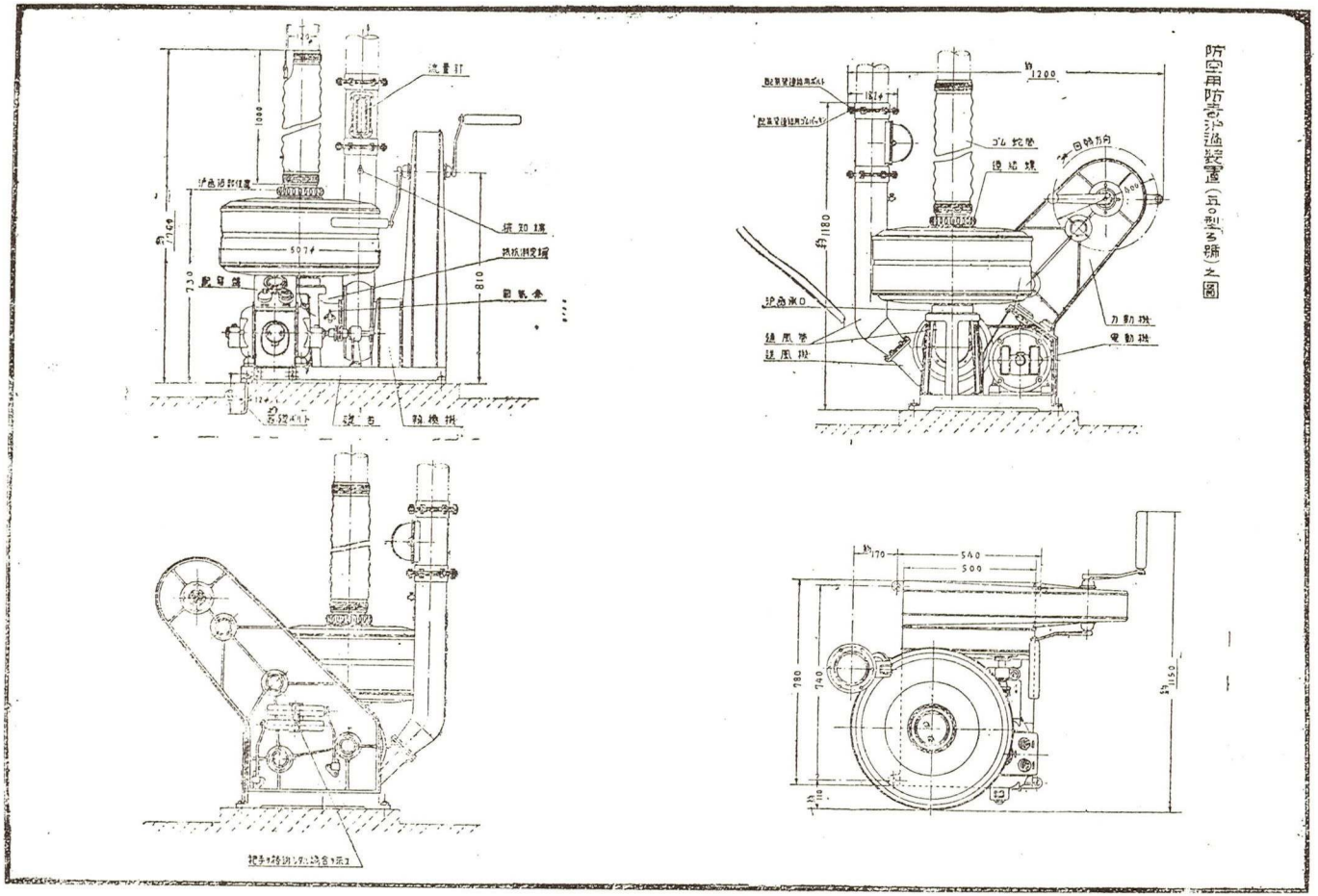
防護室の窓、出入口等の開口部は耐毒及耐彈的に有効な處置を講ずべきは勿論であつて防空建築規則に於ても開口部はなるべく形を小さくすると同時に、防護扉の類を設ける事を規定されて居る。

防護扉に就ては扉自身及び扉と外枠との間に氣密性を保たしめたる裝置の研究が種々行はれ、追々理想的のものが現はれるとは思はれるが、現時では製作に高級技術を要する事の爲に大きさ及價格上の制肘多く近時の資材の不足と共に未だに普及性を有して居らないのが遺憾である。

一般の建物內に防護室を設ける場合はその構造種類に依つて構材自身の小細孔、或は構造上より生ぜる小間隙が相當多く、防護扉に於て要求される樣な高度の氣密性を必要とす

防空用沪過裝置（家庭用）之圖




防空用防毒濾過装置(五型)之図
流量計
1000
1460
730
810
500
ゴム蛇管
連結管
回転方向
1200
1180
送風管
送風機
電動機
540
500
170
780
740
1150

る壓力差が室の內外に在る場合はこの小間隙を通過して侵入する量も非常に多い事と思はれ、大阪市の技術科會に於て行はれた防護室の實驗に於てもこの事が證明されて居る。

之等の隙間は目張その他の閉塞處置に依つてある程度は減少せしめ得るが、鐵筋コンクリート造の場合は於てさへ相當施工の入念の建物でない限り、高度の氣密を期し得ず、一般建物に於ては目張を施すと云へども、使用目張材料の透過性、張付の技術、或は建物に震動の加はれる場合の目張の强度等に想到するならば、その効果は押して知るべきであつて只無い場合よりは良い程度かも知れない。

故に防護扉の類が入手が容易にならざる限り高價な防護扉にのみ高度の氣密性を要求し之にのみ賴るは防護室內全壁面より見ていさゝか釣合を失したものと云ふべきで、開口部を出きる丈少くし且直接外壁に接しない場所に防護室を設けるべく準備する事が更に肝要なのであらう。

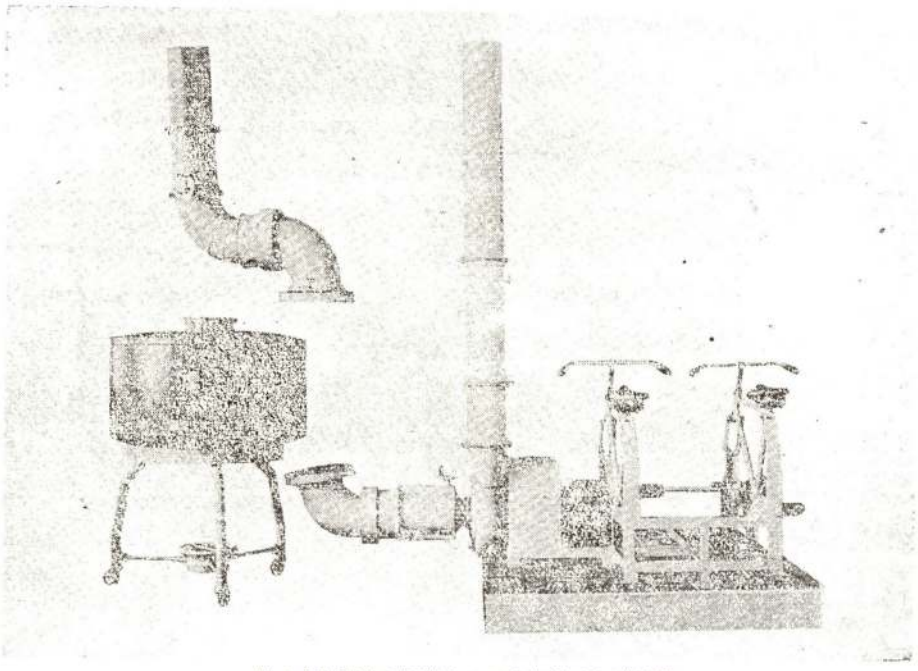
防護室の入口の扉は氣密性保持の容易さと收容者の整理等の點から一般に外開きの片開き式とする、只爆風の加はるときは最初は「正」續いて「負」の壓力を受くる故外側に締付具を附する事が必要である。

瓦斯が防護室の外面に滲浸した場合に、室內へ侵入するのは瓦斯の擴散作用爆風壓、風力等に依るのであつて擴散力は問題とするに足らず、爆風壓も時間的に瞬間であるから主として風速がその原動力となると見る事が出來る。風壓に依る侵入量は或ひは煉瓦造の建物の例に依れば4米1秒の風が壁面に直角に當つた場合には最大0.93立方米時となつて居るから、鐵筋コンクリート造の場合でもその量は無視出きぬものと思はれる。大阪附近に於ける普通の平均風速は4～7米秒であるから一般に直接外部に接する壁面は注意を要する事となる。

但し此の風速を壓力に換算すれば $\frac{2}{10000}$ ～ $\frac{6}{10000}$ 氣壓となつて極く微弱なものであるから防護室內の溫度が上昇するか或は給氣裝置に依つて室の內壓が多少とも增大する場合に上記外壓には直ちに打勝つて瓦斯の侵入は止め得られる事となる、又防護室が建物の中心部に設けられる場合は外壓は殆んど失はれる譯である。

防護室の面積が充分取得す、空氣量に不足を生ずる場合は送氣裝置を設けて濾過空氣を室內に送り込むのであるが、腰掛を用ひた收容者のみで殆んど餘地を殘さない程狹少な場合に於ても收容者1人當りに1時間0.3～0.4立法米の空氣を送り込めば3時間以上の使用に耐へ得、同時に外部よりの漏氣を完全に防ぐ事が出來る。室內壓力超過の危險は逆に室內から室外への漏氣もある事であるから先づその憂はないが排氣口を設ければ簡單に設置が出來る。

送氣量は以上の如く極く僅で足りるのであるから、送風機も極く小型で良く、出來れば收容者の人力に依るものが考案されゝば最も好都合であらう。防護室內にはその他に水洗更衣、治療等の被害者に對する救護設備、電話、電鈴等の內外連絡裝置等が必要とされる



收容人員50人を標準とした防空用防毒濾過器

が水洗の如きは場所に依りて充分に裝置し得ない事もあるから、要はその防護室の用途、規模に應じて釣合の取れた設備を工夫すべきであらう。

又便所の如きも收容時間の短い時は必ずしも必要でないだらうと思はれる。防護室の出入口は1ケ所のみとせず、防空規則にも規定されて居る如く非常脫出口を設けるべきであるが尙萬一の脫出用として破壞工具を必ず備へる必要がある。

又木造建物內に於ける防護室の如く耐毒的に脆弱な場合には個人用の防毒具を收容數に應じてある率の準備があるべきであらう。

以上は建物の外部の空地に設けられる公共防護室、單獨防護室等に於ても同樣であつて若し防護室が地中に於けられる場合は、漏氣は單に出入口のみの問題となり、防護室の位置を他より被害の波及の少い場所に選べば非常に有利な狀態となるのであらう。

6. 防　　空　　壕

一建物內に於てはその居住人員に應じて防護室を設定して、之に各種の設備を備へるか或は戰時に急速に防護室に改變し得る樣準備を講じて居る事は現下の情勢に鑑み最も肝要事ではあるが、我國に於ける現況では前述の如く良好なる防護室を設置し得られる種類の建物が非常に少く、又有効な公共防室或は單獨防護室を豐富に設ける事も短時日には期す事が出來ない。從つて有時に際しては市民の多數は臨時に設けられる防空壕の如き施設に賴る事が多いのであらう。

防空壕は一般に半地下、止むを得ぬ場合は地上に設けられ、室內天井は收容者が腰掛け

を用ひ得る程度即ち34尺位として上部に丸太板類で掩蓋を設け更にその上に1.52尺位の厚に土を積んだものであり、附近に落下する爆彈の震動や風壓或は側方の土壓を防ぐ爲內部より木材等にて補强する。防空壕の大きさは目標となる事を避ける爲、出なる丈小さくする爲に又使用時間が防護室よりも更に短い事を豫想して收容者が入り込み得る程度にて良く1人當り0.2立方米以內で結構とされて居る。

防空壕の內部は雨水の流れ込まぬ樣、又濕氣の生ぜぬ樣小溝を設けて乾燥に注意し出入口附近には土囊等を以て積土の崩壞を防ぐ事とする。

防空壕は爆彈の破片や爆風に對しての防護を主眼としたものであるから、その位置も單獨防護室同樣爆彈に依る周圍の建物の火災や、破壞等の影響を被らない空地を選ぶべきで防空壕相互の位置も萬一の被害を局限する爲に分散せしめる必要がある。

防空壕は工事も容易、經費も少いから短時日に大多數の設置を要する實察の場合には大いに有効のものと思はれ、只之が設置場所及び建設資材の充足こそ平素より夙に配慮すべき事であらう。

次に參考のため、その防護室に避難中に於ける心理狀態に就て幸ひ防空避難實驗報告中に視察員、東京帝國大學文學部心理學教室文學士眞邊春藏氏の心理狀態調査報告が衛生工業協會誌に載て居るのをこゝに揭げることにしやう。

防護室に入室後防ら30分間の狀態はどうであつたか、入室した70人が、どの人も蒸し暑い、入つてから直ぐ蒸し暑い、それから汗がどんどん出る、じつとして居ても汗が滲み出る、それから入室後30分から1時間までは迚も暑いと云つて扇子をつかふ、扇子をつかつて居れば割に樂であるが、扇子のない人は始終汗を拭て居なければならぬ。そうする內に70人で中で7人ばかりは頭が重い、或は頭痛がする、その外3人ばかりは呼吸がちよつと變になり何だか息苦しいやうな感じがするといふ。それから中には約1時間ばかり後、前よりは少し樂になつたといふものもある、大分馴れて來て前よりは多少氣持の上で樂になつたといふ人も出て來る、全くその人の個人差と云ふものが相當にあるらしい、併し全體の傾向から見れば蒸し暑い、そうして發汗が激しいといふ狀態にかわりはない。

1時間から1時間半は矢張り蒸し熱い、どしどし汗が出る、發汗が多量である、それは全部の人がそうであつて、頭が重い乃至は輕い頭痛がするといふ人が殖へて21人の多數となつた。½詰り31%の人が頭痛を訴へるやうになつて來た、それから呼吸の異狀を呈して來たものが先の倍になり6人ばかり約9%の人が息苦しくなつて來た。

第4回目の調査で、この場合は1時間半から2時間までの間この30分は矢張り蒸し暑いそれから頭が重い、この症狀を訴へるものが大變多くなる蒸し暑い、それから汗が出ると云ふことは初めから終まですつとそうである。斯う云はない人は殆どない、頭が重いと云ふ人は10人約18%の人がそれである、それから呼吸の工合が普通と違ふといふ人が14人、約20%の人がさうである。

それからこの頃になると上の方から水滴が落下し、溫度が大變高くなる、天井に暖房裝

置のチューヴがあるが其處から水が滴れてくる、それで大變工合がわるいといふ記述が相當にある。この1時間半から2時間までの間に柚を配給したが一時元氣を恢復したばかりてその後長持はしなかつたようである。一時的には効果があると云ふことは言へると思ふ次は2時間から2時間半までの間が、第5回目の調査時間にどういふ變化があつたかと云ふと〃蒸暑く汗が大變多く出るといふことは前と同樣で、その外頭が重いといふ人が21人ばかり即ち31%ばかりである、それから呼吸の工合が惡い、大變息苦しくなつて來たといふ人は303人ばかり即ち50%、つまり半分の人はさう云ふ呼吸の異狀を訴へて居る。

次に最後の第6回目の調査即ち2時間半から3時間までの30分間は60%の人は詰り40人ばかり呼吸の異狀を訴へて居る、息苦しい、頭痛がする人が⅓、即ち31%の人が頭痛を訴へる、人數は70人だが記錄の不完全の人が3人ばかり居て、パーセンテージはそれを省て計算してある、そういふ風に呼吸の異狀とか、頭痛とか、苦しいとかいふ記錄が相當に多い。今までのは70人の全體の傾向で個人個人が書いてゐる內容では年齡に依つての大差はないらしい、最低が19歲、最高が65歲だが殆ど同じ記述の內容である。唯今後多少問題となるのは極く若い人には特にひどい影響を受けて居ない、何しろ19歲が1人、20歲が1人と云ふ工合で、若い人數が餘りに少いので結論を下すことは出來ないが、若い人には比較的影響を受けないのかも知れぬ、是れから斯ういふ年齡も問題にならないかと思ふ、又小兒とか婦人といふ場合は又變つた結果が現はるかも知れぬ、それから初めから終り迄殆ど變化が何もなかつたといふ人が1人あつた。それは20歲の人で其他は全部前述のやうな傾向を呈して居る。それから測定に與へられた人で溫度その他色々な實驗に手傳つてくれた人の記述では、動くと苦しい靜かにして居た時には何ともないけれども、ちよつと立ち上つたり、ちよつと動くと苦しくなると云つて居る。であるからあゝいふ所に入ると靜かにして居れば可なり苦しくなく濟むのではないかと思ふ。

それから中には雜誌を讀で見た人がある、最初の中は普通に讀で居たが後に2時間位經つと、雜誌の理解が困難になる、讀でゐても意味がはつきり解らない、隨筆のやうな輕いものを讀んだけれどもぼやつとして分らぬといふ記述もある。又考へるのが面倒になつたといふ人があり、2時間位經つと何か考へたり色々なことをするのが面倒臭くなるといふ記述もある。それから參考のために斯ういふことをやらせて見た、この紙にかういふ圖形（　）が1600ばかり印刷されてあつて、鉛筆を以てこの半徑を延ばせるのであつた、こちらの方（　）も延ばさせると云ふ風にして鉛筆で直徑を作らせて見た、この大きさは約3ミリばかりで鉛筆で兎に角直徑を作つて行く仕事である、之を20分間やり、それから5分間休む、又20分間やり5分間休むそれを7回やつて詰り140分間皆で仕事をやつた譯になる、斯ふいふ風にして行つたら仕事の量と云ふものはどんな風に變つて行くかそれをやつて見たのである。又仕事をやつた場合に只ぼんやり座つて居るのと氣持の上どう變るかと云ふことを參考までに調べてみた。

この作業曲線とそれから平常の良い條件の作業曲線を比較すると、どんな風に影響したかと云ふことが分る、併しこの場合惡ひ條件の下に於ける作業曲線だけしか取つて居ないので、どれだけ影響をしたかと云ふことは分らないが、併し今まで正當の狀態で實驗したのから考へると大した影響は起きなかつたのである。

仕事に熱中したものでは殆ど特別に苦しいと云ふやうなことは感じなかつたといふのである。詰り或る仕事に熱中して居れば惡ひ條件でも、さう苦しく感じないで濟むといふこともあるのである。併し又それも仕事に依り非常に頭を使ふ仕事とか或は又濕氣が多いからして濕氣の影響を受ける仕事であると、又相當影響がありはしないかと思ふ、それで、あゝいふ部屋に長い間入つて居ると退窟になるといふやうなことも起る。それが餘りじつとして其まゝ座て居ると餘計に苦しさが身に應へるから、それを消すといふ方法も必要であらう、それにはラヂオのやうなものを置て外の狀態を知らせる。例へば飛行機がやつて來たからどう云ふ風な狀態であると云ふやうなニユースを色々避難所の人に知らせる、それも一つの方法ぢやないかと思はれる、そうすれば中に入つてゐる人の苦しさを或る程度まで減することが出來ると思ふ。

まだ外に色々將來攻究すべき問題もあらうかと思ふ、何しろこの度のものは序の口の實驗であるから今結論を早急に致すことは間違ひの元ぢやないかと思ふ。

昭和14年度設備委員會委員氏名

清水組
石井春雄

岩尾工務店
岩尾保衛

竹中工務店
大久保梅太郎

大阪市教育部建設課
大原喜八郎

古川電氣工業株式會社
北川正彌

都島工業學校
篠原太郎

大林組
丹藤良雄

大阪市電氣局
增井敏克

竹中建築事務所
藪中一良

（五十音順）



中支の戰線より

恒岡俊行

①悠久たりな五千年　興亡流轉果てしなく
山河は荒れて風寒き　中支の冬の暮模様
濁流湛ふ長江や　戎克漂ふ洞庭湖
地平の果てに擴がれる　枯莖原に入る夕日
げに落漠の僻土にも　神兵到る澎湃と
②山野に拓く軍公路　泥濘深く草蒸せど
双肩痛む背嚢の　重味に喘ぐ坂あれど
戎衣の列は唯進む　昨日今日も又明日も
崩れ殘る田舍家の　床に一夜を明かす時
藁に敷きし藁床の　溫味樂しく寢入るなり
③兵火に荒れし村里の　住まふ人なき廢家を
假の屯ろと定むれど　雪崩れ落ちたる木や瓦
所せき迄堆し　散らばる煉瓦掻き集め
竈を築き飲み水は　家の裏なる泥溝
焚木は裏の檜林　銃を左手に切りに入る
④家の隅より見出でたる　瓶は即ち野天風呂
風呂の中より夕闇の　空を遙かに見上ぐれば
斜にかかる北斗星　瞬く色は古りたれど
今宵も響く銃聲は　丘の麓の匪賊らし
夜毎の例し聞き飽きて　悠々浴す野天風呂
⑤屯ろの備へ營々と　土壘は成りぬ銃眼も
建具しつらへ屋根も葺く　鋸かんなの聲の音
大工は大工鳶は鳶　昔の職に還るなり
大根も畑せば　炭燒小屋も建ちにけり
一日の業打終へて　髭面團ふ夕餉かな
⑥敵匪潜めるぬば玉の　闇を睨んで立ち盡す
光る銃劍歩哨兵　祖國の空の森の上
昇る下弦の月寒し　夜露に濡れて唯獨り
佇む歩哨何想ふ　晝の掃匪にぐつすりと
疲れて眠る戰友の　夢安かれと祈るなり
⑦佇む歩哨何想ふ　闇の警め緩めねど
國に殘せる人や家　故國に在りし想ひ出は
今宵靜けきぬば玉の　闇の中より甦る
肌見に纏ふ千人の針の　跡なる腹卷を
縫ひ縫ひしけん千人を　偲ぶ銃後女郎花
⑧結ぶ糸目を街頭に　結ぶえにしは行きずりの
奇しきえにしに結ばれて　今前線の歩哨線
歩哨の肌に集ひ來し　千の眞心想ひ見る
俄かに起る山犬の　物に怯ゆる遠吠に
心引き緊め取り直す　夜露に濡れて冷えし銃
⑨明日は掃匪ぞ晴れよかし　蠟燭點し銃劍の
白刃を拭ふ召集兵　膝の綻び縫ふ兵士
明日を氣負へる兵達が　一つ筵に車坐と
團ひて擧ぐる哄笑は　夙に敵匪を呑めるなり
裝ひ了へぬ後は只　つはもの共の高鼾
⑩空は晴れたり朝暾が　祖國の空に昇る時
戎衣嚴めし掃匪隊　朝靄衝いて出かけ行く
神兵は征く爽爽と　日の丸かざし野路山路
路青衣纏へる夏民が　水牛を追ふ小孩が
日の丸上げて歓呼する　村里越えて出かけ行く
⑪宣撫日に成る村里の　生業日々に甦る
話す言葉は分らねど　睦む心は姑娘の
瞳の色の和やかさ　「兵隊サン」と笑まふなり
抗心頑なに　樂業の地を縮め行く
赤魔の手繰る傀儡子　夙く覺め來り睦めかし
⑫茜色さす夕陽が　地平の果てに沈む頃
掃匪終りて歸り來る　つはもの共の晴れ姿
手柄話は蠟燭の　淡き灯影に彈むなり
かたみに援け勵ましつ　荒野の果てを拓き行く
神兵來る颯爽と　世紀の東亞榮えよかし

ぎょうにんべん

中筋麻芳

と、こう書いたら、そばで見てゐたのが、なに？ぎょうにんべん？ぎょうにんべんて何のことか！題見ただけでも齒が浮くわい！と笑つた。なるほど、われながら、ちと變な題ではある。或ひは齒が浮くかも知れん、がその代り本文では齒科醫の務を果して、讀者各位の浮いた齒を治すことにしよう。治療が不器用で少し位痛くても辛棒して戴かなければならぬ。

歲月のたつのは早いもので、もう、昔話に屬することになつてしまつたら、建築家でも若い人にとつては、實感の伴はぬただの歷史にすぎないかも知れないが、關東地方を、あの未曾有の大地震が襲つたのは大正12年のことであつた。だだつびろく、平たく、ぜんざい鍋をひつくりかへしたように雜然と、廣々と擴がつてゐる東京の街は、忽ち大混亂におち、人は傷き、家は倒れ、震災につひで起つた火災は數日やまず、人畜の死傷、家屋の燒損、思ひ出してもぞつとする程であつた。そして、それから相つひで各地に相當な地震があり我が國の建築家は、どうしたら倒れない家が造れるかと、それに專念したのである。この傾向は、ちようど頭を擡げかけてゐた構造研究界を刺戟したので、耐震建築を中心とする、構造學の發達は目覺ましいものがあつた。

今30歲以上の建築家なら、この震災に端を發する耐震建築法を、身を以つて體驗された筈である。家はどうしたら倒れにくいか、又どうしたら毀れにくいか、我々は建築家としての生涯の始めの部分をこの大問題の解決に沒頭するように運命づけられたのであつた。ここに始の部分と書いたのは實は悲しむべきひ方であつて、これは本當は未來永久に我々が背負つて行くべき命題であるべき筈なのである。然し、建築家達は、その用涯の始めの部分のほんの僅かをこの問題にさき與へただけで、この殺風景な義務を棄却してしまつてゐるのではないだらうかと、私は心を痛めるのである。

家屋を倒れにくくするには、まづ何といつても城屋自體を輕くすることであつた。特に頭部を輕くして重心を下げることは最も利巧な方法であつた。そして第2番目には、建物の全體を均質にする、例へば、鐵筋コンクリートと鐵骨或ひは木骨との合體は避ければならぬとされた。この2項目は實に耐震建築法の原理であり根幹であるといはれたのである。

我々はつとめて輕ひ家を造るために、日本風の燒瓦葺さへ避けて、銅板葺とかスレート葺とかを採用したのであつた。我々の間には、將來瓦葺が姿を消すであらうと豫言したものがあつた位である。ところが今日の狀態は如何？瓦葺は昔にも增して盛んに用ひられ、掛燒瓦では物足らなくなつて、本瓦まがひのS瓦や竹瓦を始んで葺くようなありさまである。極く最近では銅板葺やスレート葺は採用し難たい事情にあつて止むを得ぬことであるが、事變以前の瓦禮讚熱は妖氣を帶びて氣持が悪い程であつた。

又、建物を均質にする問題もである。當時は誰もがつとめて、構造の混用を避け、1棟1種の構造で設計したのであつたが、その後あの風水害に出合はすや、建築家の目標は忽ち耐風の建築に向ひ、實に思ひもよらぬ構造法を生んだ。それは長い1棟の木造の一部分に鐵筋コンクリート造りの小部分を挾みこむ方法、即ちこのコンクリート部分で風壓による横力を負擔させようとし、木造部分をコンクリート部分にすがらそうとする企劃に基くところの構造法である。そしてこの方法は耐風建築としては實に有效であつた。然し、さきに我々が受けた震災による教訓は、ここではもうすつかり沒却されてしまつてゐるのである。

これらの事實によつて、悲しくも我々は我々の

特性であるところの瞬間的興奮性と我々との淺からぬつながりに就いて深い反省を試みねばならぬであらう。震災に於いても風水害に於いても、どんなに多くの失はれた生命が我々に悲しい聲で呼びかけたか、どんなに澤山の國富が灰になつて我々の計算書の上につもり我々の愼重なる態度を要求したか、それにしても我々はなんと驚くべき健忘症であらう。我々にとつては血の教訓も涙の說諭もどうやら一晩限りのものあるらしい。我々は過去に持つた自然の大きな贈物——諸々の警告——を今や省みようとさへしない。毎年9月1日の震災記念日には我々は一體何を祈念して默禱するのであらうか。我々は次の地震、次の颱風に備へて、耐震的でもあり耐風的でもあるところの家屋を準備して、科學者らしい愛を貴び犧牲者の子孫の上に致すのでなければ、歷史は再びかの大慘狀を記錄する運命を負はされ我々は我々にふさはしい汚名を後の世までも殘すことになるであらう。

のどもとすぐればあつさわすれるといふ諺の例證に我々建築家をひくことは、出來ればやめておきたいけれども、事實が上述の通りであれば仕方がない。然し上述の事實は既に過去のことである、相戒しむべきは今後にある。我々は事情あつて今また同じあやまちを犯すか否かのせとぎはに立つてゐる。事情といふのは——

我々は、我々の燃燒都市を持つたまま、空襲に備へばならぬ運命に立ち到つたのである。色々の防空的建築の研究が行はれ、漸くにして得られた成案によつて近頃流行の防火改修が實施されるようになつた。この防火改修の方法は防火一途に考究されたためであらう、耐震的考慮は缺除して居るかのように見られる。上部に於いて多彩な日本風建築に防火包裝をまとはせるのであるから、改修された家屋は勢ひ頭の重いものとなり、重心は上昇して、ここに非耐震的なものとなるのであつて、防火的であればあるだけ非耐震的であるように思はれる。この心配はまた地震のみならず火災に際しても拂はれなければならない。大體日本家屋構造の特徴とするところは支へと支へられだけでなく、はねる、つる、等あらゆる考へ得べき方法をつくし、軒桁を支點とする垂木の屋内屋外の荷重のてんびん作用はその原理とするところである。防火改修法ではこのてんびんによる軒の出の部分即ちはねられの部分をラス巻きモルタル塗として著しく重量を增す。この特別に重量を增加された部分は屋内の燒却と共にその尻のつなぎを打ちたたれるために勢よく落下することになる。或ひは外壁に大きなかたより荷重を與へ、その外壁への倒壞を昔促する。であるから、屋内を燒き拔かれた外壁は平家ならにんべん、二階家なら、ぎょうにんべんの形になつて佇立することになる。そして次に起る現象は、前面道路を塞いで、この外壁がのびひろがり、延燒をたすけ消火作業の防害を起すことになるのである。我が國の風土に適應して出來てゐるものながら、この廂といふものは防火改修を施すとこんなことになるし、捨てておけばここから火焰をすひこむ、始末の悪い代物である。そこで私は、この對策として大屋根のけらばや軒の出部分を除去し、垂直壁面を屋根面の上にまで延ばし、壁體開口部の上には耐火木材製の廂を取りつけることを提唱する。

日本家屋の構造は頗る高度の方法によるものであるから、急所1ケ所を外せば、全體の破壞を來すとまでは行かなくとも、スペインや支那の空襲燒跡の煉瓦壁の1本立、あいふ單純な構造物と同一視することは出來ない。

現に行はれてゐる防火改修の方法は耐震的に憂慮されるだけでなく、肝心の火災に對してさへもかかる危惧を持たれるのである。

今また同じあやまちを犯しかかつてゐると私が指摘したのは上述のようなことを指してゐるのである。

我々はあらゆる經驗——それは常に大きな犧牲の伴つた貴重な經驗——を積みかさねたその上に

立つて愼重な態度で問題の解決に當らねばならぬ震災の後には耐震建築、風災の後には耐風建築、而して今また空襲に備へての防空建築である。しかもそれは防火だけに備へるもので、地震も颱風もきれいに忘れられてゐる。地震と颱風と敵機とが一度には來ないだらうが、1日おきにやつて來たら日本の建築家達はどんな顔をするであらう。明日は數學の試驗だといつて公式の暗誦をやり、國語の試驗だといつてその勉强をする、そして試驗がすめばすつかり忘れてしまふ。中學生の試驗勉强のようなことを日本の建築家達は繰りかへして行く。（14.11.7.）

生命保險と住宅問題

諏訪一郎

これは一俸給生活者の**思ひつき**である。

現在日本における我々俸給生活者の市民生活は昔と比べると其の『衣食住』生活三要素の中『衣食』は西歐文明の流入により全く昔の俤も無く變化し改革されてしまつて居る。現在洋服を着ない者は殆んど無くライスカレー、カツレツは日本食となつてしまつた。

此の驚くべき急激な變化に比較して最後の『住』の問題は殆んど改良され又は考究されて居ないのではなからうか。

住宅は昔の姿のままであると思へる。成程我々都市生活者は事務所學校等は變化し近代化したであらうが、日々休養をする住宅は或ひは德川時代のものに硝子を利用した位が變化では無いであらうか疑はざるを得ない。

現在では一部の郊外に有產階級の趣味的に建築する以外は昭和時代にも都市住宅として建築される家屋は謂所借家普請で丁度德川時代から傳つた大工で充分の建築の樣式だと思はれるものである。

我々は「住宅」の要求がなかつたわけではない。多くの殆んど總ての都市俸給生活者の生涯の强き念願は自分の「家」を持つ事である。

勿論昔から「住宅」を持つ事は困難な事ではあつたが今後益々困難な狀態となるのは明白な事であらうし、現在大都市は9割に近く借家人である。そして其等の生活費の二割以上を賃家として支拂はれるのである。其の金金額の流動は社會的に見ても莫大なものであり又人間の生活の上からも質的に重大なものである。從つて將來特に社會問題として考慮さるべき事柄が多い理由も此の點に存するのわけであると思ふ。

然し現在此等住宅問題を直接責任を以て解決し研究する處もなく一體我々は誰を其の解決者として相談し期待し得るのであらうか。

或ひは我々は此の住宅問題に關しては賴り得る者なき現狀ではないのかとさへ思へる。官廳は規則づくめである。建築家群と大學は大建築物のみに向つて居る樣である。

☆　　☆　　☆

處が此處に一つの思ひつきがある。

それは生命保險事業と住宅問題の結びつけである。即ち住宅問題の將來の解決及び研究の爲めに現在社會的に、金融的に重要な地位を占めた生命保險會社の莫大な資產の一部を住宅問題のために運用する事を考へるのは必ず他の資金を用ひより有效適切なるものと思ふのである。

其の理由として生命保險契約と住宅との長期性と不動性とが合致して居り相互に利用し得る性質は他の如何なる資金よりも都合よき事は誰も認め得る事である。既に日本の生命保險會社は東京大阪の兩都市に於て近々巨大なビルデイングを作り事務所の形態で資金の一部を利用して居るのである。從つて今後益々增大する此等生命保險會社の資金の一部を流用して此の「住宅」に投資する餘地は充分に殘されて居り又其の利潤も決して惡く

ない筈である。

然し、今直ちに生命保險會社に對し其の實行を云々する事は餘りに單純すぎる事である。

だが現在生命保險會社中有力なる者は何百萬圓も社會事業に寄附し得るだけの資力を持つて居る。例へば海陸軍に、結核豫防に防空に、競つて何百萬圓の巨額の寄附をして居るのである。

此の莫大な寄附金の一部を住宅問題に關する研究所の如きものの基金として利用する事は當を得たものだと思ふのである。

最近世の中では國民の健康問題が喧しく云はれてラヂオ體操、藥代の低廉等以て健康の增進を企圖する事は成る程結構な事ではあるが人間生活の最も必要な「住宅」即ち一日中最も長時間起居する「家」は國民健康問題としても最も基礎的な最も重要視せられて然るべき問題である。

然るに現在此の住宅問題が世間では如何に考慮されて居るであらうか。

試みに一書店の書棚の建築の部分を見れば現在出版されて居る「住宅」に關する文獻を探すと殆んど如何に安價で如何に見榮よく建築出來るかと云ふ問題をとらへた小市民階級の僅少なる貯蓄の使用を目的とした流行の趣味に合ふ樣な本が多く出版されて居るが『市民の住居』に關する研究はそれに比し殆り見當らないのである。

他方近代建築家はビルデイングと稱する「住む」以外の建築の計畫者である。成程最近の都市生活者等の事務所は西洋にも優る近代的な結構なるものであるが然し人間生活で最も重要な休養を取り又次の時代の者即ち子供等が育つ場所は昔ながらの姿ではないであらうか。

否昔よりは更に憑い。即ち都市の中心から近代文明に押し出され益々不健康な新住宅街を何の考慮する餘地もなく發生しつゝある樣である。

一例を以てすれば都市の中心には巨大なる資本の運轉と近代建築家の設計になるビルデイングの中にデパートがある。我々市民生活者は此の資と建築家に狹まれて其の食堂は昔の宮殿の如く大理石の壁で廻らされ白布のテーブルに花を挿し豪華な近代的大食堂で我々は十錢のそばや五十錢のランチを食べなければならない事は凡そ喜劇に近い自分の姿を發見するのではなからうか。

何故にこんなに激しい對象を感じるのであらうか。一體我々の日常の生活の環境から考へて此の近代大建築は贅澤に過ぎるのではなからうか。我々は此の大建築に比しもつと合理化した住宅を望む事は出來ないものであらうか。

確に近代建築は「住宅」を取り殘して進歩してしまつた。そして此の大きな間隙は一面現代日本の文化の代表的な表象でもあるとも思へる。

此の問題の解決のために使用の目的の自由な且つ充分な資金である前述の如き生命保險會社の社會事業への寄附金を利用する事は當然一考されて然るべき問題でならう。

放送局の益金が健康問題に利用される樣に生命保險の益金も市民生活の住宅問題に利用される事は好ましい事であらう。

亦一面今日では生命保險會社は既に巨大な事務所を完成し次に投資物件として「住宅」を考慮すべき時機になつて居るのかも知れない。

現在米國では大生命保險會社が一つの都市を郊外に理想的な設計で以て計畫し何萬坪の擴大な地所を購入し全然生命保險會社が獨力で都市の建設を實際にやつて居る狀態である。

又他に生命保險契約の種類に「住宅附き生命保險」"House Holding Policy" と云つて何萬圓の生命保險契約をすれば、會社は其の保險證券を擔保に契約者の注文による家を建てるのである。其の後は毎年家賃同樣に保險料を拂込みさへすれば死亡の場合は必ず遺族に其の家屋を渡す出來、滿期の時は自分のものとなるのである。之等の事が外國では實際に行はれて居るのである。

外國では既に生命保險會社の資金は「住宅」に向つても積極的に投資されて居る樣であるから是

非日本の生命保險會社も「住宅」の問題を研究する時であると思ふ。

だが現在では日本の住宅問題は充分に研究されて居るとは思へない。果して英國風の家庭を本位とした分散主義の都市か又は大陸流の集中主義によるものかを研究し自から適應せる最上の樣式を發見すべきであるが事實此の研究の程度はどんな狀態にあるのであらうか。

最近特に住宅問題の重要性は近年の人口增加と青年層の都市集中の傾向が著しくなるに從つて益々緊急を要する問題となつて來る。然し現實に苦し既述の如く未だ充分に研究し實驗されて居ないものであるとすれば一刻も早く研究に着手し具體化し國家100年の計を立つべきである。

斯くの如く此の思ひつきであり希望であるものの結論は差しづめ次の如くである。

『生命保險會社の社會事業への寄附金を以て住宅問題研究所の設立の基金とし何百萬圓かの充分な寄附を得る事である。』

扨而此の結論を得て勿論贊成者もあり又結構な甘すぎる話ではあるが其の實現には現在の建築關係者の行爲と自覺を最も必要とするし又生命保險會社は勿論の事一般社會からも其の實現と效果への強い信賴を必要とする。

☆　　☆　　☆

然し最後に根本的な疑問が生れて來た。

それは現在の建築家等が何故にもつと此の住宅問題に就て一般的な啓蒙的な協同機關としての研究所の活躍が我々一般社會人即ち素人に知られて居ないのかと云ふ疑問である。

前述の如き甘い話を聞いてよい氣持になつて居るよりも此の疑問の徹底的な解決を第一にすなべきであり。そして此の問題は單に思ひつきではなく社會的に健全な發展に向ふ基礎となる事を望む事も出來るわけだと思ふのである。　以上

——◇——

戰時體制版

小宮賢一

私の書架にザラ紙の粗末な洋書が1册ある。

"Arbeitsrecht und Arbeiterschutz" といふ題の歐洲大戰後のドイツの社會政策法制を書いた本で4.5年前神田の古本屋で見つけ、內容と云ふよりは當時のドイツの窮乏狀態を物語るやうな裝幀の珍らしさに惹かされて購つたものである。その頃丁度ナチスの都市計畫思想が輸入されて、所謂"土に根を下した生活"が又話題に上りつゝあつたので、一時此の本の中の"定住地法""家產法""小菜園法"（何れは大戰直後制定された住に關する法令）等を拾ひ讀みしたりしたが、その中何時か棚に上げたまゝ忘れて了つた。

蘆構橋事件が支那事變となり、それが大規模な戰爭へと擴大し出して間もなく、書店に"戰時體制版"と銘打つたザラ紙の本が現れた。之は實は普通の廉價版にすぎなかつたのであるが、私は直ぐ書棚の"Arbeitsrecht"の姿を思ひ出し、愈々日本にも近く全國的な物資不足時代がくるのではないか、と何とも云へぬ心細さを感じたのである。

敵の長期抗戰に應じて、擧國一致長期建設への進軍が始められ、建築家も生產力の擴充に又大陸の建設に重要な役割を演ずることになつた。そうしてゐる內に何時とはなしに耳にするやうになつたのが住宅沸底の聲である。うかつにも住宅難は戰後に起る現象だとばかり思ひこんでゐた私は、之には大いにまごついた。例の塵にまみれてゐた舶來戰時體制版は再び私の机上に置かれ、私はそれから當時のドイツにも戰爭中に激しい住宅難のあつたことを知つた。そしてその多方面に亘る周到な對策を讀んで、今更の如く之を苦もなく押切つた住宅難の恐るべき破壞力を知り愕然としたのである。何の氣もなく購つたこの見切品の古い戰時體制版が、僅か數年にして斯ほどピッタリとく

る時代を迎へようとは少しも考へなかつたが、驚いたことには夫から幾何もなく當の歐洲には又第2の戰塵が捲き起されたのである。まこと歷史は繰返すものだと、私は此の黃色くやけた頁を繰りながらひそかに感嘆した次第である。(14.11.24)

工場の高層化

(私のノートから)

伊藤甫

今年の春であつたが、本誌主催の市街地建築物法改正に關する座談會の席上で、工業地域の空地制限が3割から4割に改正された點に就いてその改正要旨を說明された玉置技師の話に「工場が平家でなければならないといつたやうなことはないと思ひます。特に重量物を取扱ひます工場はこれ格別ではありますが、工場といつても全部が重量物を取扱ふに決つてゐるものではありません。だからして今の平家を2階建にし或は3階建にしてアメリカのロフトビルデイングのやうにしてもいいぢやないか、そうすると平家でギリギリ7割まで建つてゐるものでも、總2階になりますと3割5分ですみます……」と云はれたのを聞いてその適切な解釋に感心したわけである。

成程、空地制限といふものが之を大にするに隨ひ工場の高層化、ひいてはロフトビルデイングの出現を促すといふ事が推定出來る。そういふ事がふと私の興味を引いた。勿論そうかといつて工場が單なる4割の空地制限の爲に高層化するとは考へられぬ。其處には必ずや經濟上の考慮が拂はれて平家か高層かが定まるだらう。

都會地は交通、勞働力、市場の三つの重要な條件を具備して殆んどあらゆる種類の工場を引付けてゐる。比較的に地價が高いに係らず工場は都會地を離れる事が難しい。其處に土地建物等の固定資本を極力有效ならしめ樣として必然高層化が要求せられるものと思はれる。して見れば、平家でもよし高層でもよしといふ樣な至極作業上に自由な工場であれば之を考察するのには地價と建築費との振合により平家の經濟な場合と高層の經濟な場合が現はれ從つて其處に平家高層の限界があるであらうといふ考へはどうであらうか。

私は甚だ大ざつぱな計算をやつて見た。それにはまことに勝手な假定條件を用ひた事は勿論であるからその邊御指示願ひ度い。先づその假定から述べよう。

1. 平家の建築費は高層建築のそれの8割と考へる。次の樣な資料によつたものである。

工場建築の有效床單位面積に就ての價格比率

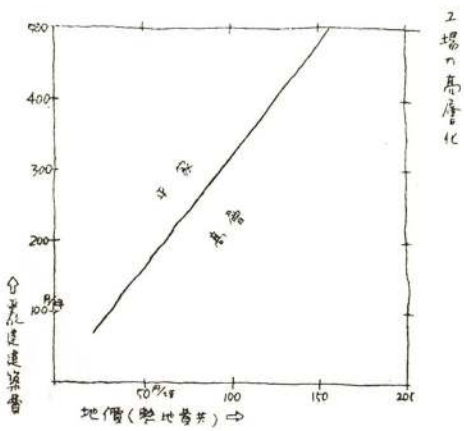
有效床面積 m²	4階建工場 內法 幅9m	5階建工場 內法 幅15m	單層工場 鋸屋根	單層工場 ギヤレリ付
500	100	—	75	95
1000	—	97	75	90
2500	—	94	70	88
5000	—	84	63	82
10000	—	82	61	70

Sausterに據る(高層建築學工場篇所載)

2. 管理費　保險料等の建物關係の年支出を平家の場合と高層建築の場合と等しいと考へる。之は明らかに誤であらうとは思ふが適當な資數を持合はせてゐない。
3. 空地制限を4割とする。
4. 建築費の償却期間を30年とする。之も確かな資料のなき儘に一般の建築物に準じたがどうであらうとは思つてゐる。
5. 稅率等は大阪を想定した。

かういふ條件でやつて見た結果が次圖の樣になるのである。

云ふ迄もない事ではあるが、例へば現在平家の鐵骨構造建築工場の建築費が坪當り200圓かゝるものとすると地價65圓位が平家と高層との限界になるらしい。即ち坪30圓の土地ならば平家が經濟であらうし、坪80圓の土地ならば高層化する必要があるのである。



上の圖がどこまで正確であるかは私もはつきり云へぬ。又作業上或は管理上そうはいかぬ工場もあるであらう。けれどもとに角こういふ限界があり得るといふ程度の話題に迄私のノートを提供する。

（昭和14年12月20日）

讀　　者

堀口甚吉

○建築と社會の編輯常務の末席をけがしたこと4ケ年、漸く解放されて、客觀的に、同誌を見るの機會を與くられた。

○本日家にかへれば「建築と社會」の編輯に如何なる希望を有するやの問合せ書が到着してゐる。この質問におびき出されてといふではないが、一筆記したい希望が生じた。

○由來執筆者が自惚てゐる程讀者が決してないことはわかりきつたことであるが、編輯關係者、著述家、ブックメーカーはこのわかりきつた事實を誤認してゐる。又この誤認なくしては忙がしい時間をさいて一文を草することも出來ぬ次第ではある。

○小生も、せつかく活字にしてもらつて、讀者は小生一人といふやうな馱文を以てこの誌上を度々けがしたので、甚だ恐縮してゐる次第ではあるが自分の文章、自分の著書の眞の讀者はたしかに自分の外ないといふ事もある一つの眞理をふくむ。

○明治年代の二大名著といはれるのは

遠藤利貞著　日本數學史

三宅雄二郎著　宇　宙

であるが、三宅氏がその宇宙の巻頭に

「宇宙と名づくる此の一書は、實の名に副はずとも、世に人の多き、全く讀む者なしと限らず。或は初め數頁を讀み沒趣味として捨て置き、或は三四ケ處を抜き、卑近なり驚くべき迷誤なりとして抛つべし。唯だ幾人かは全巻通讀するの忍耐力を具へんが、文字よりも意義をとり、部分の斷走よりも全體の理路を辿り、直に現實なる宇宙に融合せんとするの有るべきや否や、絶えて無くして稀にあり、確に一人は有り。而も其の一人も之を能くするに非ず、僅に能くせんと試むるのみ。一人とは誰ぞ、斯く言ふ者自らの事」

と述べてゐられる。氏一流の皮肉を通して氏の自信の程もうかがはれる名文ではあるが、うつしてもつて編輯者對會員或は讀者の關係の眞理を表現してゐると思ふ。

○從來「建築と社會」に對しては、つまらぬ、面白くない、もつと有益な記事をのせろ、といふ聲を屢々聞いた。しかし、編輯關係者として、この聲のいづれにしたがつてよいかにくるしんだ。幸ひ雜誌が、寶らんかな本位の雜誌でなきことから最も平凡な讀者層の一人を自分はたしかに代表してゐるものと考へ、自分の希望も、編輯に際しては述べてきたのであるが、今になつて考へてみると、何等の足跡ものこさなかつた事を考へ自分の非力を恥するばかりである。

○「建築と社會」か「建築の社會」かと、今更會員に問ひ合はさなければならぬ程、編輯方針は確立してゐないのである。そんな事がわからぬか、四ケ年も編輯に關係して汝さへわからぬかと問はれたら一言の返事もない。しかし、雜誌の表紙を見よ、「建築と社會」と書いてあるでないかと、一應解決がつけば、それでもよい。然し、我は、

「建築と社會」の雜誌は「建築家の社會」のやうな氣がして、しかたがない。又現在までのものは遺憾ながら「建築家の社會」或は「建築家と社會」であつた。そもそも、建築と社會と並び得る觀念かどうかさへも、自分はあやしむのである。

○「建築と社會」なれば、先頃、片岡會長が「文藝春秋」にのせられた「都市計劃の今昔」の如く一般ヂヤーナリズムへの建築家としての進出によつて、實現するがより有効適切であるやうに考へられる。

○現在の建築家を見わたして、最も平凡で、善くさいきらひはあるが、建築家の讀もう或は讀むかといふやうな編輯をしてゐるのは、30年來の「建築世界」であるまいか。又、この程度の編輯をすれば、會費と誌代との開きも少くすむのでないかと考へられる。

○「建築と社會」もつまらぬ、つまらぬといふ人もあるが、近年災害强度委員によつてなされた「假枠の研究」、「風壓の研究」等、日本の雜誌でこれ程實用的に有益な記事はどこにものつてゐない。自分自身をさげすむのはやめて、自分の可愛い然しあまり健康でない愛兒をそだてるやはらかい氣分で、この「建築と社會」を育てるやうにしていただきたい。昭和15年の年頭にあたりいさゝか駄文を草した。

聖地橿原に觀光案內所

紀元2.000年を期して聖國大和へ橿原へ押寄せる團體客の便利を圖り大鐵局、大軌、大鐵京阪、信貴、生駒電、奈良縣、奈良市、大阪、京都、神戸、和歌山、名古屋、各都市並にジヤパン・ツーリスト・ビユーローらの綜合觀光案內所は目下橿原神宮前驛、前に新築中であるが13日午後1時から之が運用に關し關係都市觀光課長並びに運輸方面の係長ら25名が橿原神宮前驛に集合、事務取扱揭示場の設置、マイクロフオンの設備などに關し協議をとげ、愈々來年1月1日より花々しく開業することに決定した。(12.14.)

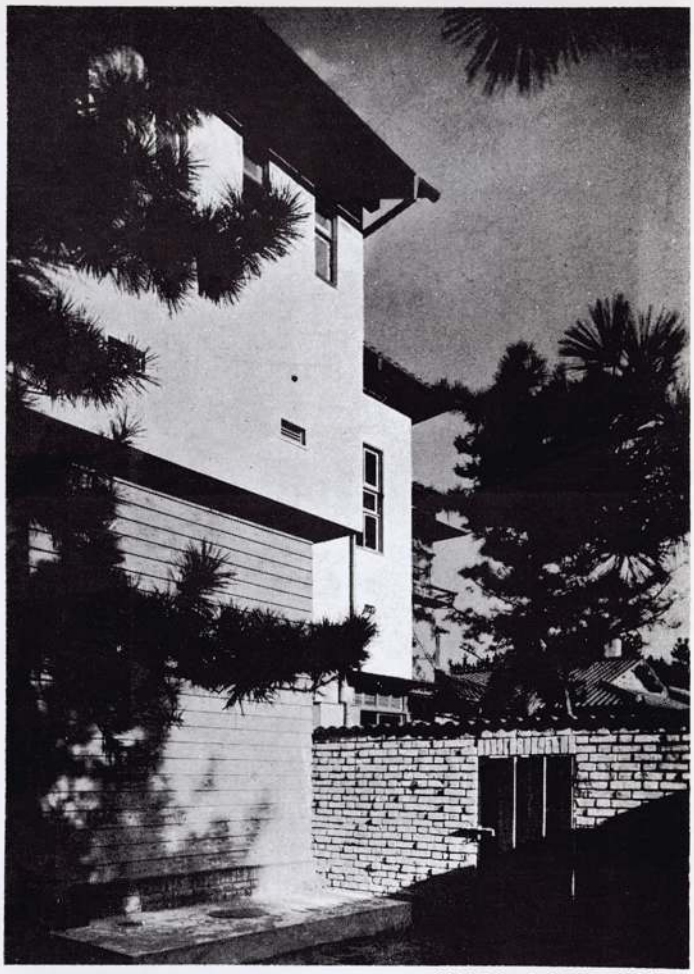
厚生省に住宅問題よろづ相談所産まる

未曾有の住宅難と之に伴ふ惡地主惡家主、の跳梁はさなきだに足並揃はぬ低物價政策に逆行する結果を招來してゐる現狀なので厚生省では之が根本的解決を計るため、社會局に住宅課（假稱）を新設、わが國住宅問題100年の大計を樹立すべく大藏省に對し200.000圓の追加豫算を要求中であつたが、1日承認を得たので愈々來る12.3日頃から **住宅問題よろづ相談所**として店開きする。戰爭に住宅難は付もの、歐洲大戰直後の英、獨、佛諸國の深刻な住宅難にみても現在の住宅問題は事變終局が近づけば近づくだけ深刻化する事が豫想される。現に中產階級の住宅難は資材制限を受けて益々深刻となり厚生省の調査に依ると勞働者だけで昭和16年までに住宅200.000戸、アパート2.600棟の新築を必要とし中產階級全體からみると1年間に250.000棟の住宅を新築しなくてはならない現狀だ、之は結婚その他の事情から生ずる世帶數の自然增加125.000棟、災害、改築による需要125.000棟と最少限度に見積つた計算で之に歸還勇士が家庭を持つたり不時の人口移動に依る必需量を加算すると年々300.000棟の住宅が必要となつて來る。

新設の住宅課では取敢ず中產階級、勞働者を對象に建築資材の斡旋、資金調達を計つて少しでも多く住宅を供給すると同時に住宅難にあえぐ庶民階級救濟のため內務省とも連絡をとつて積極的に惡地主、家主の一掃を圖らうと言ふのである、從つて現在同調會がやつてゐる住宅調査、小住宅の月賦建築から更に地代、家賃の公正價格制定にまで乘出すことになつてゐる。

概　要

位　置	大阪府泉北郡大津町大字助松 （南海本線助松驛北方0.8粁）
企劃決定	昭和12年12月
施　工	淺間組
設　計	大阪市營繕課
起　工	昭和14年1月
竣　功	同年12月8日
敷　地	3.672坪85
建　坪	828坪
工事費	192.000餘圓（附帶工事費共）



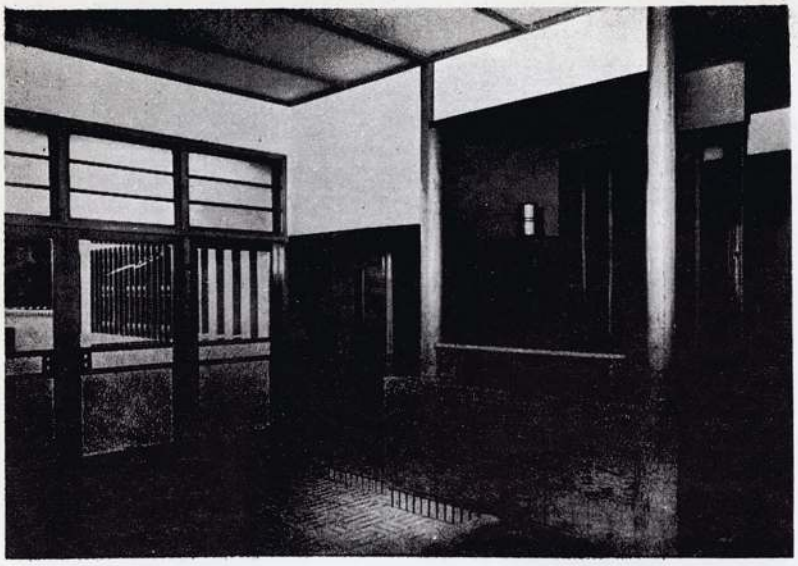
本館便所前より東を見る右側潛り戸玄關前へ，左手便所



正門外より兒童玄關を望む

門　柱　瓦タイル張，笠石丹波石
門　扉　檜ペンキ拭き取り，眞鍮鋲打ち
電　灯　ステンレス
左方塀　煉瓦積白セメント吹付け竹瓦葺き，下部は植込み
門より玄關に至る歩道はコンクリート・ブロック敷き
正面突當り兒童玄關，上部タルキ型ペンキ拭き取り
左方，便所　右方，寮母室

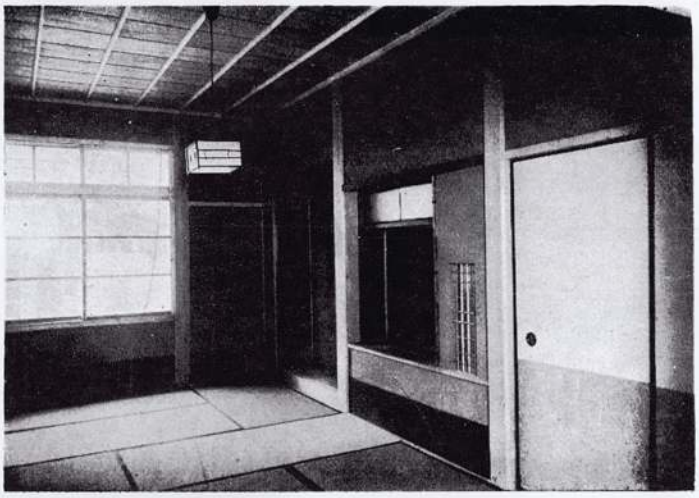
助松郊外學園（大阪）　設計・大阪市營繕課　施工・淺間組



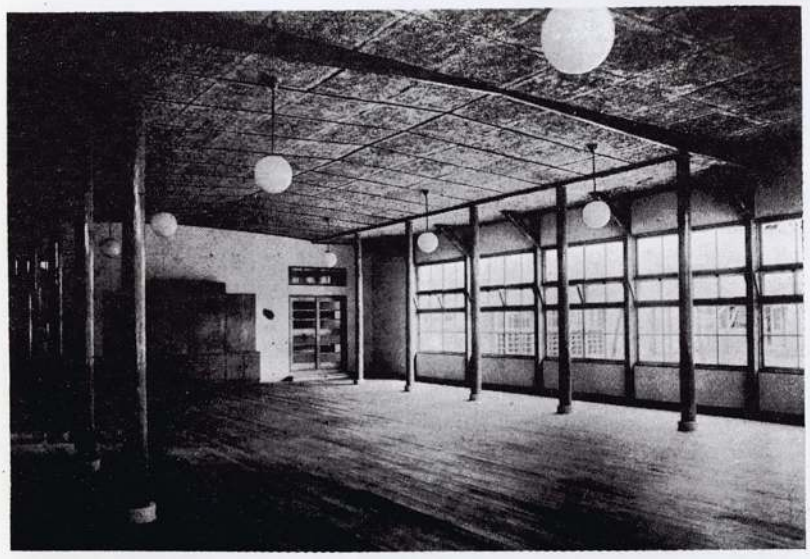
児童玄關（内部）

踏込床巾木，長手タイル張リ
床，フローリング
壁，プラスター
天井，タイカボート水性ペンキ
中央下部，下足箱，鼈地ラツカー仕上げ
丸柱，槍磨き丸太ラツカー仕上げ
右手階段室，照明器具木製
中央フラツシユ・ドアーは便所へ
左，児童玄關入口引戸
ベニヤ及造作材，鼈地ニス仕上げ

寮　母　室



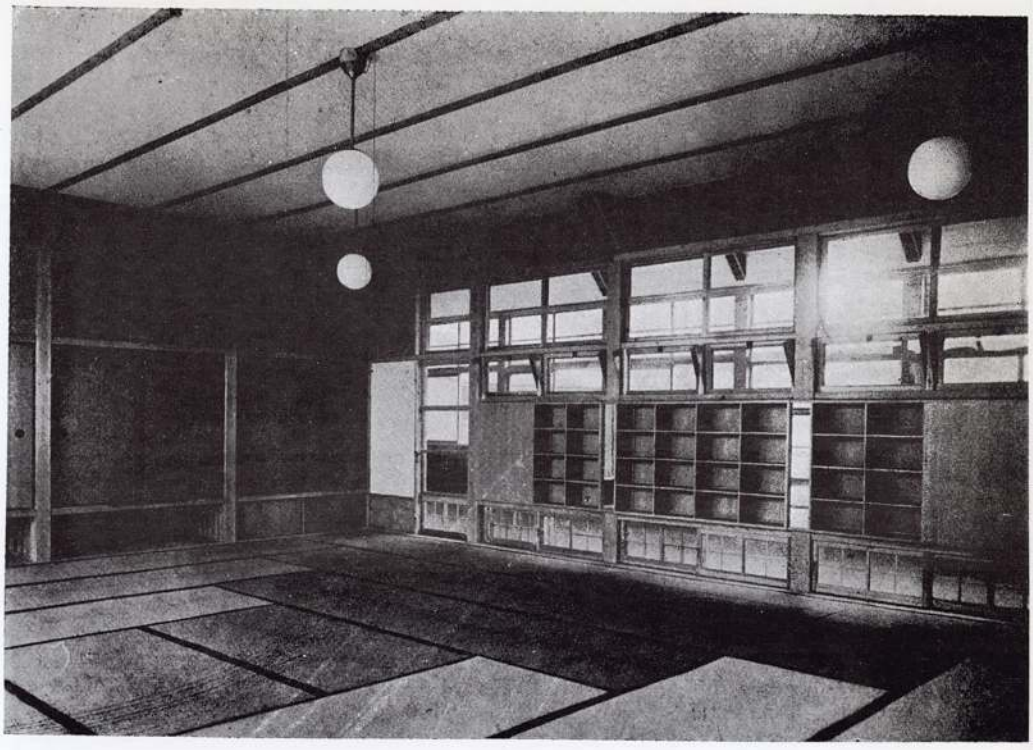
床　框　　エンヂ洗出
立方柱　　杉面皮
落　掛　　神代杉
床　板　　柵板，丈袋板，ケヤキ
小　襖　　鳥の子金砂子
竹　は　　圓面竹
右手押入，鳥の子，下部金銀アラレ
壁，茶砂壁，腰廻リ紺色紙張リ
天　井　　杉杢イツメ板



床　　フロアリング
巾　木　　研出
壁　　ニツボノプラスター
天　井　　ヘキタイト・ペンキ拭き取り
柱　　槍磨き丸太，ラツカー仕上げ
桁及副柱　茶褐色ペンキ拭き取り
窓上下引違　中ボツバー
正面棚　　鼈地ベニヤ造ラツカー仕上げ

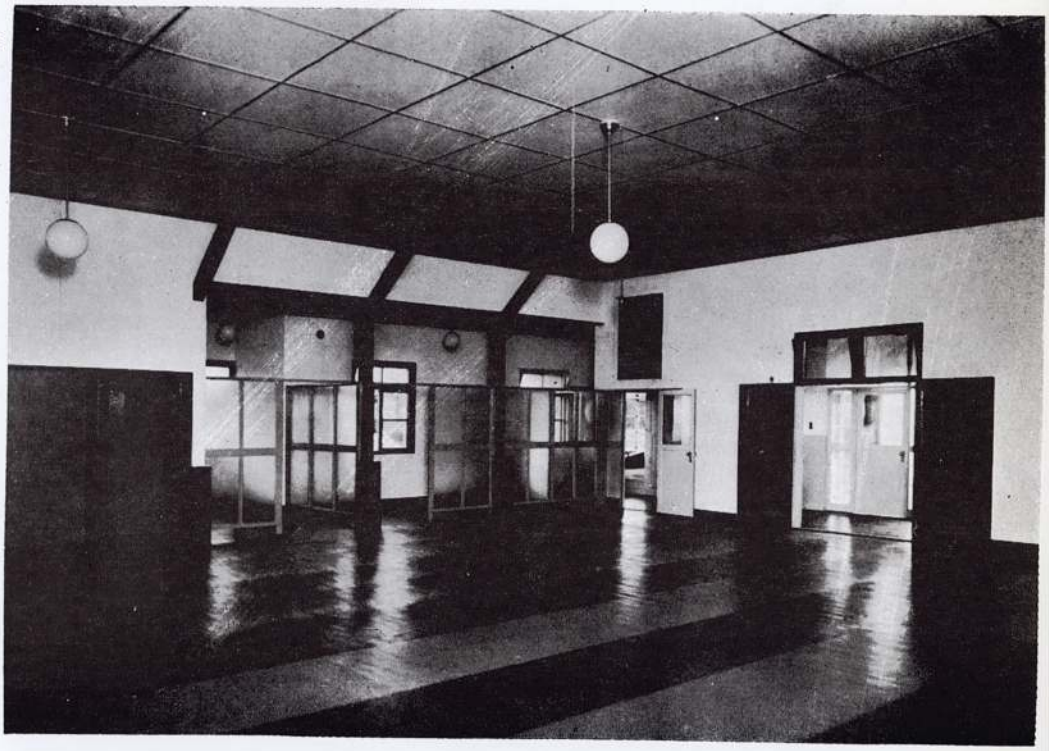
食堂正面

寮　室

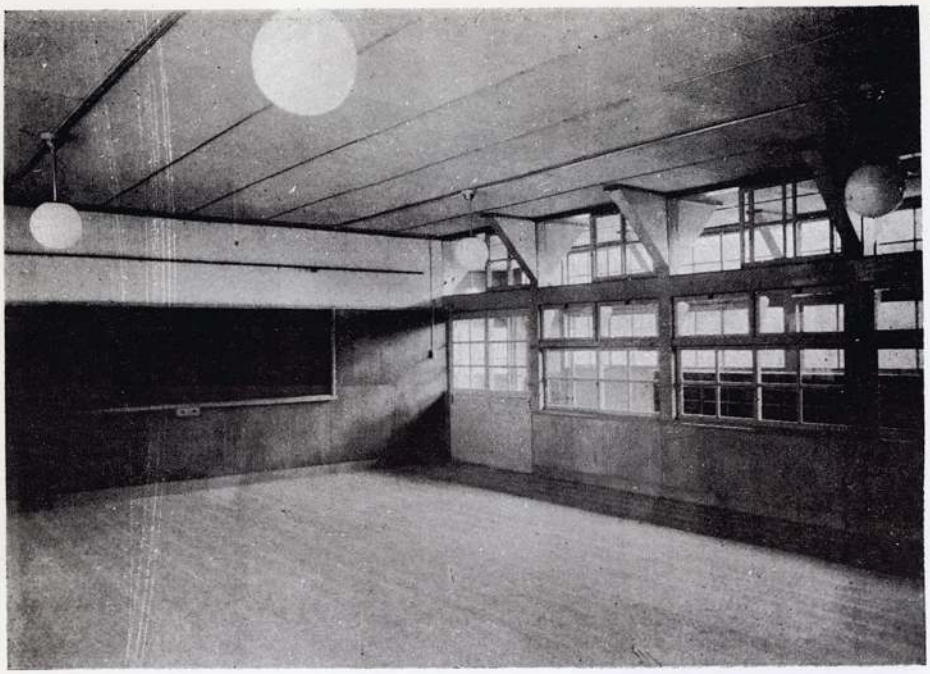


床　板　上にテツクス敷きの上タヽミ敷
腰　板　樺ベニヤ
閉法壁　プラスター黄朽色水性ペンキ
欄間壁　パルホイドツヅレ
小　壁　テツクス
天　井　ボード水性
左手押入襖　更紗布張
下押込み　手習ひ机等を入れる
廊下との仕切の棚はランドセル入れ
パネル部分は廊下側上草覆入れ
棚の柱部分はカヾミはめ込み

二階娯樂室

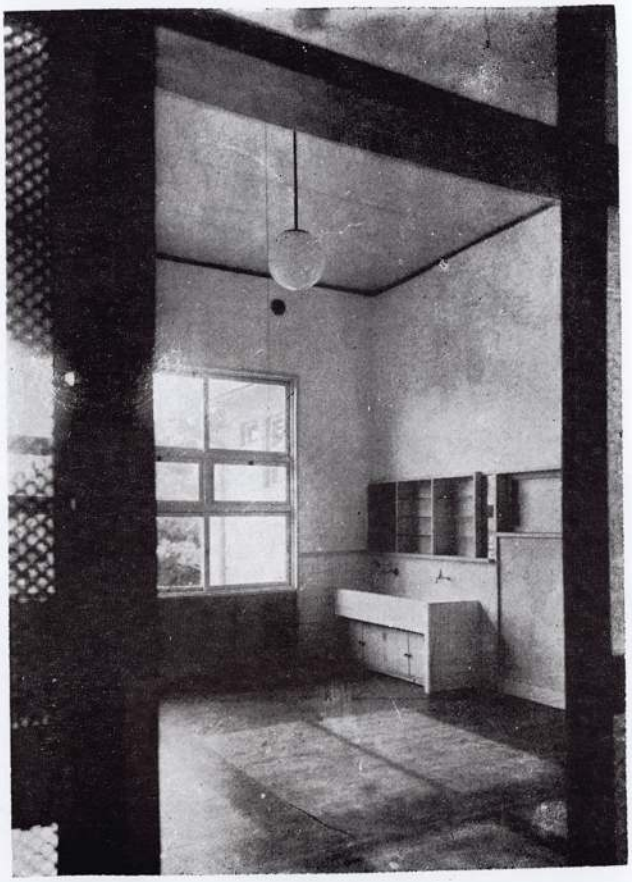


床　　ライトリノ
壁　　ニツポノ，プラスター
天　井　ボード水性ぬり，木目地甲へ
木　部　ペンキ塗又は拭き取り（色彩多様）
左手引戸を開けて階段へ
中央型板ガラス入スクリーン3ケ所は個室
隅入口は看護婦室へ，上部は中三階物入
右方入口引戸は廊下へ廊下を距て醫務室が見える



校舎教室

床　杉板
腰壁廻り　ラワンベニヤニス塗り
壁天井　デツクス生地
廊下側窓　ボツパー
廊下仕切の向ふ下足箱が見える

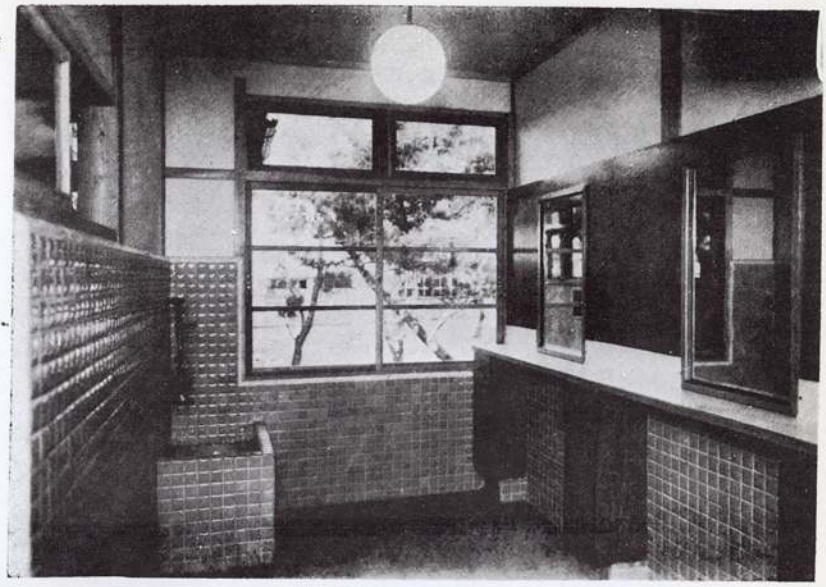


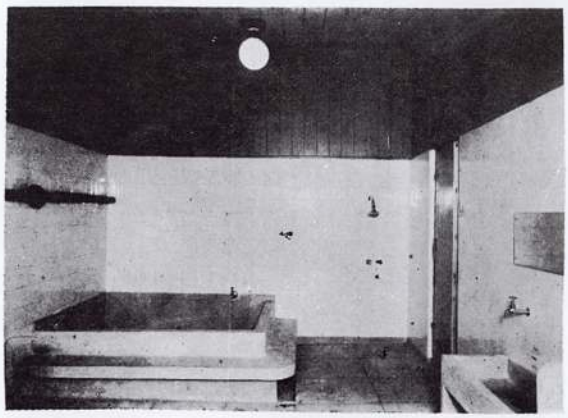
二階　醫務室

床　ライトリノ張り
壁　プラスター腰水性ぬり
天井　タイカボート水性ぬり
瓶棚　ガラス板
流し　白タイル
前面廊下側ホスクリーン
木部全部ペンキ

理髪室

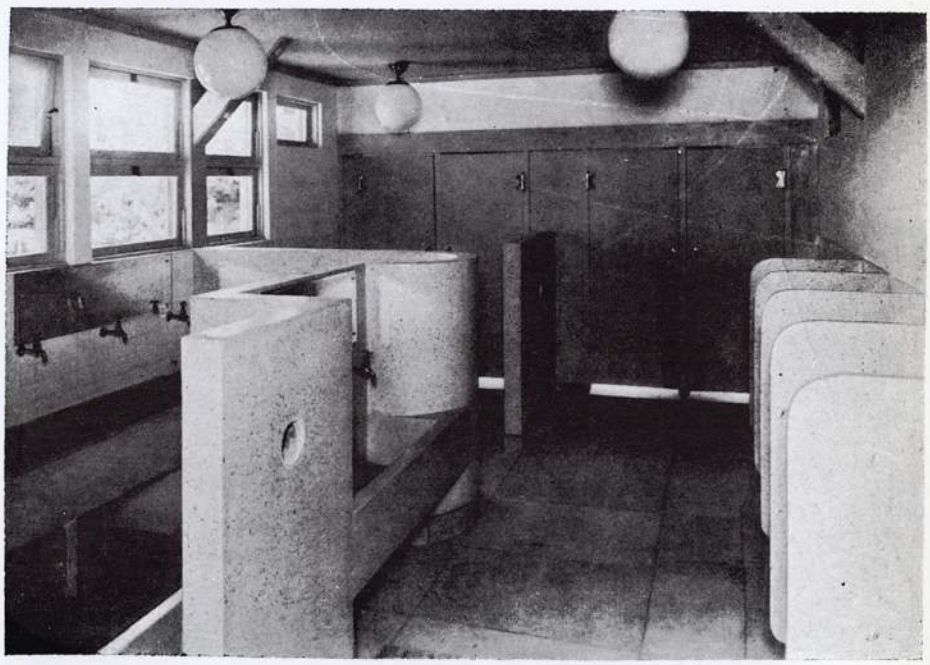
床モザイツク・タイル
腰甲丸タイル　笠木白タイル
右側棚及鏡廻リ，鹽地ペニヤ製ニス仕上
棚天板及仕上リ，ビドロライト張リ
左側隅　頭洗ひ流し
壁　プラスター仕上





女子浴室

浴槽床　人造研出
腰廻り五寸角白タイル
壁天井ビーリング灰色ペンキ
右側扉，洗濯室へ
壁天井取合せは換氣用起リ天井（幅6尺）



床巾木　人造研出市松
腰　クリーム色タイル
右側　小便所　隔てテラゾー
突當リ　大便所
左側　洗面所
テラゾー・スクリーンは手洗ひ兼用
木部全部ペンキ塗

本館二階便所



寮２階外部

バルコニー床　長手タイル
テ　ス　リ　内板張ペンキ拭き取リ
　　外石綿板白セメント吹付
寮は鎧窓並窓を設け雨戸付き
軒先　４尺持出し　　出桁　杉丸太
軒裏ペンキ拭き取り（此の部分の屋根
ステンレス板サラシ葺）
木部ペンキ仕上

右手棚は外よりの下足箱
床中央フローリング・ブロック，
両側リグノイド
腰ペンキ鼈地粗ニス仕上げ

寮１階廊下



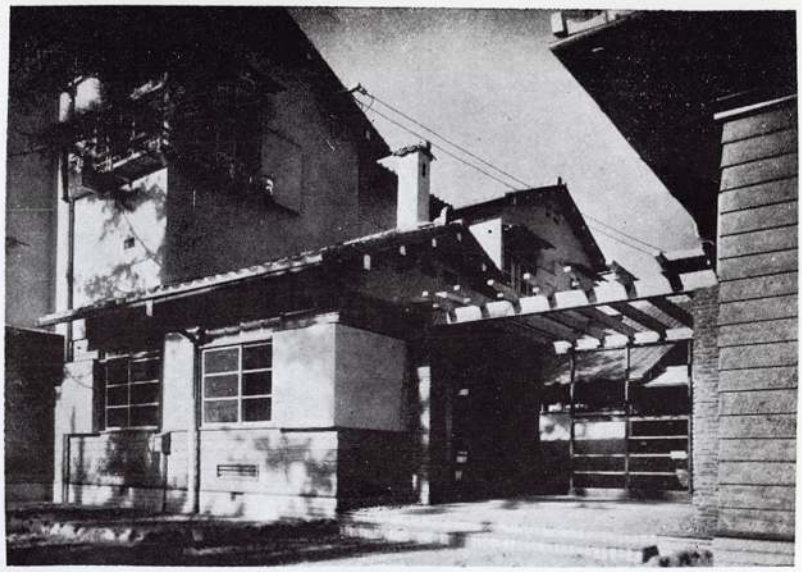


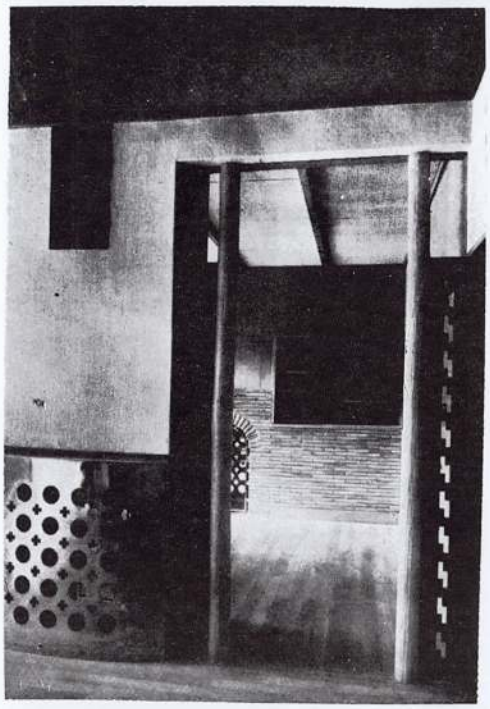
寮洗面所附近

右手階段，中央洗面所
左右の箱はコック臺，裏板ステンレス打抜き
腰壁廻リラスモザイック
壁，プラスター
柱，大面取リニス仕上，面ペンキ
左手ドアー寮母室へ
造作材，鼈地ニス

本館職員玄關附近

パーゴラの部分職員玄關
左側平家部分使丁室二階附掛付の部分
寮母室
建物腰長手タイル下見板及軒裏ペンキ（松葉色）拭き取り
壁白セメント入モルタルカキオトシ屋根は面取リ日本瓦
パーゴラ柱は丹波石積，床はタイル及び鐵平全張り同上部
ペンキ拭き取り
パーゴラの向ふは中庭をへだてゝ廊下が見える

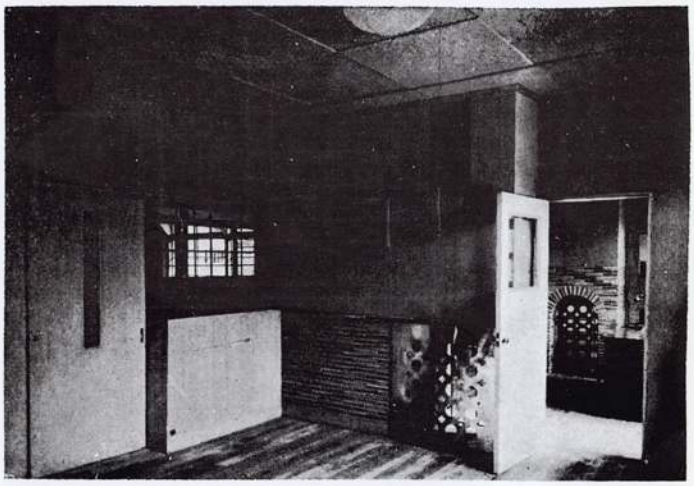




會議室より園長室を見る

境の丸太は增しほ丸太透し杉板
左手マントル・ピース
壁オリエンタル・クロース，天井テツクス

床　　ブナフローリング
造作材建具ベニヤ共，胴地ニス仕上げ
壁・　日本クロース
天井　テツクス市松張り
左手引違ひ「フラツシュ・ドアー」は廊下より入口，その隣り窓下廊下側より上草履入棚，右「ドアー」は園長室へ
「マントル・ピース」には「ストーヴ」を入れる。
ステンレス打拔板，腰タイルは泰山タイル
目地ラツカー塗，同上部，戸棚，櫥．オリエンタル，クロース張り

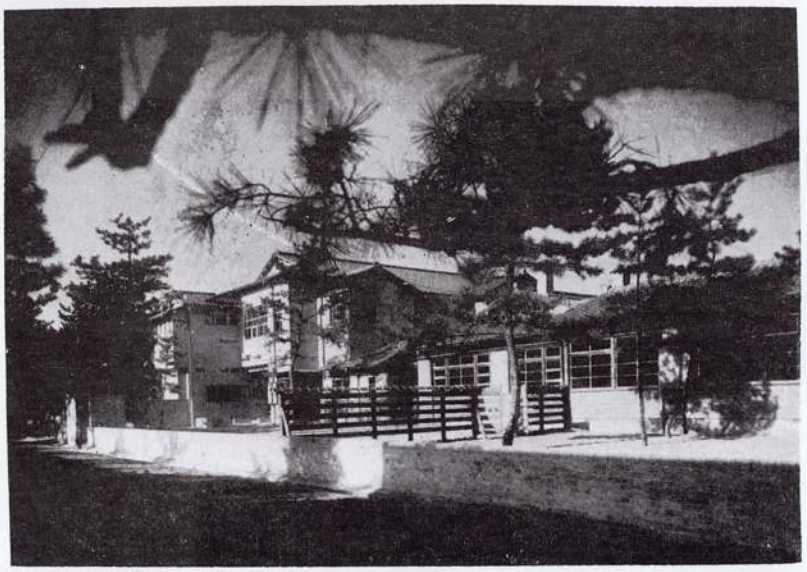


應　接　室



觀察室

玄關側より見る
下見板はイギリス下見軒裏共ペンキ拭き取り
壁モルタルカキオトし屋根日本瓦
左方入口は臺所出入口
右手下隅に見える屋根は井戸蓋ひ



平家と二階建の取合せの場所が職員玄關
左端小建物は正門横門衛
門衛右小格子窓及連子窓のある所が兒童玄關
前面の棟瓦棚は白セメント吹付け
裏玉石積み生垣とす

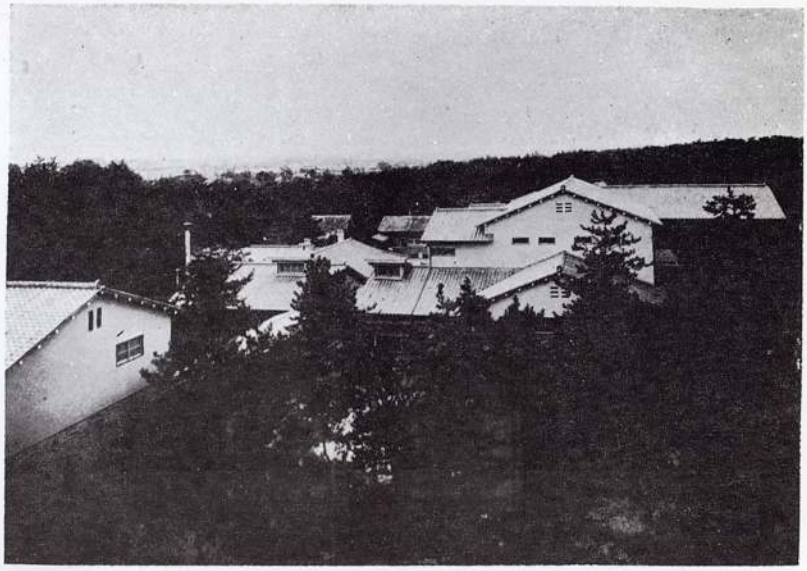
本館南面



階下食堂2階遊樂室，右手は寮
隅の突出部は手洗ひ場
寮の右下部格子模様は下足箱
右端別棟寮への渡廊下

食堂西北面

水槽塔上より見たる
本館全景（左手は校舎）



水槽塔は高さ約3米の砂丘上に立ち全高約13米
綠松，白砂の中に自然の美を害はず附近と調和して建築せる兒童の樂園



寮　北　面

切妻部分下部は階段の上下を利用して寮母室に部屋を取る
寮外面仕上は本館と同様
松の根本に兒童用手足洗ひ場が見える
右手松葉越しに見えるは便所

還　　境　此の地は古來茅渟（ちぬ）の浦と浦へられ風光明媚を以つて知らるゝ白砂青松の名勝にして，空氣中のオゾン含有量は本邦に於て最高なる健康地なり。交通亦至便。

目　　的　市内小學校の虚弱兒童を收容し、其の健康增進、躰質の改善を圖ると共に學課を修得せしめ併せて健全なる國民精神を涵養す。

收容兒童數　**定　　員**　約250名
人圖資格　尋常科第3.4.5.6年兒童
但し傳染性疾患兒、その他特に醫療を要する兒童及び操行、學業の不良兒を除く。

收容期間　第1學期　4.5.6月
第2學期　7.8.9月
第3學期　10.11.12月
第4學期　1.2.3月

費　　用　1日約50錢の食費を徵收す。

建　　物　瀟洒なる近代的木造

本　館…園長室、應接室、會議室、職員室、食堂、炊事配膳室、醫務室、病室、レントゲン室、暗室、看護婦室、娯樂室、宿直室、休養室、作法室、理髪室、浴室、洗濯室、乾燥室、ボイラー室、物置、使丁室、便所。

學　舍…教室（6）開放教室（2）標本及掛圖室保護者應接室、理科實驗準備室、物置便所。

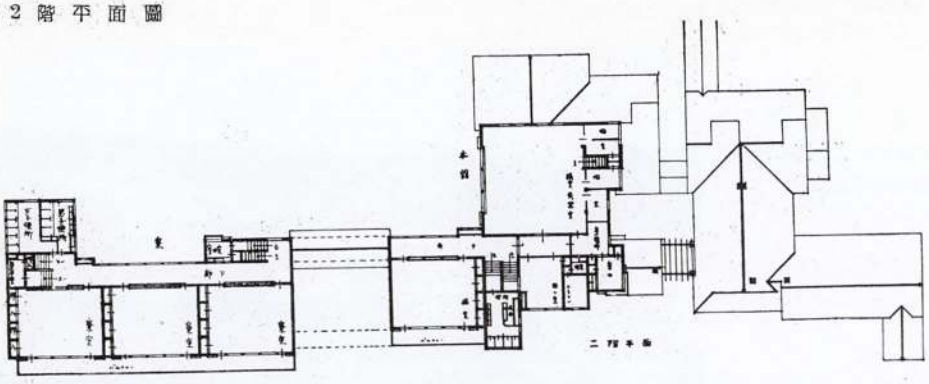
寮　舍…寮室（9）寮母室（3）日光浴場、保護者面談所、便所。

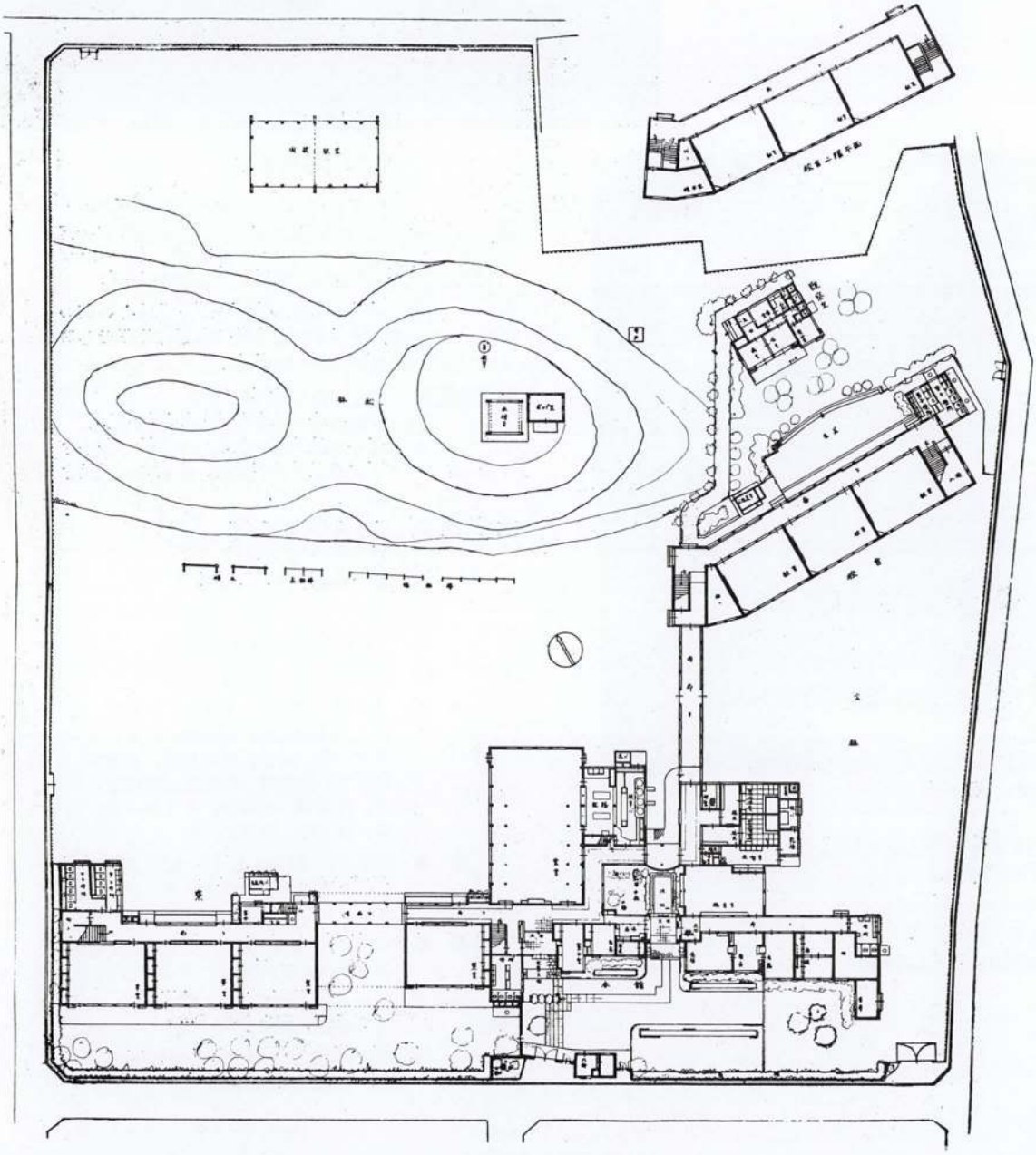
觀察室…病室（2）醫務室（1）看護婦室、炊事場、浴場、便所。

其　他…國旗揭揚臺、守衛所、給水塔及ポンプ室、花園、禽舍、動物舍。

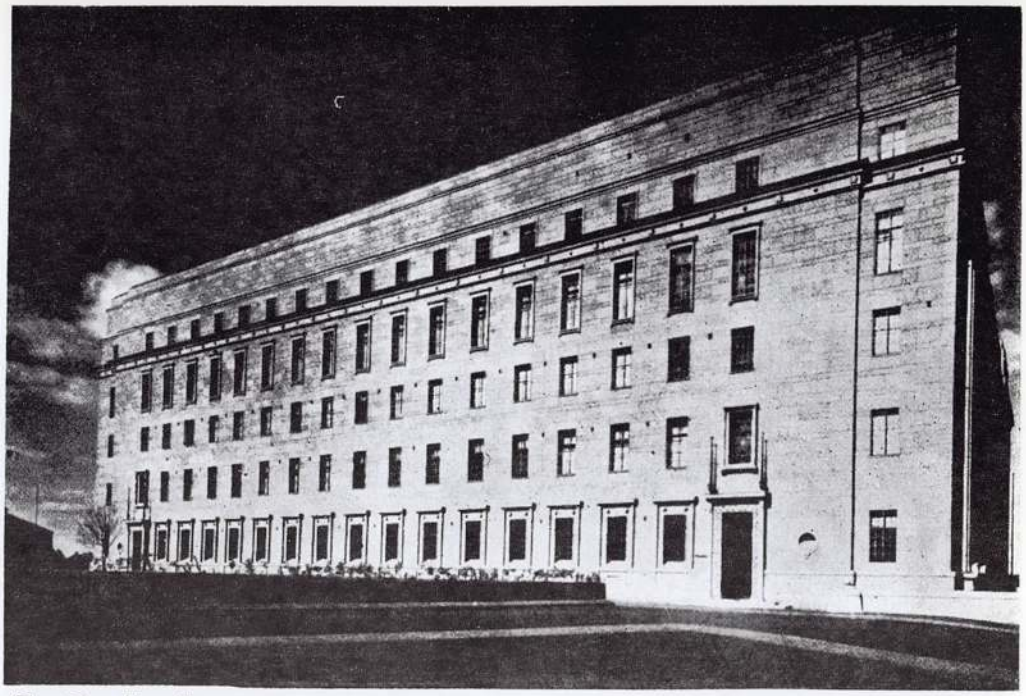
助松郊外學園（大阪）　設計・大阪市營繕課　施工・淺間組

2階平面圖





1階平面圖及び配置圖



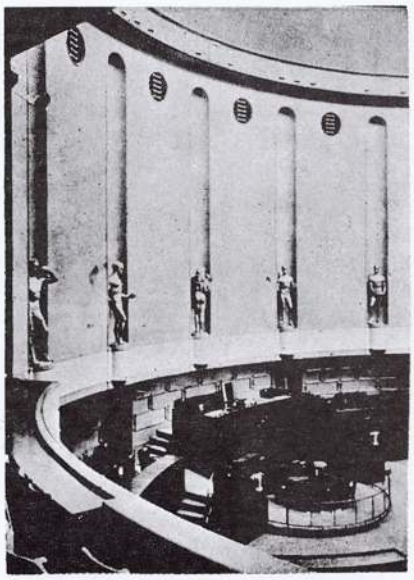
側面外觀



正面外觀



ホール



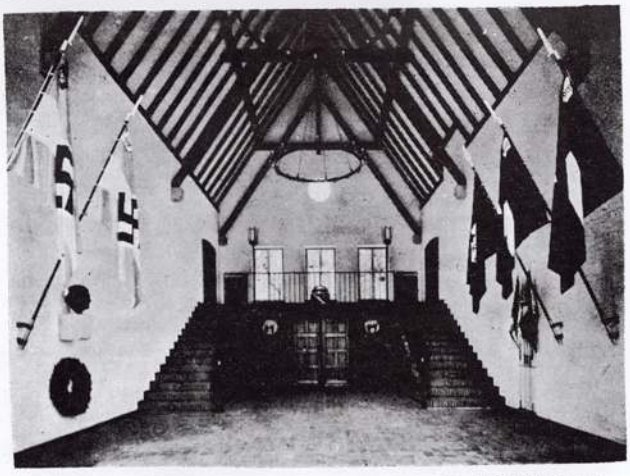
議場

(Moderne Bauformen, Nov,. 1939より)

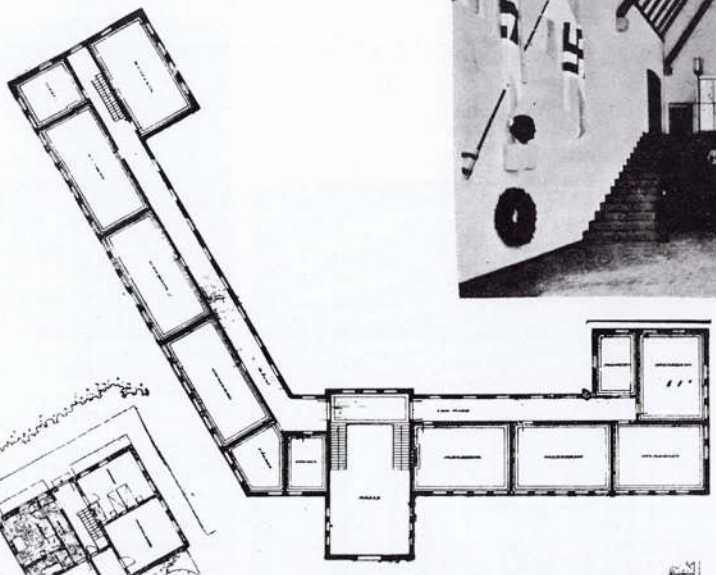


外　觀
入口の右は女子部
左は男子部

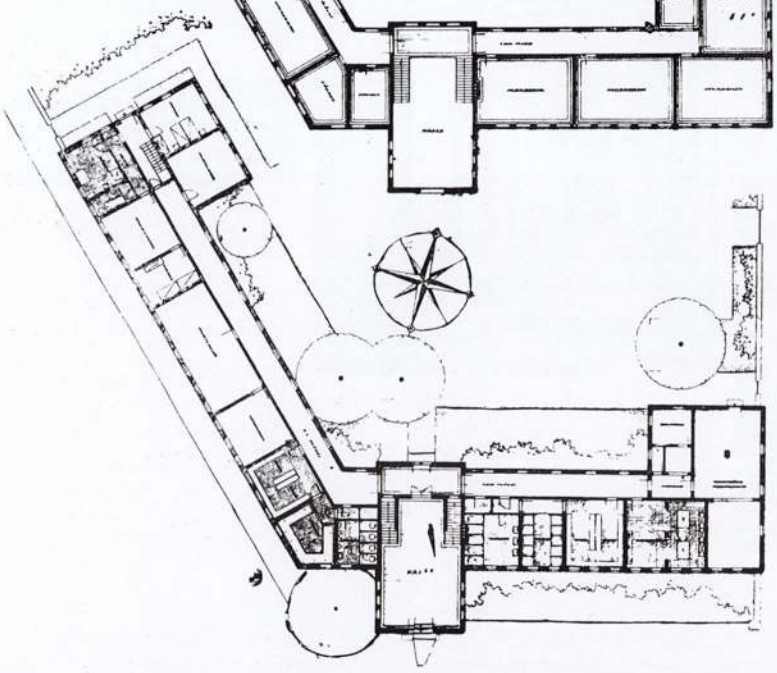
(Moderne Bauformen, Nov., 1939より)



入口廣間正面

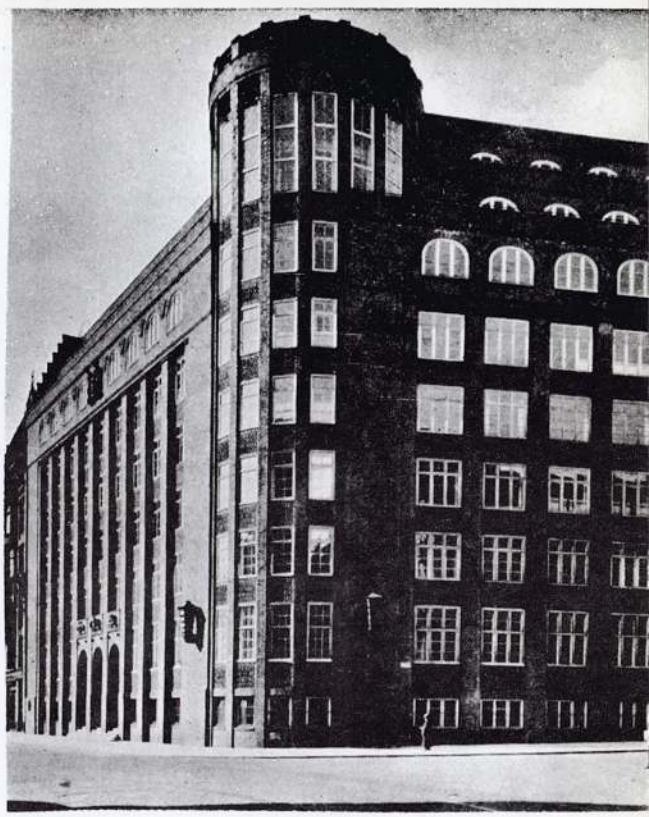


2階平面圖

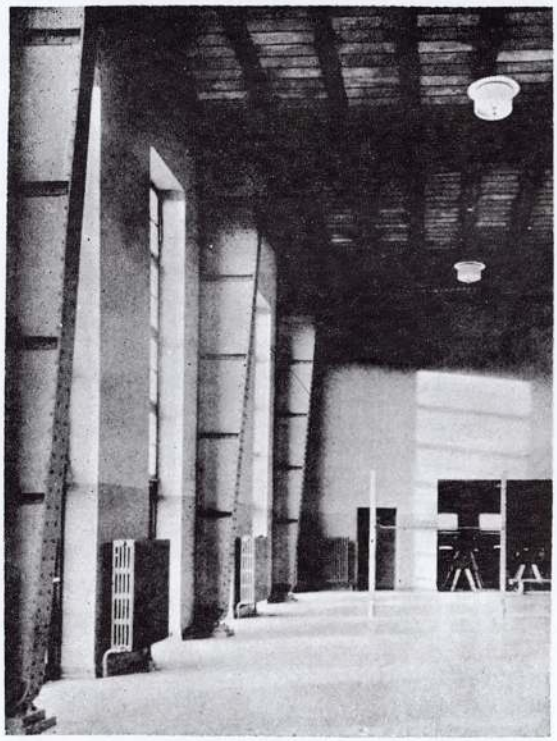


1階平面圖

12　(ドイツ) ヒルデンのヒットラー・ユーゲントの家　建築家・H. Hentrich 及 H. Henser



第 1 圖



第 3 圖

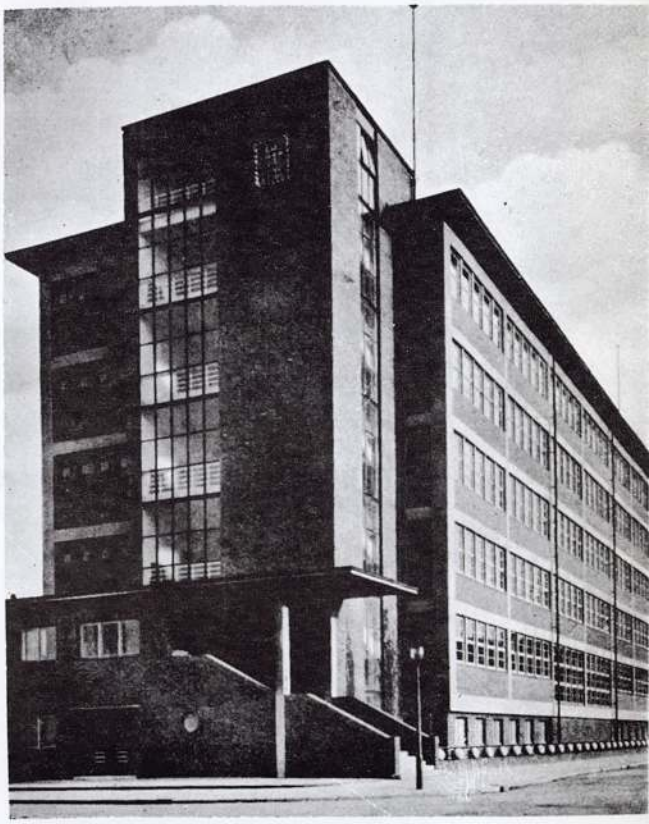
獨乙傳統派の巨匠ハンブルグの Fritz Schumacher 教授は去11月4日を以て，70歳の誕生日をむかえたので Bauformen 誌はその祝を述べて居る。

第一圖はハンブルグの財政局の建物でクリンカー・タイルとテラカツタを使つた教授獨特の手法になる建物大戰前後の全盛時代に遺つたものゝ一つでなる。

第二圖は獨乙新建築運動の影響を受け比較的新しい手法になるものでハンブルグの國民學校1929年の作である。

第三圖はハンブルグ附近の學校の體育室で1931年の作である。

(Moderne Bauformen, Nov., 1939より)

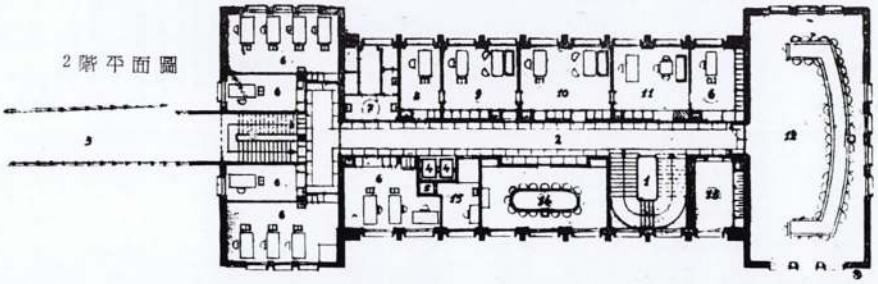


第 2 圖

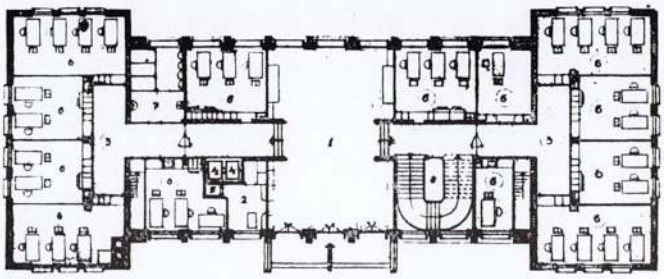


外　　觀

2階平面圖



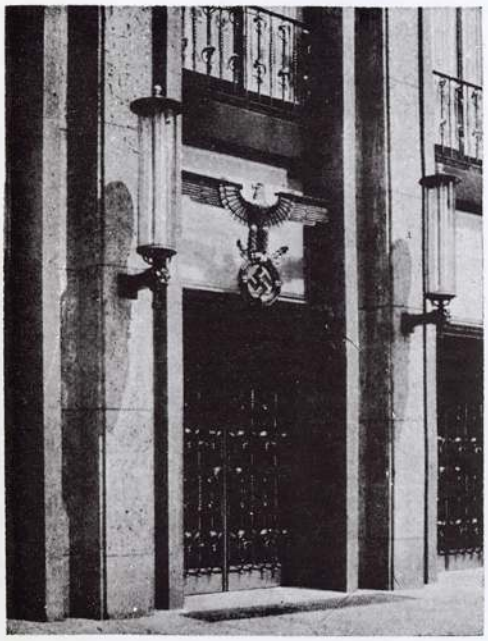
1階平面圖



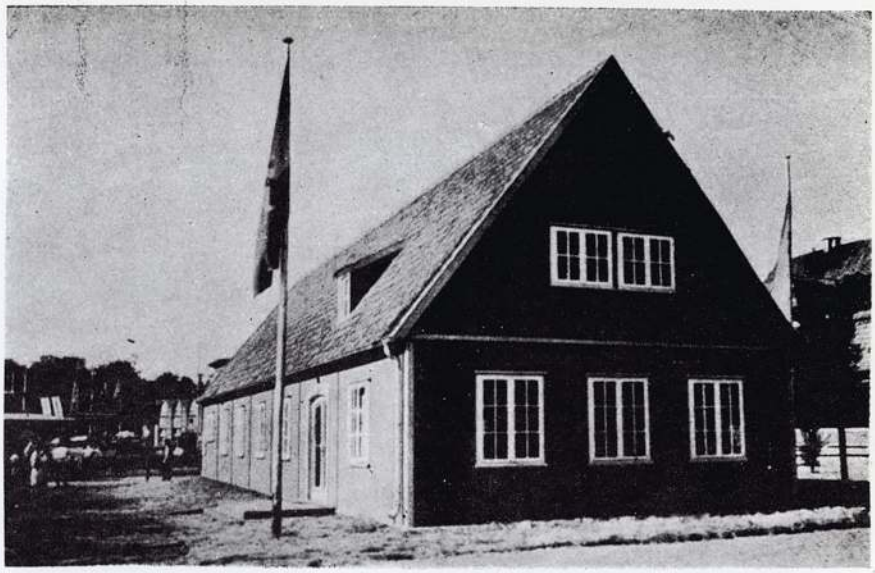
舊聽舍の東側に道を距てゝ增築の新聽舍は陸橋で連絡する樣になつて居る。

玄關廻りの壁はトラバーテン貼付、扉、窓格子、鷲の飾りは Kotthoff 氏の手作り。窓は磨きガラス入。

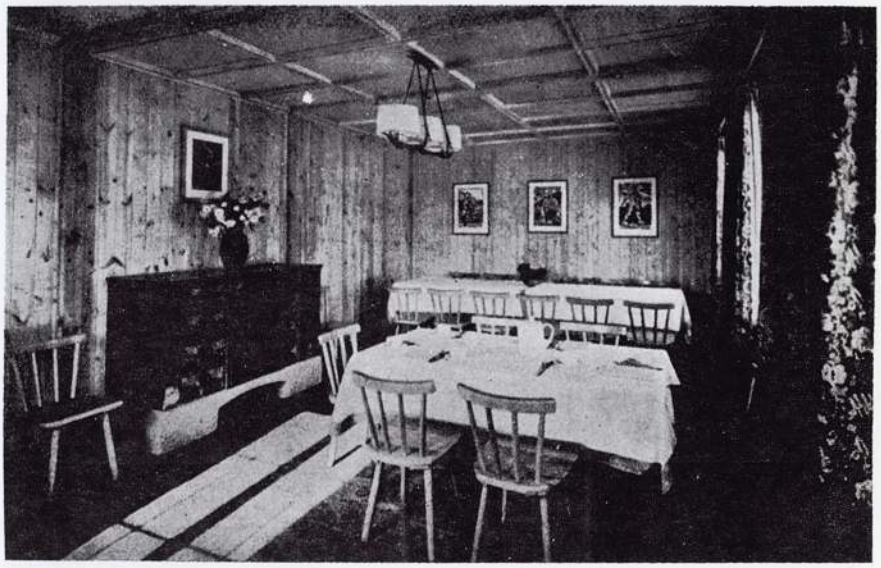
(Zentralblatt, Oct., 1939より)



玄關出入口



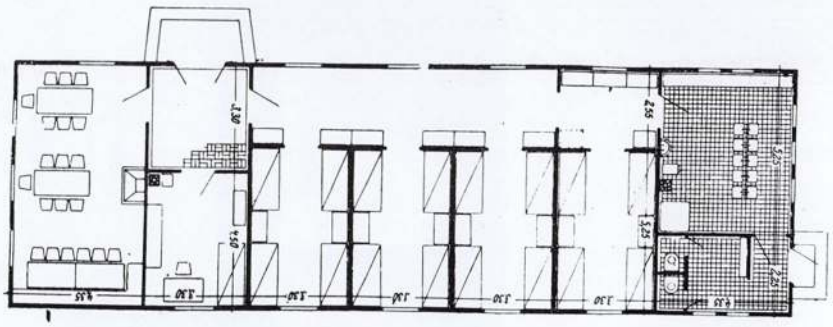
外　觀



食　堂

樅の小角材で床も壁も貼つたバラックである。主として寢室をとりベツドは二段となり都合32ベツドあり外に指導者の寢室と食堂及洗面所が附屬する。炊事は別棟でする樣になつて居る。

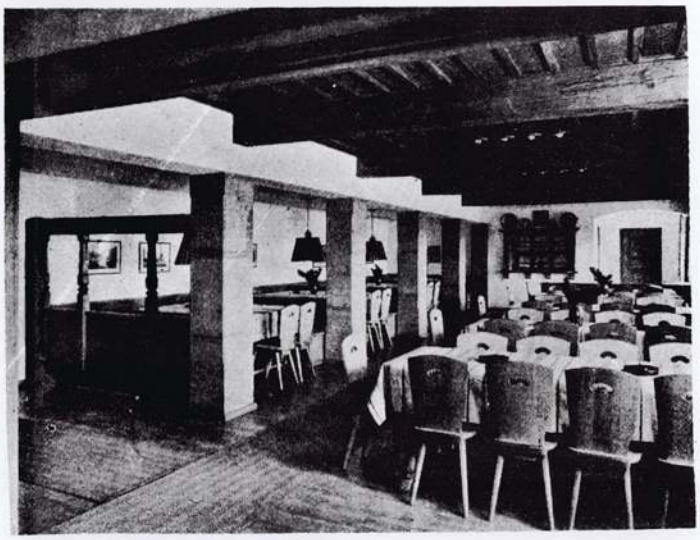
(Zentralblatt,Oct., 1939 より)



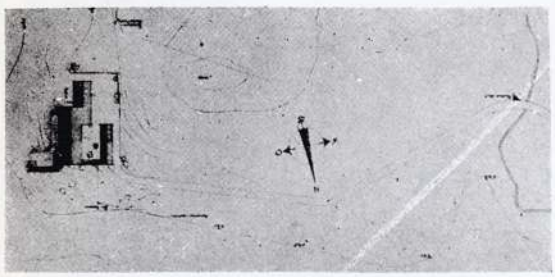
平面圖



南　面　外　觀



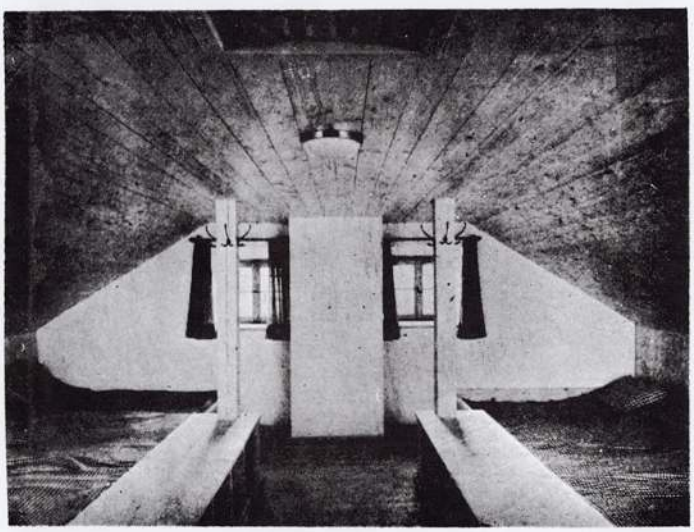
食　　堂



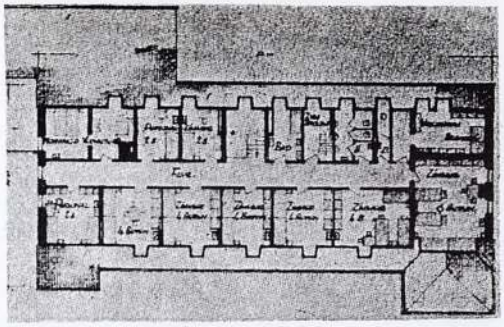
配　置　圖

ウアイエルの南野及びアルゴイの上山脊に1937—38年に建てられた警察スキー練習所は，國內防禦軍たる警察官の慰安施設に對してイニシアチブをとるものである。

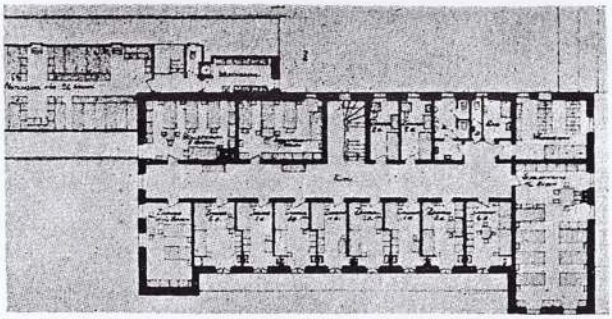
立案は Otto Thiel 指導の下，Gablonsky 教授に依つてなされた。建物は赤味勝ちの壁をもつたスキス風のフユツテであり收容人員は双方共に100名である。



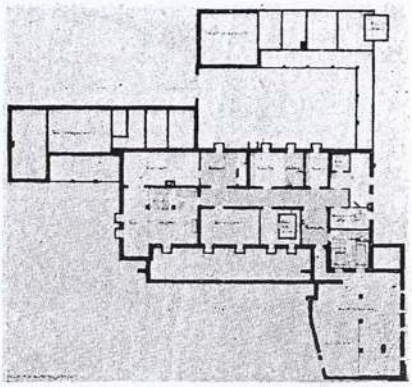
屋根裏の寢室



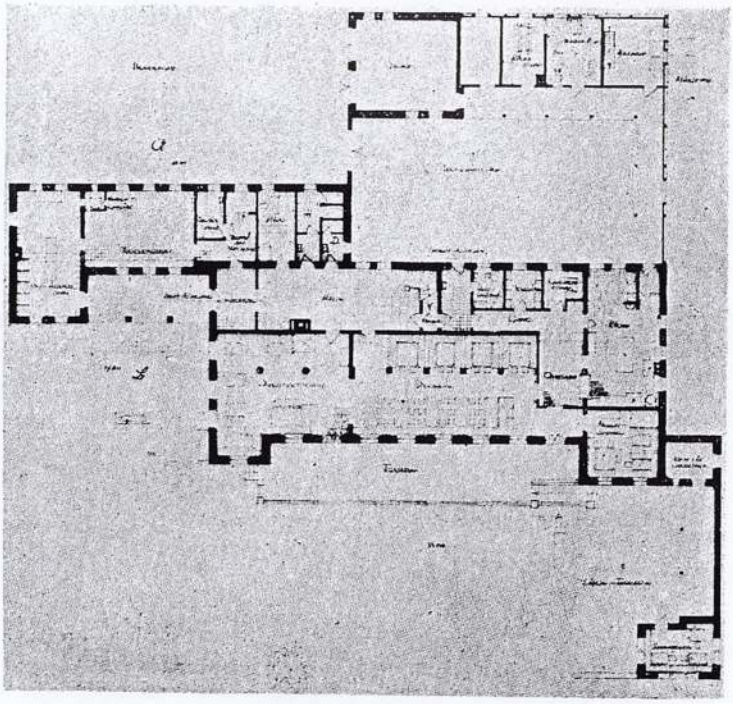
3階平面圖



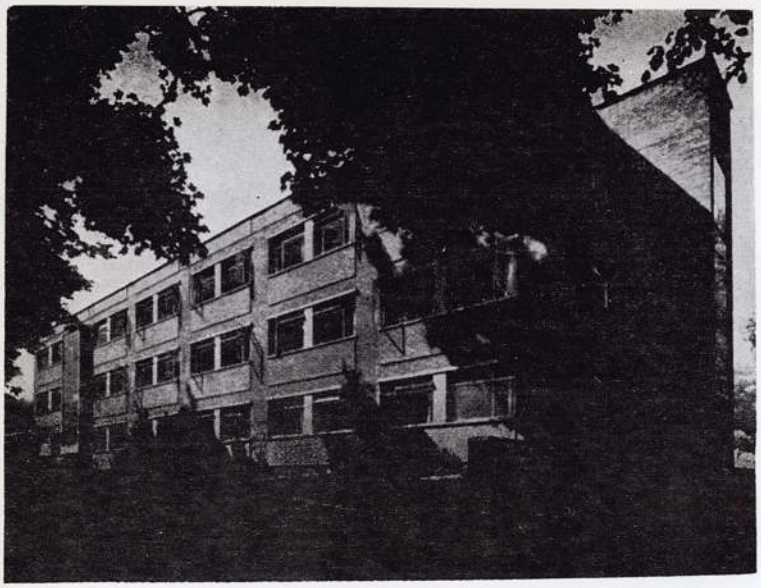
2階平面圖



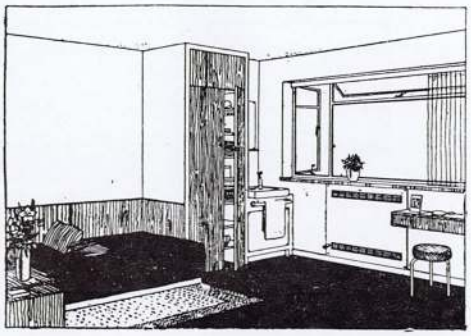
地階平面圖



1階平面圖

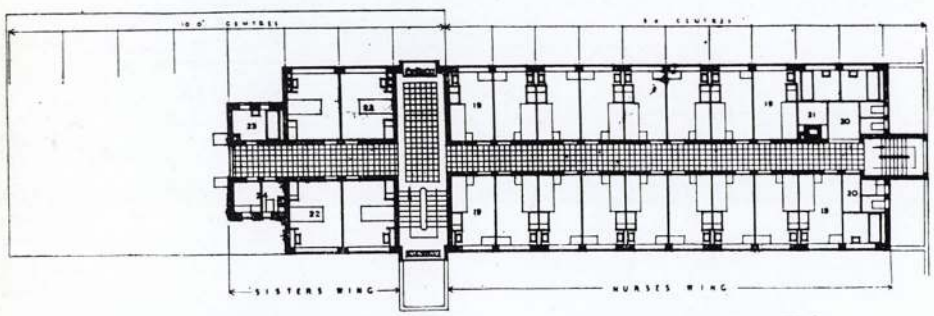


外　觀

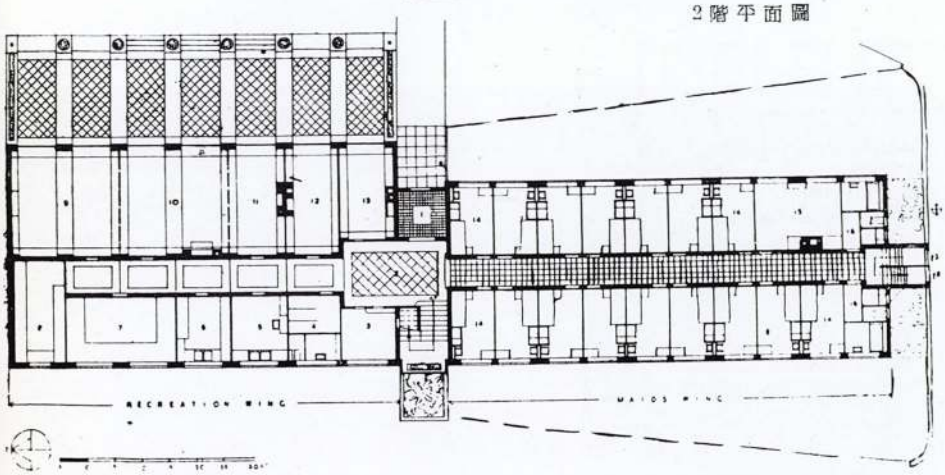


寢室室內配景

懸賞募集の1等當選案によつて實施されたもので，極めて簡單な平面からなる3階建で，大部分は看護婦，附添看護婦，雜役婦の寢室であるが，此等の寢室が3つの群にはつきり分れるやうに巧に配置されてゐる。寢室には建付の洗面器と衣裳戶棚があり，窓下にラヂエーターの設備があるのみならず，タオル掛にもスチームが通されてゐる。寢室以外の部屋としては，西端平家の部分に娛樂室，談話室その外側には廣いテラスがあり，娛樂室，談話室の後側には各種の作業室及び倉庫がある。構造は柱及主要壁體が煉瓦造，床及梁が鐵筋コンクリート造である。



2階平面圖



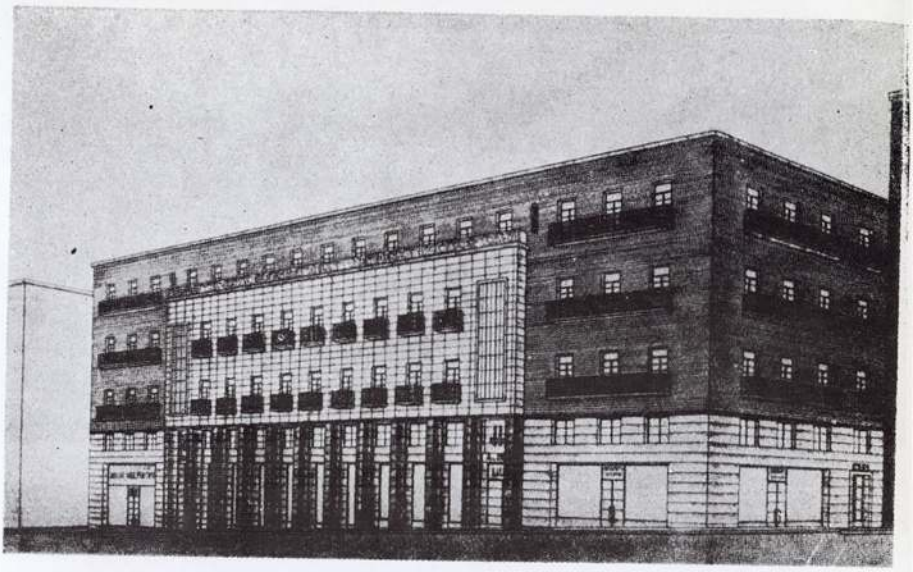
1階平面圖

平面說明

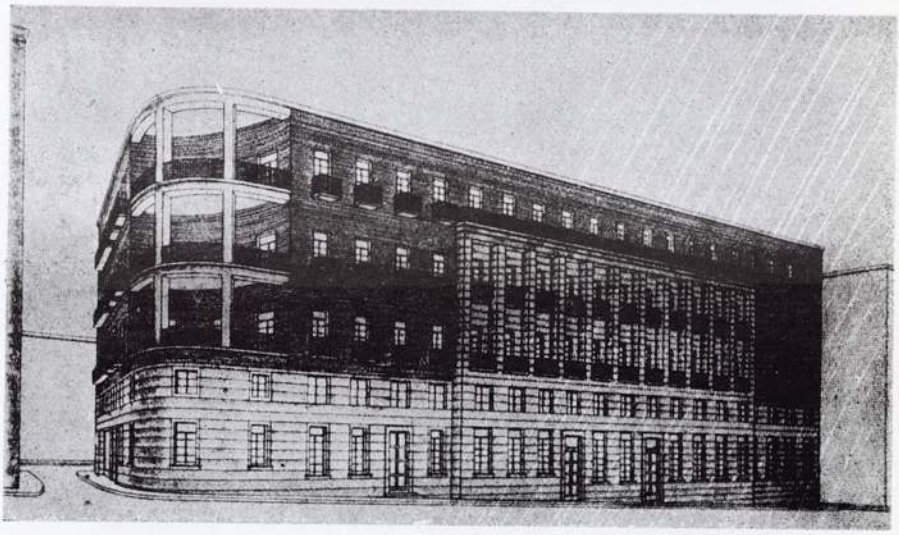
1，入口ロビー
2，ホール
3，受付
4，外套室
5，洗濯室
6，臺所
7，トランク倉庫
8，白布室
9，娛樂室
10，年少看護婦談話室
11，成年看護婦談話室
12，附添看護婦談話室
13．看護婦次長の居室
14．雜役婦寢室
15．同上居室
16．同上浴塗，便所
17．非常口
18，ボイラー室
19．看護婦寢室
20，同上浴室，便所
21，倉庫
22，附添看護婦寢室
23，同上浴室
24，同上便所

（Architectural Review, Oct.,'1939より）

デイオドーロ街とデイオーネ街との角よりの透視圖

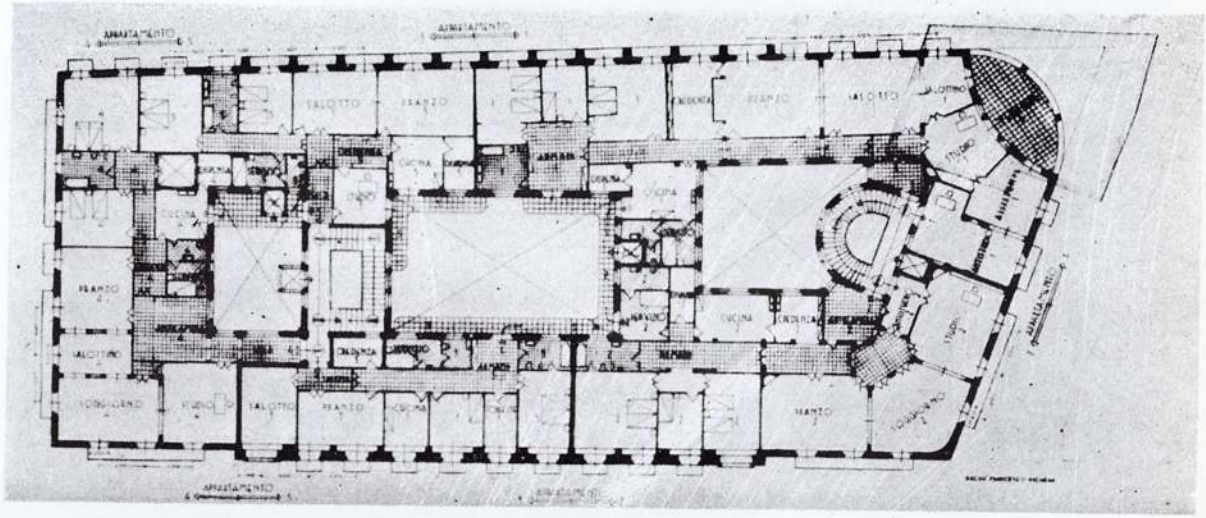


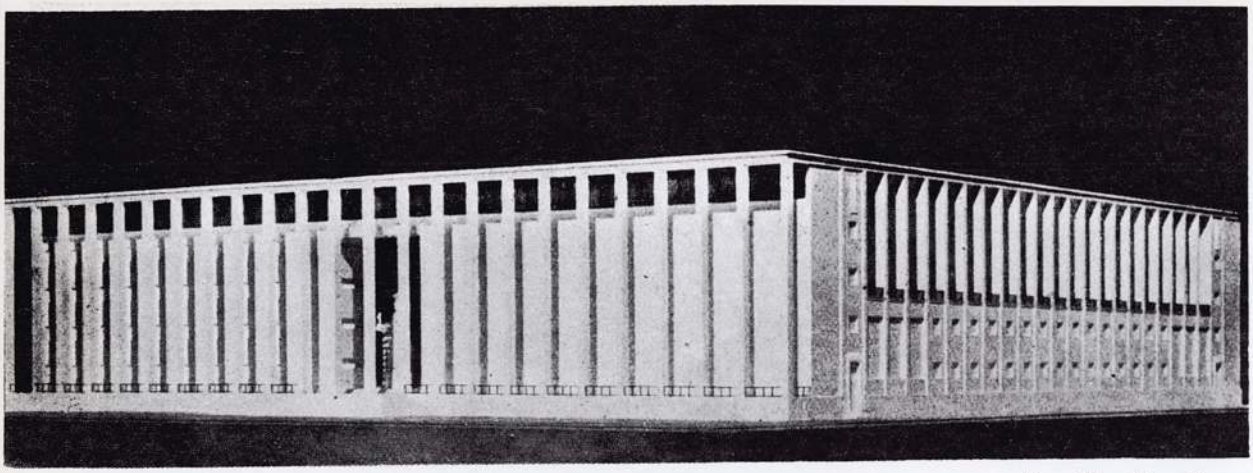
デイオドーロ街の透視圖



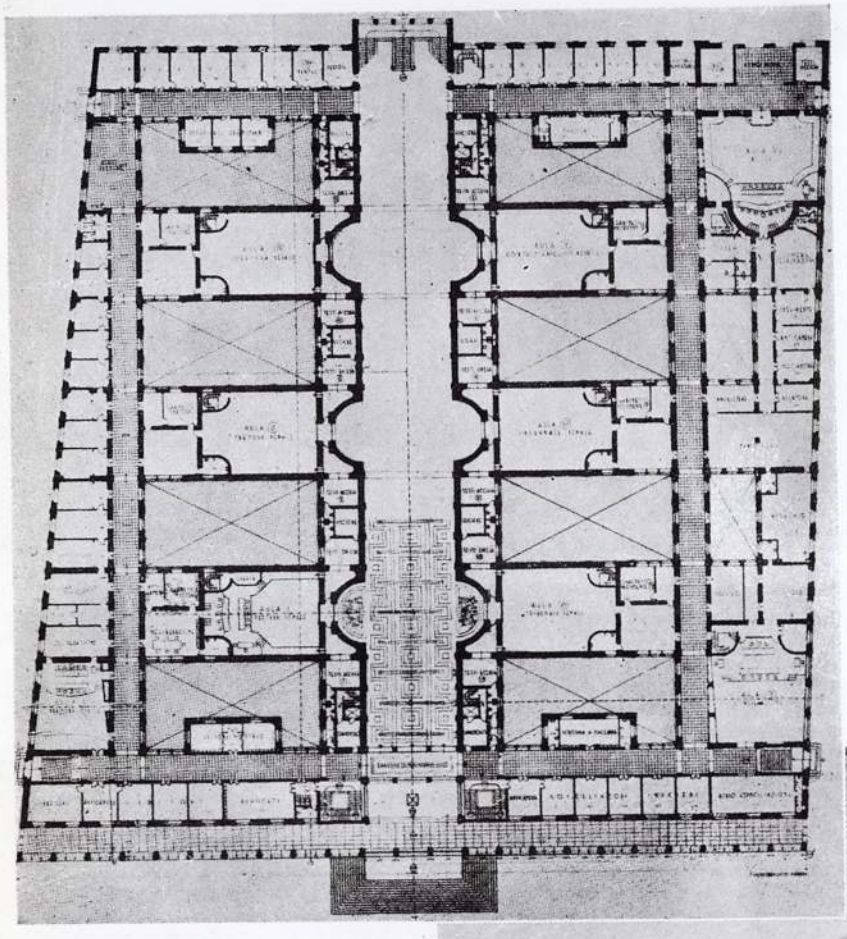
(Architettura, Ott., 1939より)

共通階平面圖



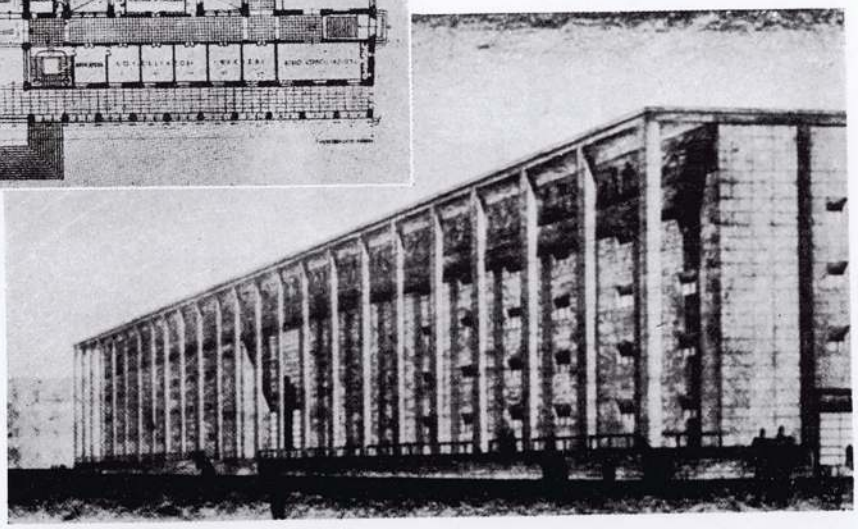


外観模型



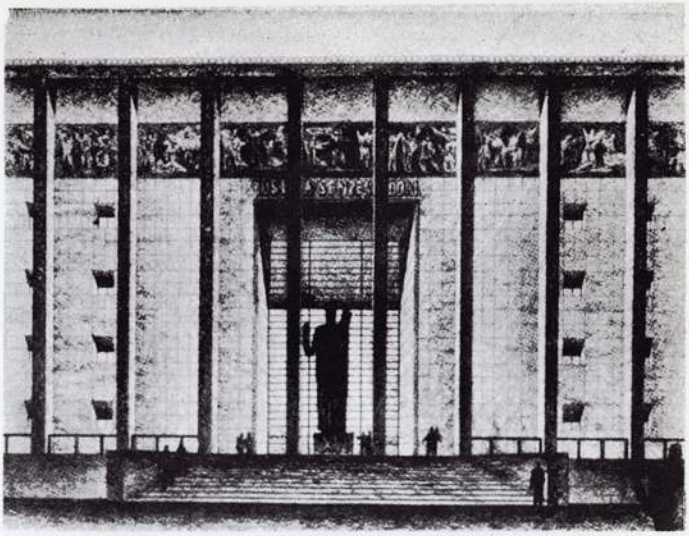
1階平面圖

透視圖

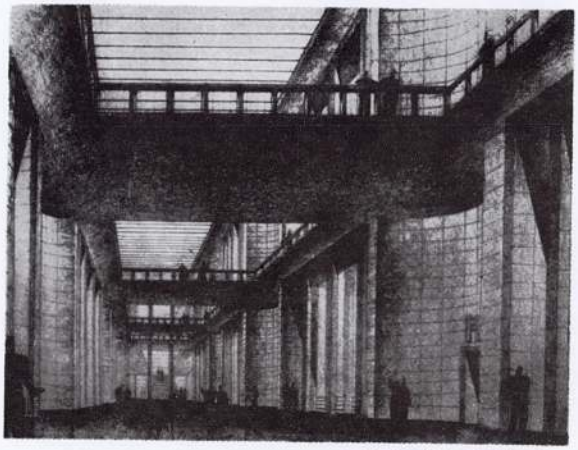


（イタリー）シシリー島カタニヤの裁判所

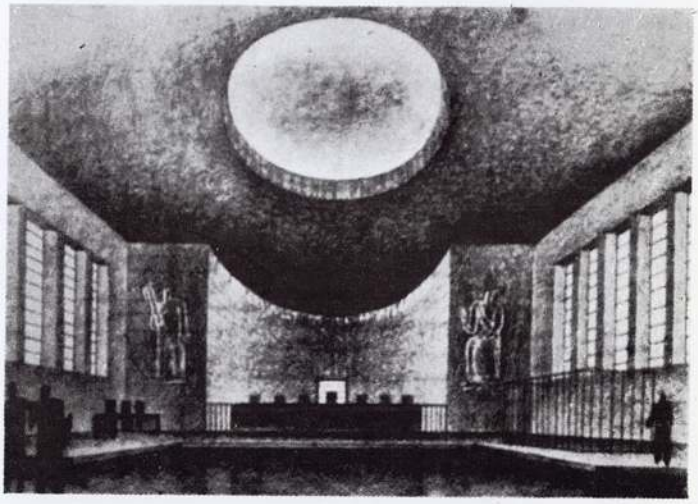
建築家 Francesco Fichera



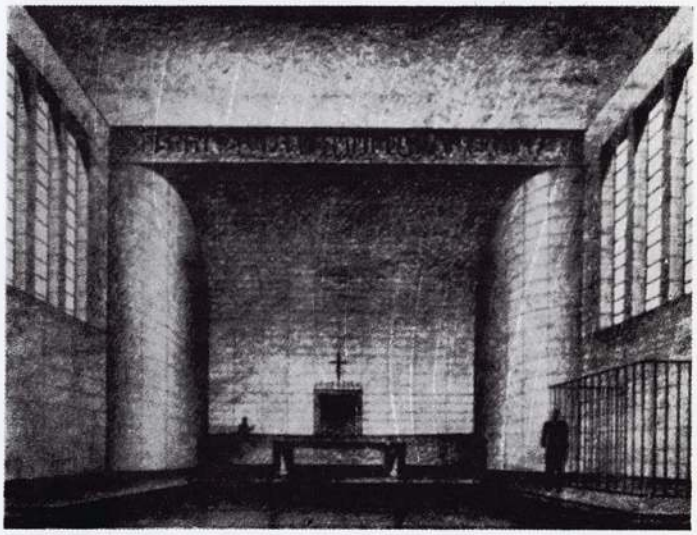
正面外觀細部



內部中廊下透視圖

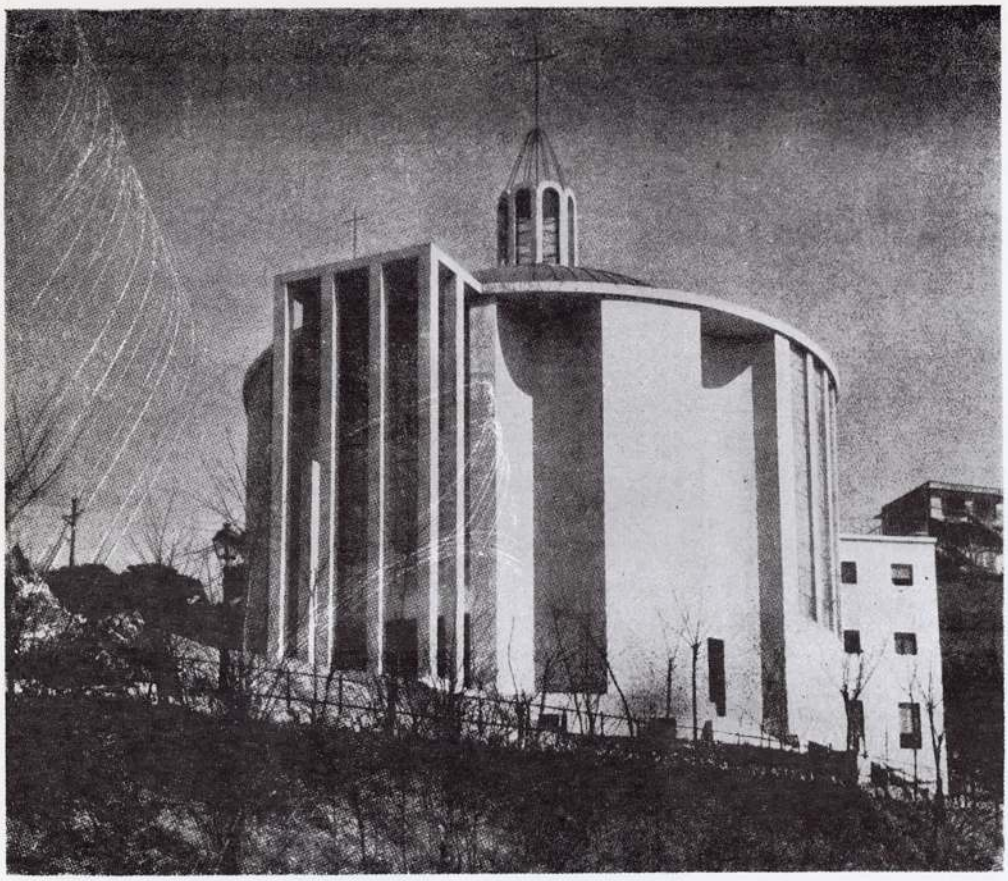


陪審院內部

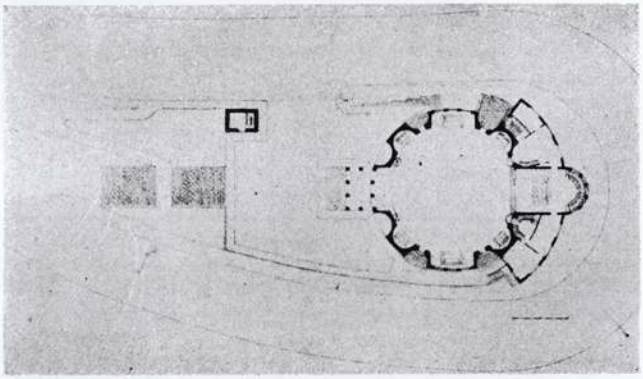


法廷內部

(Architettura, Ott., 1939より)

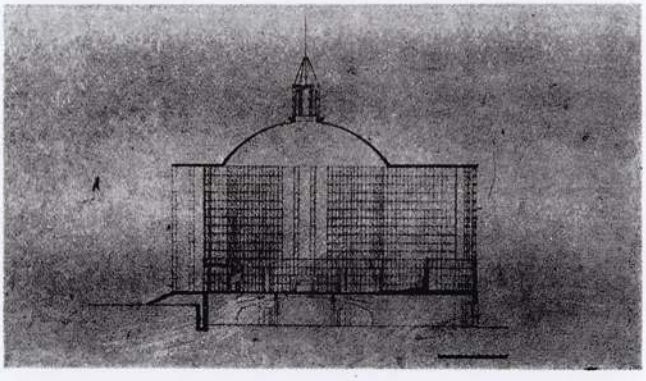


外　觀

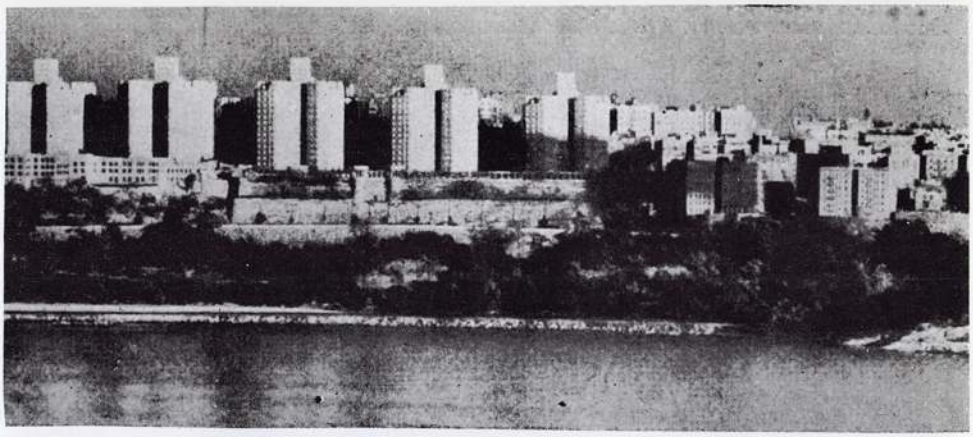


平面圖

(Architettura, Ott, 1939より)



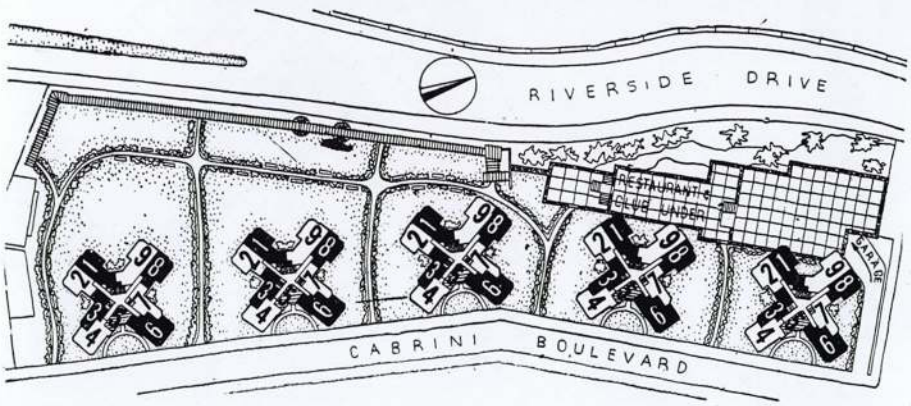
斷面圖



ハドソン河よりの遠景

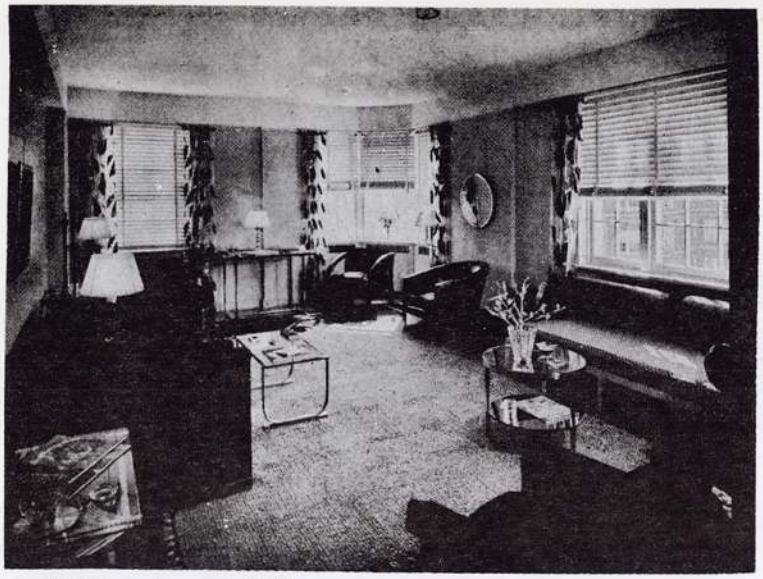


外　観



配置図

（アメリカ）"Castle Village" のアパートメント　建築家・George F. Pelham（息子）　構造家　C. V. Patern
請負者・W. Kidde 商會　設備　V. Mayper



第4號アパートの居間

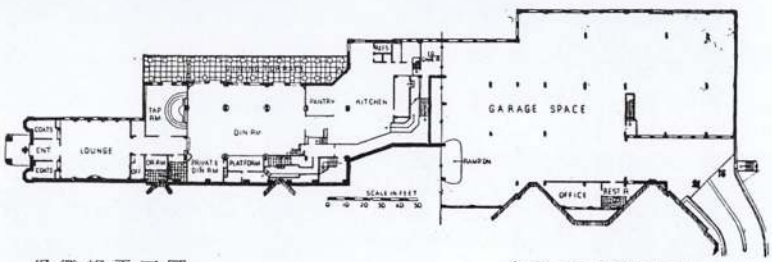
ヂヨーヂ・ワシントン橋の眞北、高200呎のマンハツタンの斷崖に建てられ、ハドソン河の眺望を180°の視野で恣にする高層アパートメントである。

アパートメントは5つの十字形の建物より成り、戸數を出來る限り增すべく階級を非常に多くしたので、スカイラインに於て堂々附近を壓する高層建築群となつた。恐らくアメリカに於ける鐵筋コンクリート造アパートメントとして最高のものであらう。

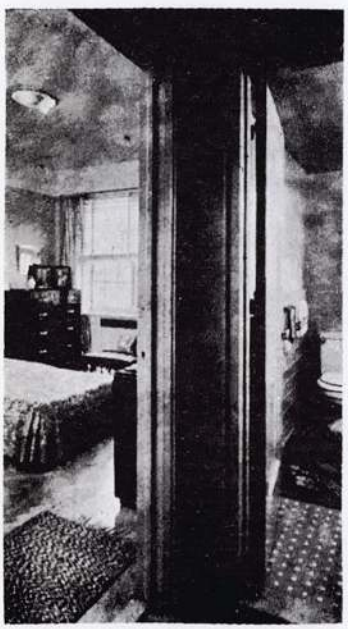
巧みな平面計劃に依つて90%の居住者が展望を恣にし、569の全居住者が食事と慰安との設備に不自由することなく、又300臺の自動車に對する車庫の設備もある。

この敷地には以前にお城があつたものでありこのアパートメントの建設者がお城の以前の持主であるのと、お城跡にふさはしい浪漫的で劇的な雰圍氣が人氣を呼んで、開館1箇月にして70%の居住者を得たと言はれてゐる。

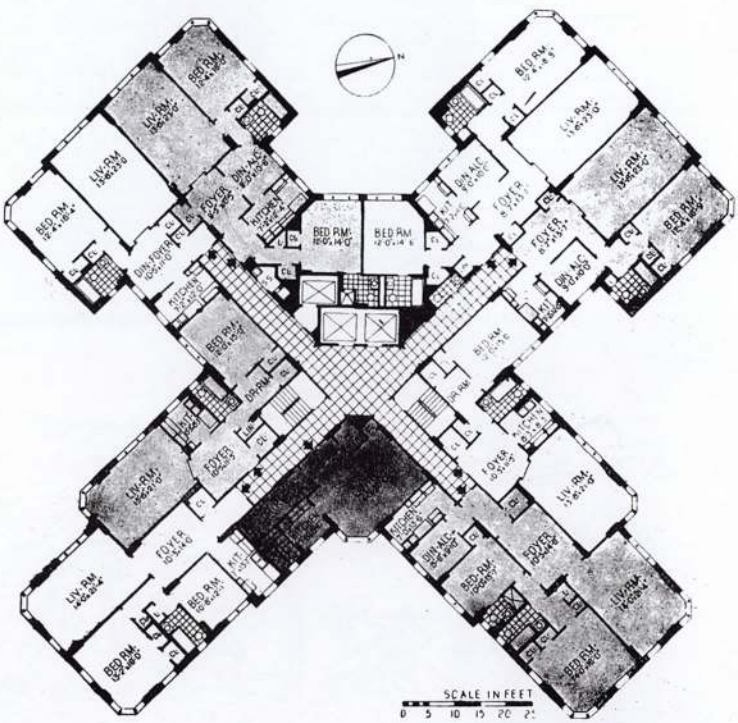
(Architectural Forum, Nov., 1939より)



倶樂部平面圖　　自動車車庫平面圖



寢室と浴室內部



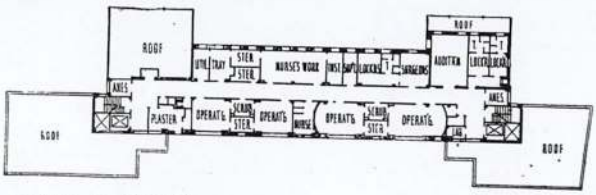
代表階平面圖

(アメリカ) "Castle Village" のアパートメント

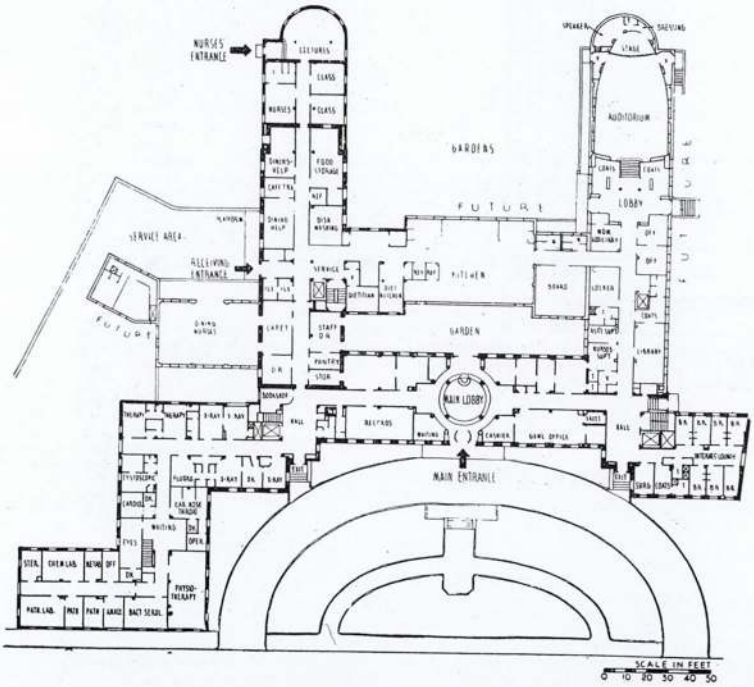
建築家 G. F. Pelham　構造家 C. V. Patern
請負者 W. Kidde商會　設備 V. Mayper



正面外觀



6階外科平面圖



病院の計畫に於て最も重要なことは、將來擴張の際に引續き營業を續け乍ら工事を進め得るといふことである。そこで工事中も營業を繼續する爲に全體として最上のプランが得られないといふデイレムマに陷ることが往々ある。

ここに掲ぐる實例は中程度の綜合病院として擴張計畫に成功してゐるものの1つであらう。

庭園を繞るU字形のプランは、道路と反對側の庭に面して南面の光線を享受する多數の病室を取るに便利で、近代病院に必要な各種の部門を明るい廊下で巧に聯絡した點、又總室と個室との上手な組合せ等プランの上に注意すべき幾多の長所を持つてゐる。

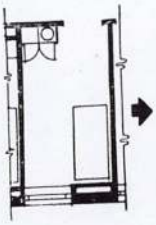
殊に4階5階の大形個室には鋸形のプランを應用し、室内の採光を妨ぐることなく庭を見下す露臺を各室に設けることに成功してゐる。

室内設備は色彩、デイテイル共に非常に優秀で、病院にあり勝な白色の單調から救はれてゐる。

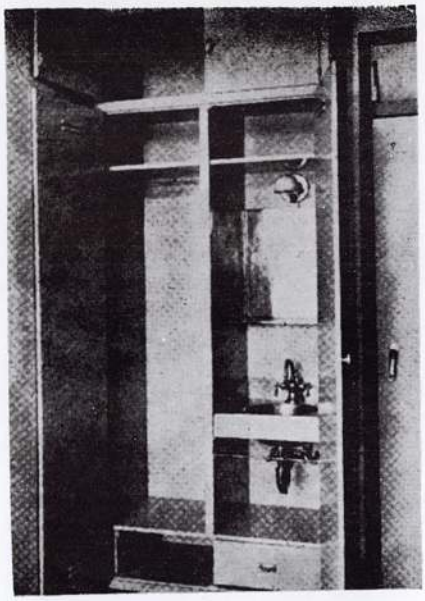
グラスブロックは盛に使用せられ、特に手術室にその効果を發揮してゐる。

(Architectural Forum, Nov., 1939より)

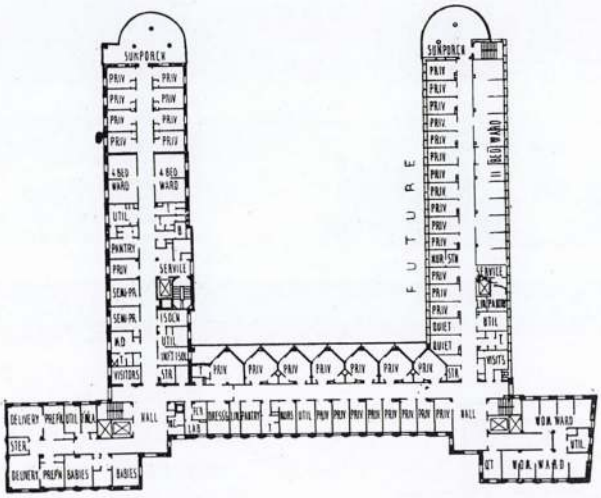
(アメリカ) ホワイトプレインズ病院　建築家 Schultze 及 Weaver



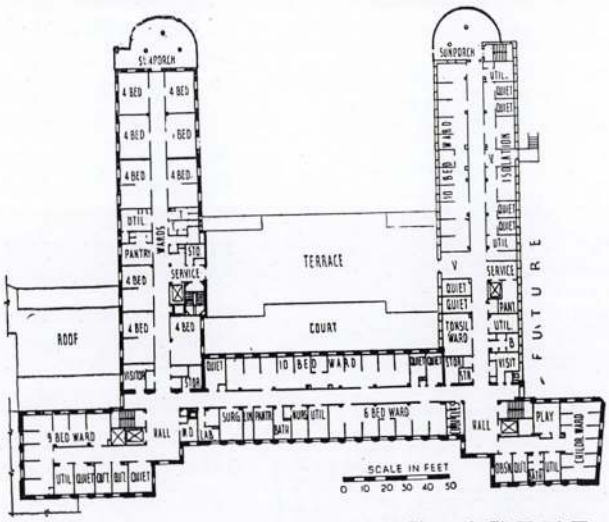
小形個室平面圖



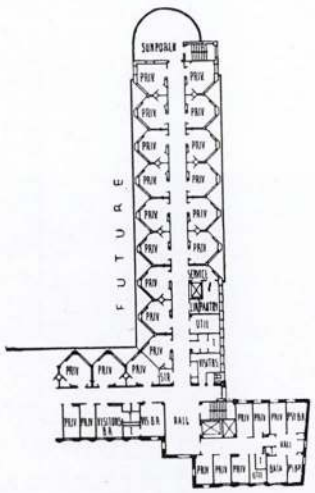
小形個室內戸棚



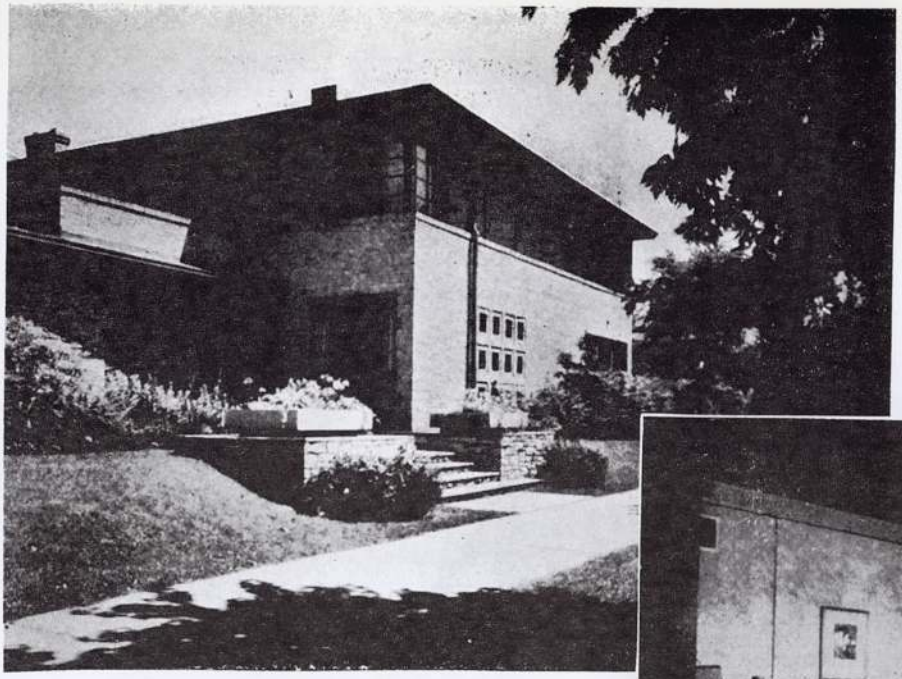
4階產科平面圖



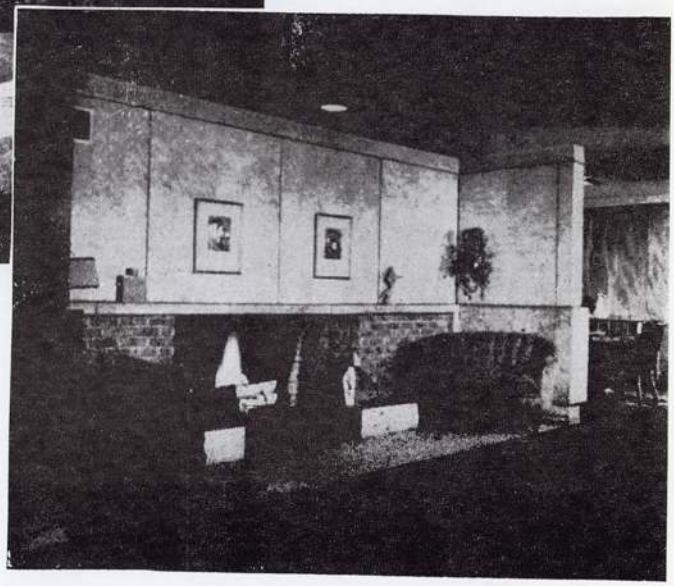
3階病室階平面圖



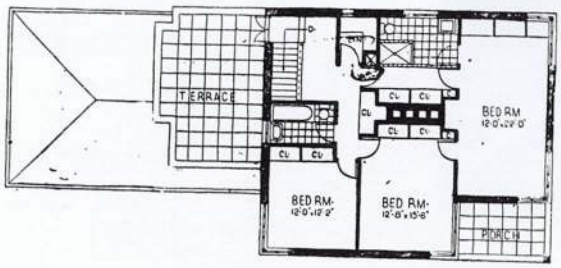
5階精神病科平面圖



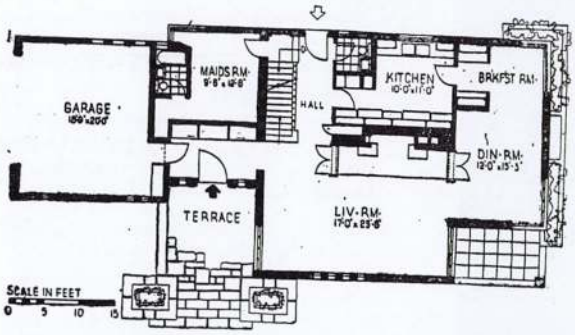
外　觀



居　間



2 階 平 面 圖



1 階 平 面 圖

シカゴの市街地近くに建てられた石造2階建の住宅。

1階は寢間，居間．食堂，小食堂等の部分を1室の中に適當に配置したオープンプランであるが居間は市街よりの騒音を防止する爲に，正面は幾つかのグラスブロックを嵌込んだほか全部壁面とし採光と換氣は左右兩側の窓からする樣に工夫せられてゐる。

2階は煙突と押入とを中心として數個の寢室に分けられてゐるが，押入の奥行の淺いのは日本のそれからヒントを得たらしく注目に値する。

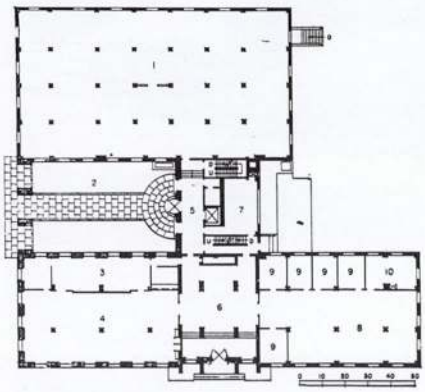
50.000立方呎，工費約　20.000弗。

(Architectural Forum, Nov., 1939より)



外　觀

本建築物は圖に明かなやうにH形の平面で，建物の一部は自動電話のスウイツチ室で，他は管理事務室である。自動電話のスウイツチ室は天井の高いのが必要なので，この方は3階，他の事務室の方は4階で1つの建物の階數が異つてゐる建物である。この連絡をうまくやつてゐるのがH字の橫棒に相等する所で，ここに階段，エレベーターが備へられてゐる。（Architectural Record Oct., より）

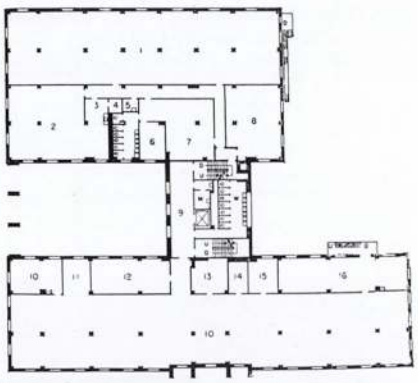


第1階平面圖

1. 自動電話スウイツチ室（この部分が3階建）　2. 入口の庭
3. 仕事室（この部分4階建）　4. 事務室　5. エレベーター
6. 入口廣間　7. 電信室　9. 商事室　9. 事務室　10. 商事室

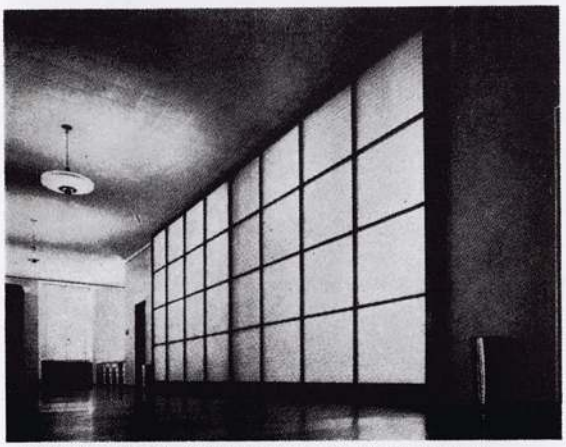


事務室と電話スウイツチ室との連絡廊下 段階，エレベーターの助けによつて床のレベルの異る二つの部分の交通を圓滑にしてゐる。



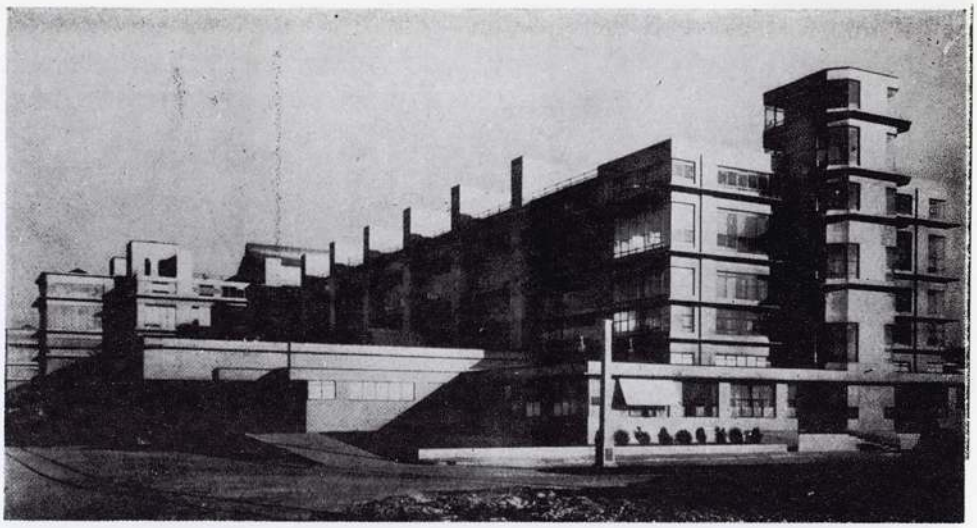
電話スウイツチ室の第2階と事務室の第3階平面圖

1. 作業室　2. 休憩室　3. 臺所　4. 倉庫　5. 押入れ
6. 閲覽室　7. ロツカー室　8. 試驗及仕事割當て室　9. エレベーター　10. 監査室　11. 給料支拂課　12. 郵便課
13. 書庫　14.15. ロツカー室　16. 宛名印書器室

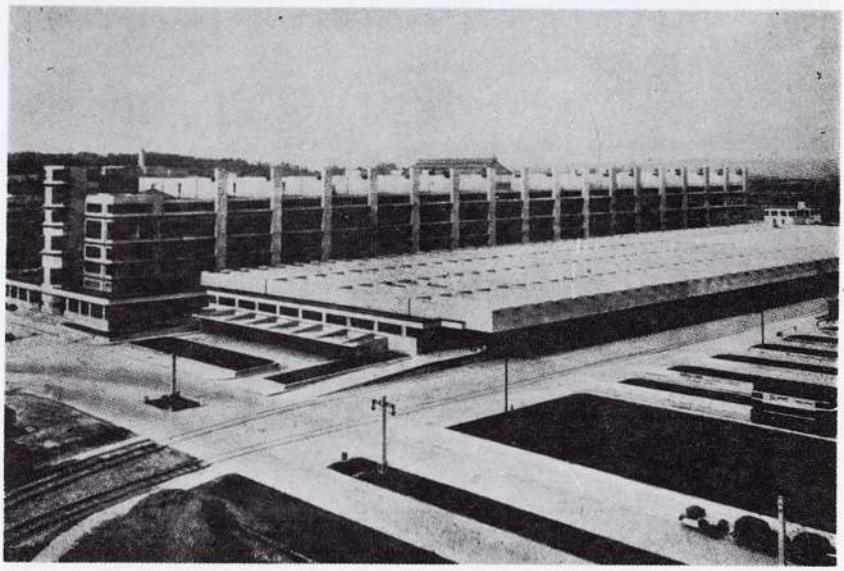


第1階の事務室 半透明ガラスによつて部室の採用を最も能力よくし，又部室の變更を最も容易になし得るやうしてある。

後面原料受入所



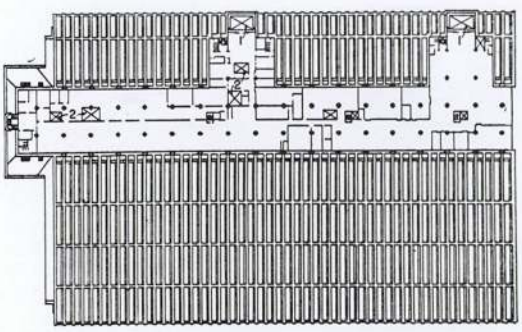
前面入口（左方）及び自動車駐車場，製品發送所



イギリスの Beeston に建られた化學工場で一部平家一部6階の工場である。外部からきた原料は第1階の圖の 1.2 の材料受取口につきこれは，6階建工場の荷物エレベーター（上階圖の2）にて上階に上げられ上階より漸次加工されて，下階に至る間に製品となり第1階平家建の部分に下りて來る。第1階では仕事の手順は水平的に連續し，製品最後の仕上と荷造をし，第1階圖の4の荷物發送所に至り鐵道によつて他にはこばれるのである。

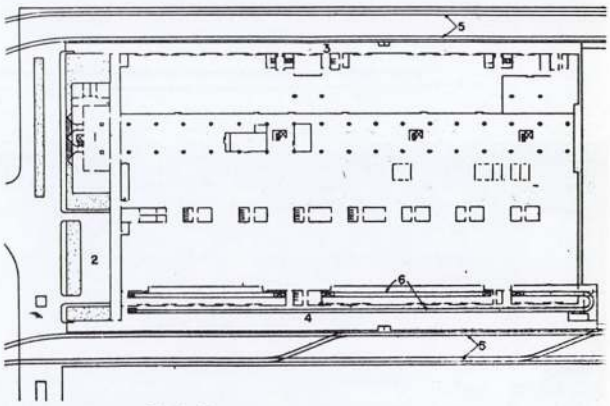
空氣を清淨に保つ點につき特に注意して設計されてゐる。これは化學藥品製造のための微粉が發散されるのでこれを防ぐため暖められた濾過空氣を平家建の屋根面の所より工場内の全部に配分するやうに送り，6階建の側壁のダクトで汚れた空氣を引きぬくやうにされてゐる。

(Architectural Record Oct., 1939より)



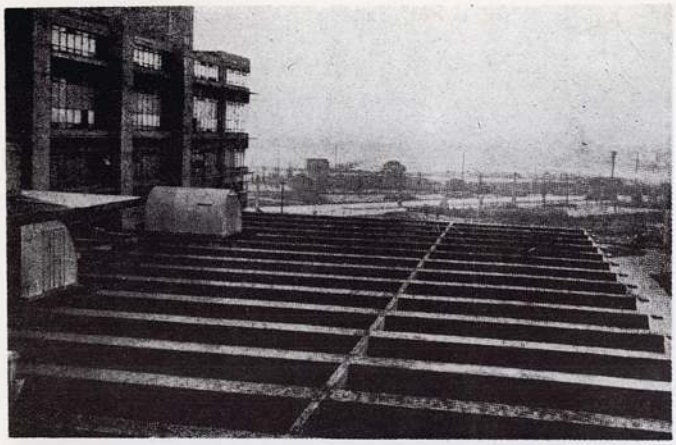
上 階

1 荷物エレベーター
2 乾 燥 爐

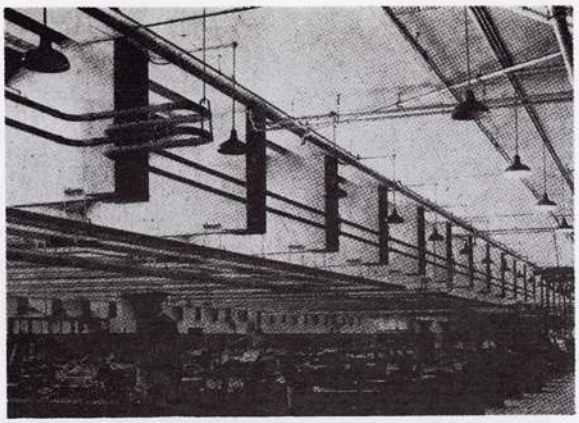


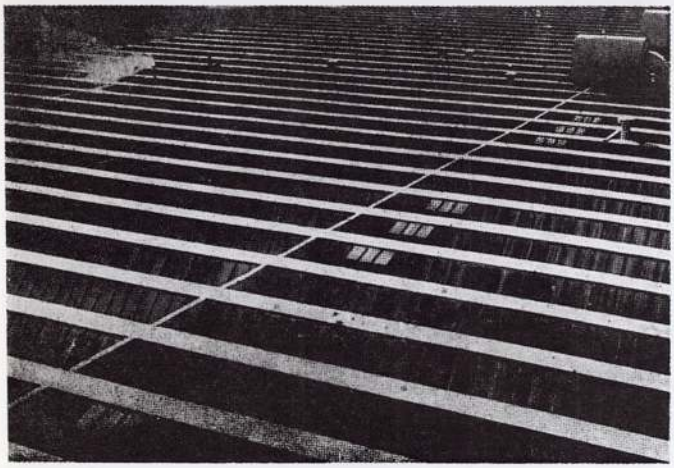
第 1 階

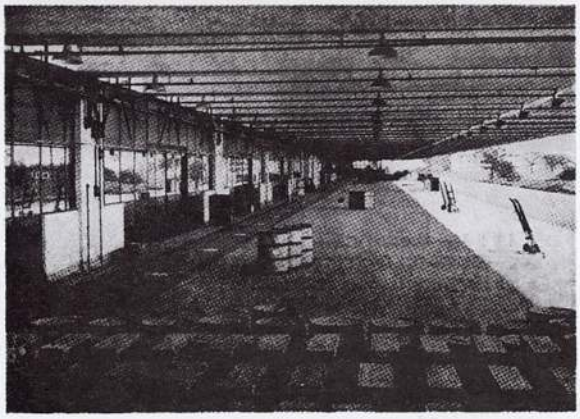
1 入 口
2 自動車駐車場
3 原料受入口
4 製品發送所
5 鐵道レイル



荷造り所

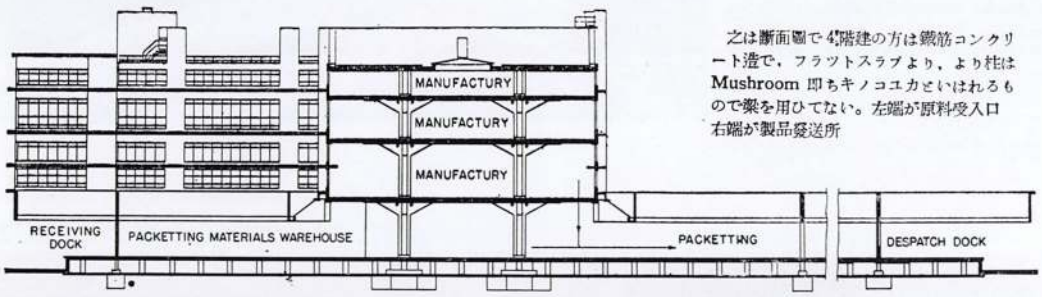




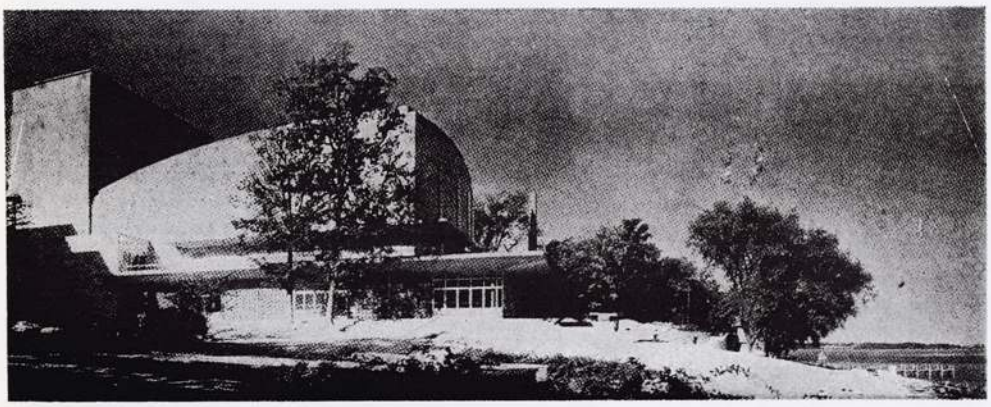


荷物受入口

この上下の2つの平家建工場の部分の日光による採光は圖示の如きモニターにて充分とり得る。濾過空氣はこの屋根平面より取り入れられる。



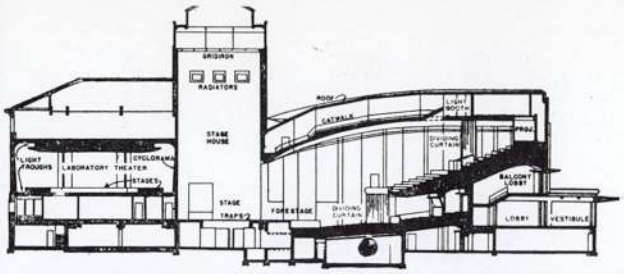
之は斷面圖で4階建の方は鐵筋コンクリート造で、フラットスラブより、より柱はMushroom 即ちキノコユカといはれるもので梁を用ひてない。左端が原料受入口右端が製品發送所



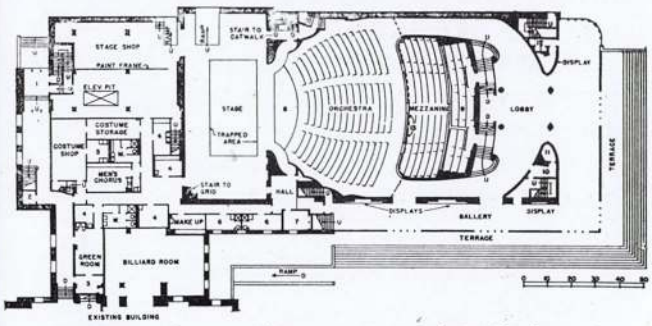
米國ウイスコンシン州の Madison のウイスコンシン大學に 815.000弗の工費で新築された最新式の劇場である。この劇場は疲き敎養，休息の滿足を得せしめるやうに設計されてゐる。この劇場にはダンス、合唱繪畫、彫刻のスタディオ、球場、寫眞同好會等ができるやうになつてゐる。この劇場には座席1300人を持つ公開的の大劇場と 135人の座席を持つ研究的小劇場がある。大劇場の舞臺は幅75呎、奥行35呎でこの中に、20呎×40呎の奈落(Trap area)(床が上下するもの)を持つ。

舞臺照明、劇場の音響設備に對しても最も新しい方法が採用されてゐる。これは文献欄の會員劇場の實例の一つである。(Architectural Record Oct., より)

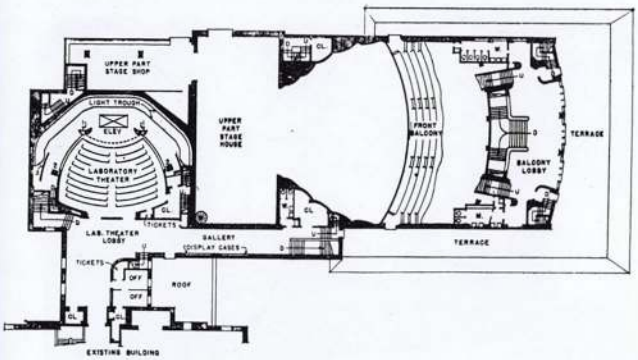
上、(英國) 化學工場・下、(アメリカ) ウイスコンシン大學の記念劇場　設計主任　Michael M. Hare



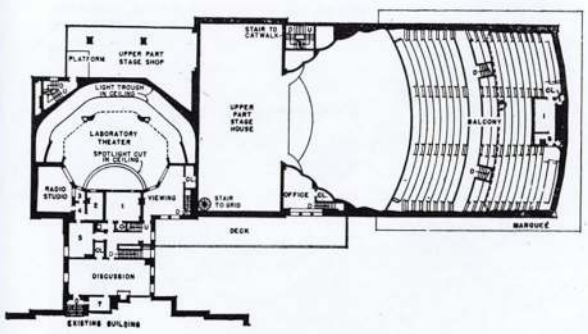
2つの劇場を通しての断面圖. 大劇場の間仕切カーテン (Dividing Curtain) によつて座席700人の中劇場にもなることを注意されたい。



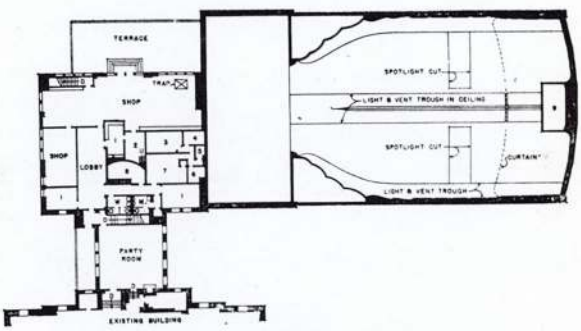
第1階平面圖　ギヤラリーや玄關はガラスブロックの壁體で外部と仕切り、主として展覽會場に使用する。
地下室には球場、ピンポン室、事務室、物置き、調理室等がある。



第2階　研究劇場の背景は塔門 (Pylon) 歩廊等より成り、エレベーターで上り下りが出來る圓形パノラマ (Cyclorama) が造りつけにしてある。

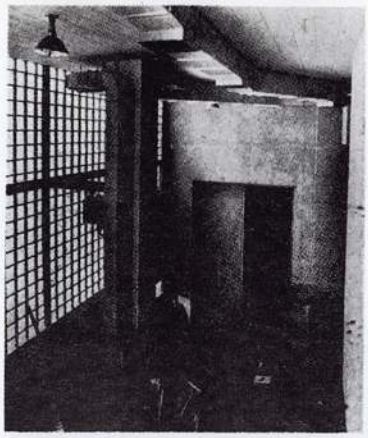


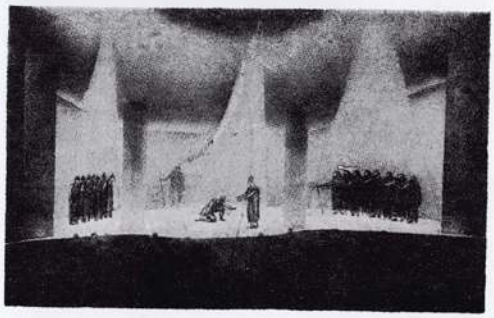
第3階　圖中8の點は間仕切カーテン



最上階　大劇場の觀覽席の天井の樣子を見たもの。

觀劇の內部





研究的小劇場の舞臺

古建築新抄 (11)

藤原義一



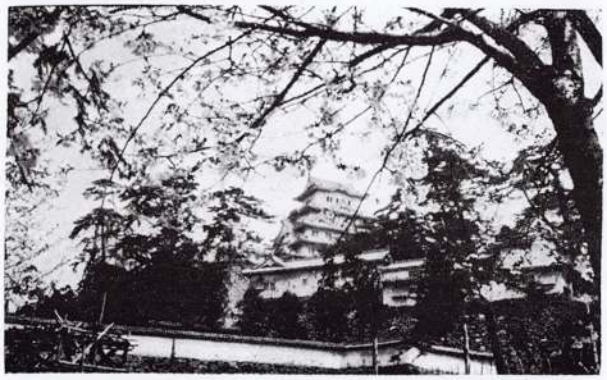
古熊神社本殿（山口市）室町時代

古建築の四季

初雪や俥待ちある金閣寺、新春名刹の雪古景色は清寂そのものである。巡禮に道聞かれたり花の寺、らんまんと花咲く名勝の古建築は豊かにのどかである。同じ雪の古建築にも半年は雪に埋れて暮らすものもあり、同じ花の古建築にも山の小鳥が空行く雲しか知らぬものがある。秋陽を浴びて桑畑の間に聳り立つ楼門、夏草の生ひ茂るにまかせた塔から、名もなき海邊の陋巷に荒れ果て朽ちて行くものに至つては、風流を通り越し、世界に誇る日本古建築もあはれ路傍の石並みである。



嚴島神社五重塔（室町時代）と千疊閣（桃山時代）



姫　路　城（桃山時代）

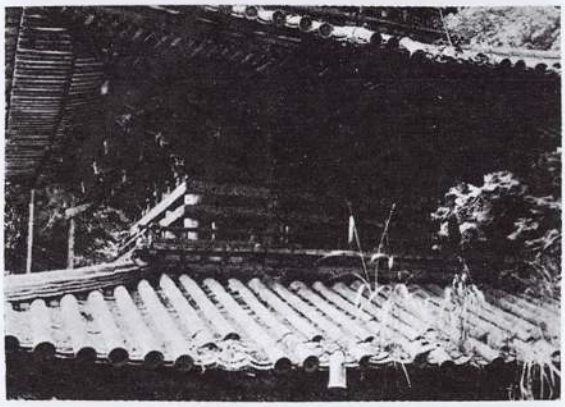


嚴島神社多寶塔（桃山時代）

九品寺樓門 鎌倉時代（京都府）



岩船寺三重塔 鎌倉時代（京都府）



一乘寺護法堂 鎌倉時代（兵庫縣）



安國寺釋迦堂 鎌倉時代（廣島縣）
（但し之は修理前の狀態
今は面目を一新してゐる）



美素

新築住宅にお手入のいらぬ！
古い住宅も新築同様となる！

【カタログ贈呈】



新築家屋美素加工
新築落成と同時に本所獨特のビソ液にて洗淨し木材變色の原因となる樹液を取り，其の上をビソにて仕上の加工をすると完全なる變色防止加工となり，優美な艶を有しフキコミの勞を省き頗る經濟的です。

古家屋新裝美素加工
古家もビソ液で洗淨すると新築同樣となり其の上を新築美素加工と同樣の加工をすると前者同樣の結果となる。
（特種技術を要しますから弊所の請負加工と致して居ります）

美素工業所

大阪市天王寺區東平野町四丁目二一
電話天王寺㈦四〇〇三番

ノボ アルミナセメント

超高級　耐鹼 耐寒 耐火

六時間コンクリート

大阪窯業セメント株式會社

6 HOURS CONCRETE

1:2:4 水比 65 6時間 217㎏/㎠ 28日 410㎏/㎠
1:2:4 水比 45 6時間 300㎏/㎠ 28日 580㎏/㎠

施工6時間後
完全使用が
出來ます

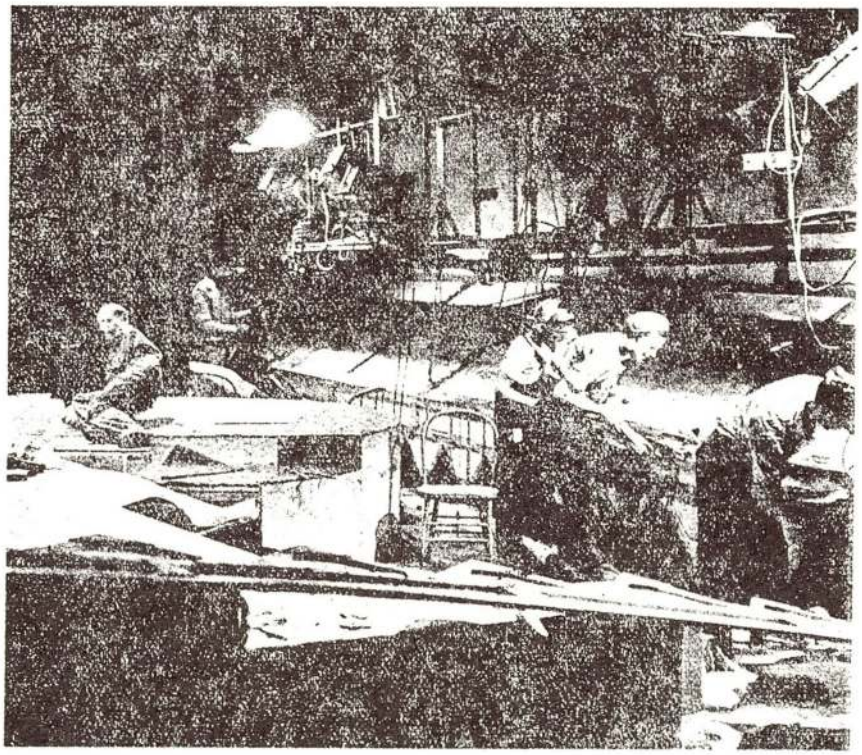
文　献

會員劇場設計の規準※

こゝに會員劇場といつたのは Community Theater を假に譯したものである。所謂商業的劇場（Commercial Theater）と異り、米國の學校、クラブ、其の他の研究團體に附屬してゐる小劇場のことである。商業劇場と會員劇場の本質的の相違は商業劇場の見物人はあくまで見物人であるが、會員劇場の見物人は、見物人自らが演技をもするし、又道具方となり演出にも加はるといふ事である。

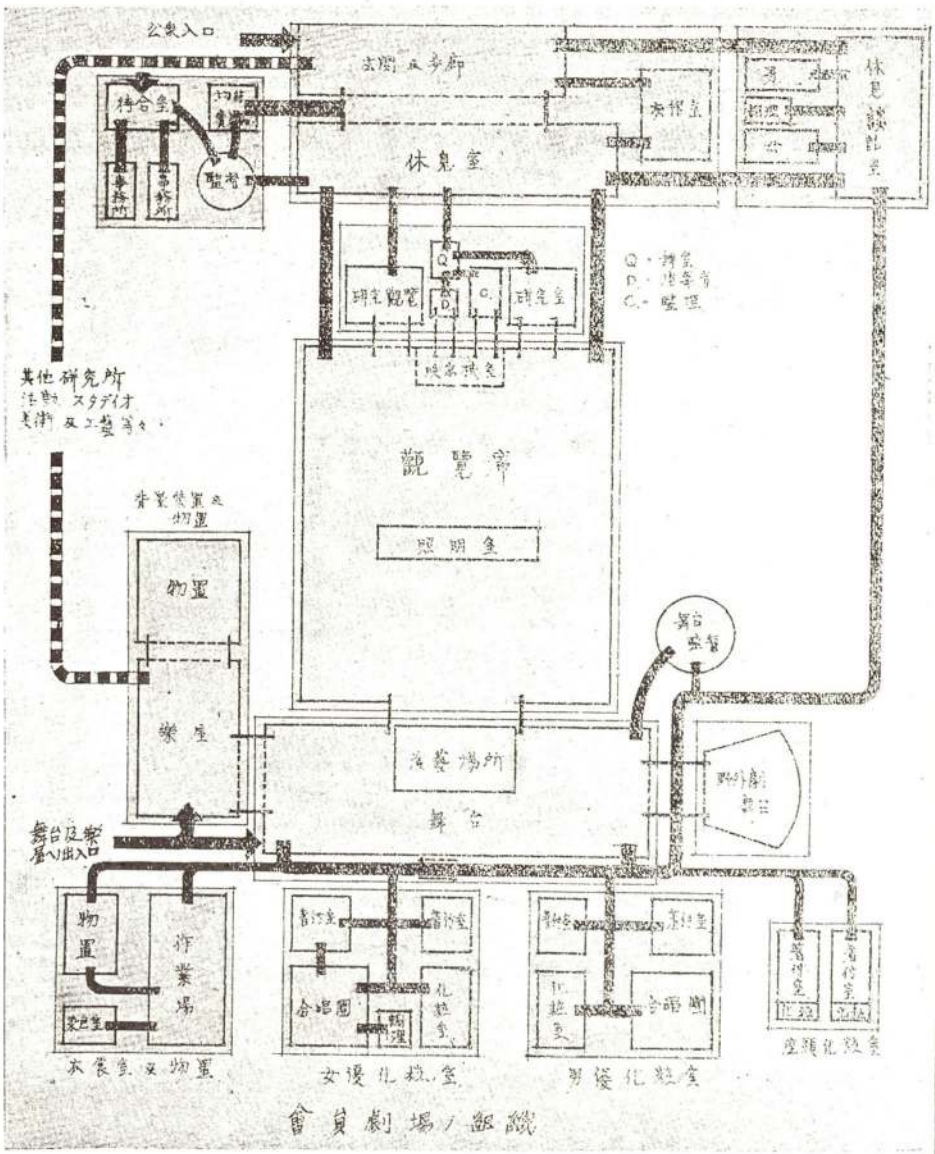
それ故、會員劇場の見物人の座席は略 800人を適度とする。然し1300人、1500人迄の座席をもつものもある。

次に會員劇場の特殊は商業劇場よりも美術工藝に關する製作室、スタヂオ、展覽場、小美術博物館、クラブ室、ダンス室の室があることである又會員劇場の特殊は、見物席で演技を見るのみでなく、舞臺から演技を見得るやうにし、又俳優の化粧室、控室にも自由に見物人が出入りし且つ少時間の話し又は研究をなし得るやうになつてゐることである。



米國エール大學演劇學校の背景の工作

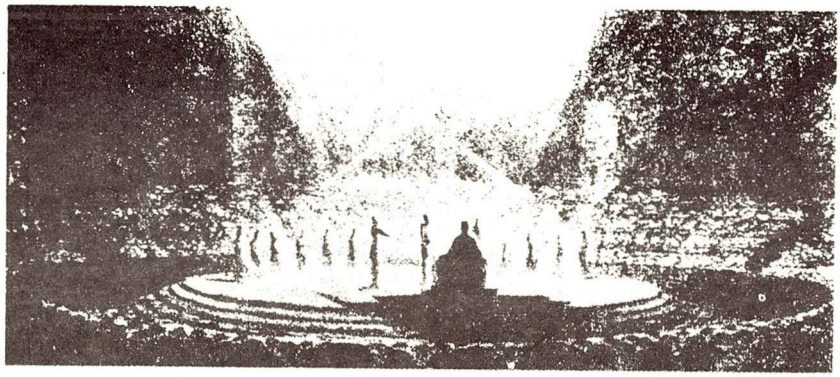
※ Bases of Design For Community Theaters.　Architectural Record 1938. 10.より

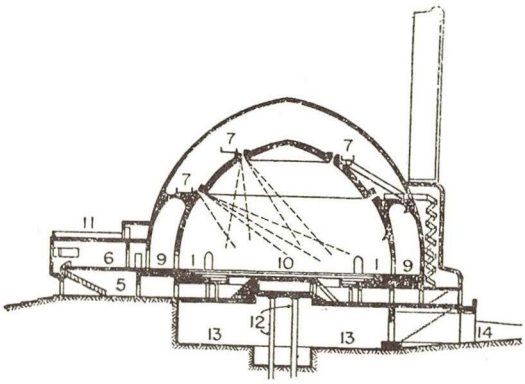

公衆入口
玄関及ホール
休憩室
観客席
舞台
物置
楽屋
搬入口
会員劇場ノ略図

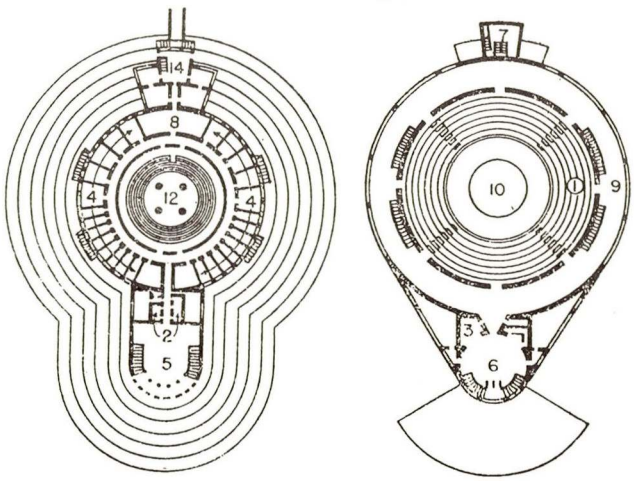
標準面積表（本表は座席800人を標準にしたもの）

場所	面積		摘要
玄關及歩廊	1200	平方呎	歩廊は待合せに使用されるから、これより狭いと混雑していけない。觀覽席 800人を超えればそれに比例して大とする。良き照明が必要。
衣帽室	240	〃	これが最小限であるが、時によれば衣帽室はなくしてもよい。
休息室	1000	〃	玄關の項參照。機關的換氣設備が必要。
入場券賣場	50	〃	最小限。も少し大きいものでは面積50～80平方呎とし管理人室を附屬する。賣場窓2個、壁面約4尺×8尺が必要。
休息及談話室	750	〃	最小限、舞臺の演藝場所と同面積必要、機械的換氣必要。
管理室	350	〃	外氣に面した窓よりの光線及換氣必要。
男優化粧室 女優化粧室	250 250	〃	相談、談話室を兼ぬ。機械的換氣或は外窓からの光線と換氣必要。
觀覽席	5600	〃	普通大きさの座席に對する最小限の面積。アイル（側廊）座席を用ひぬ時は7000～8000平方呎、（これ等面積には前面舞臺の取りはずし可能の座席をも含む）外窓よりの採光は不必要。
ラヂオ・スタヂオ	300	〃	200平方呎に減じ得。 外氣よりの光線不要、機械換氣必要。
監理室	70	〃	最小限。機械換氣必要。
指導室	20	〃	最小限ではあるが、これで適當。
靜室	30	〃	通行及ラヂオから全く隔離するを要す。
映寫機室	200	〃	充分の廣さ、化粧室、研究室を含ね。相談室を必要とす。
舞臺照明室	400	〃	これは舞臺上の役者や物體に投影する集注光線室で400を三分し、一は舞臺中央、他は觀覽席の左右の位置に設く。
舞臺	3500	〃	充分の廣さ。最小限は2800平方呎、空氣調整設備必要。外界よりの光線不要、最小限の高さ70呎。
舞臺の工作場	1500	〃	時として1200平方呎に減ず。外界光線が必要。北よりの透明ガラスを通じた光線が可。然し暗い土地ではこの方法はあまり重要でない。
背景物置	1000	〃	最小限。出來るだけ廣き方可。
衣裳作業場	420	〃	300平方呎にも減じ得。北よりの光線が望ましい。
衣裳染色室	80	〃	最小限。外界からの光線不要。外氣よりの換氣なければ機械換氣を要す。
六つの着付け室	680	〃	各室は化粧室に接近するを要す、建物の大さによりこの室の大さは變じてはいけない。座頭の着付室は化粧室、シヤワーを要す、換氣設備必要。
二つの合唱團室	440	〃	この大きさが最小、各々に三つの化粧室必要。換氣設備がある方可。
二つの浴室	300	〃	最小限
舞臺監督	150	〃	最小限
討議室	750	〃	下稽古にも用ひ得。演藝面積より、この討議室の大きさを定め得。

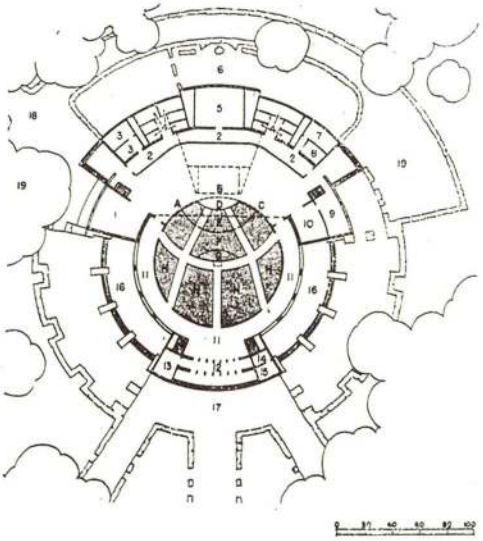
次に設計例を掲げる。

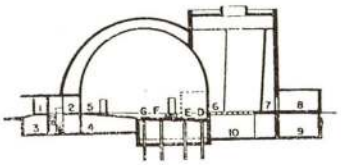


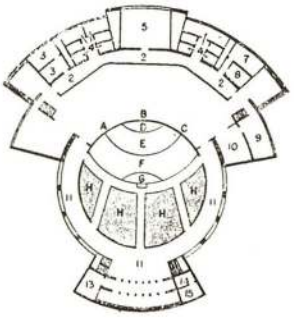




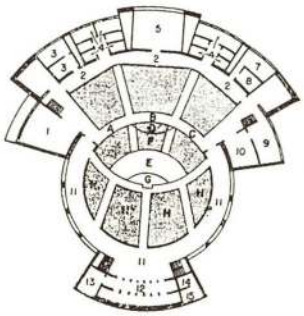
この案は 800人座席のもので、圖中の10が舞臺で、圖中の1が見物席である。見物席は圓い舞臺の周圍をとりまき、列數、僅かに6列であるから俳優と見物人との親しさは一しほである。

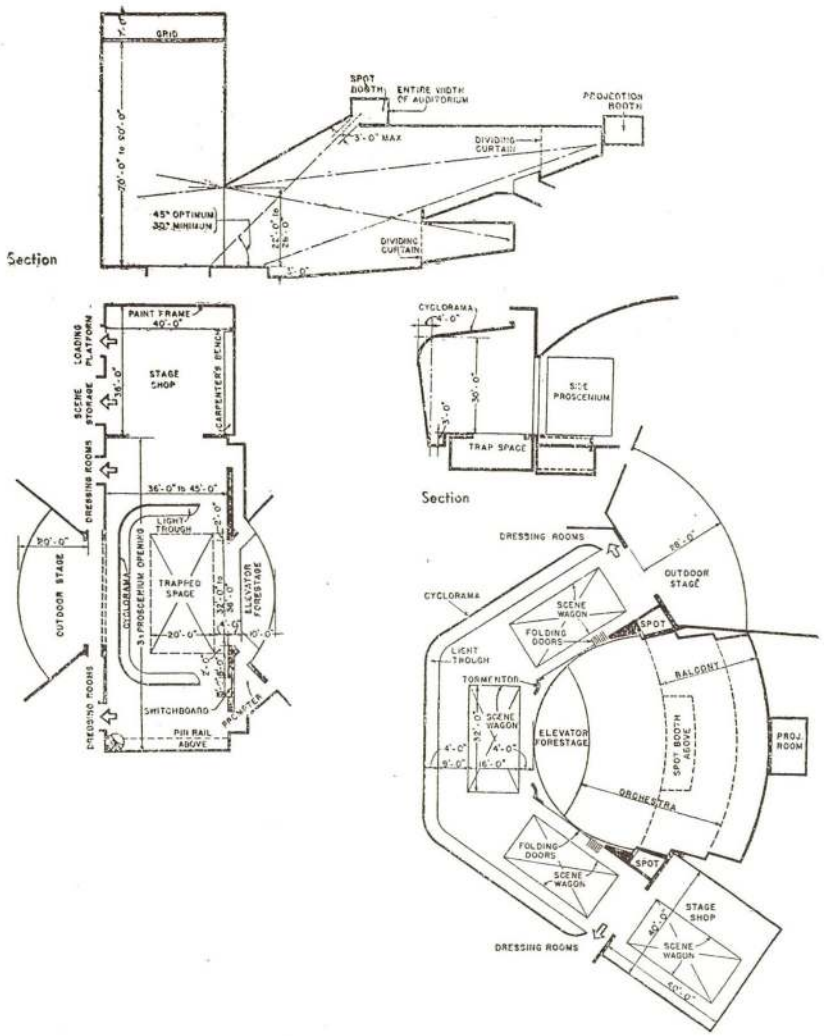




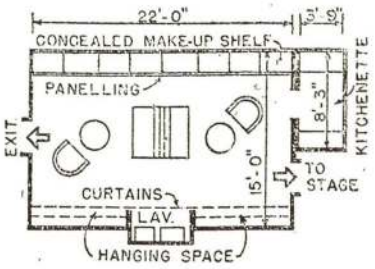


この劇場は舞臺及び見物席の先端をエレベーターで上げ下げ出來るやうにし、見物に便したものである。左上は普通の演技に使用するもの座席 975 人、右上は斷面、右中はD、E、F、Gを舞臺にし、座席675乃至875に減じたもの、Gのみを舞臺とすればプラネタリウムが出來る。
右下はE、Gを舞臺とし、拳闘をするときにつかふ座席1325人となる。

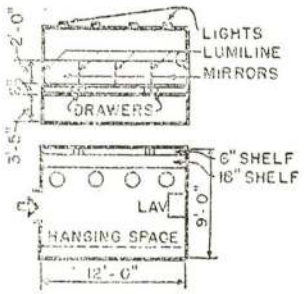




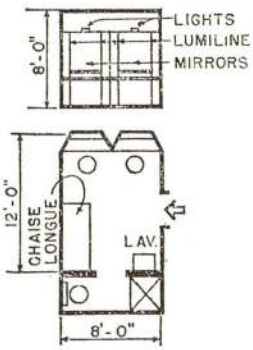
本圖は舞臺の詳細である。舞臺前面にはエレベーターで上下する前舞臺があり、舞臺を廣げ得る。Trapped Space は奈落で床が下へ降り得る所。斷面の Dividing Curtain は間仕切用で見物少きときはこゝで仕切り、觀覽席を小さくする。



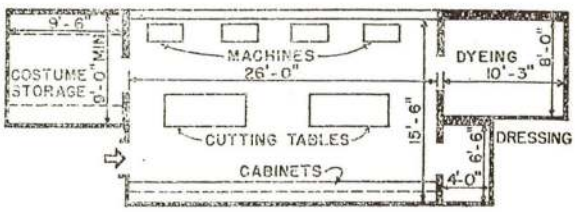
談話室と20人の女子合唱團の化粧室
談話室は俳優の休息室、討議室で少人數の外來者の仲間入もゆるす。照明及び鏡は他の化粧室と同樣に設備



4人用の標準的化粧室。頭上照明が假髮を調へたり、化粧したり、顔の仕上をしらべたりするのに必要、鏡と照明の關係は俳優の顔が平均にあかるくなるやうに組かなければならない。



座頭2人用化粧室、三面鏡の設備が望ましい。附屬室にはシヤワー及びW.Cの設備がのぞましい。



左は標準的衣裳室、出來れば直接外氣に面した部室で、明るくつて裁縫機を使ふに便にする。

（堀口善吉）

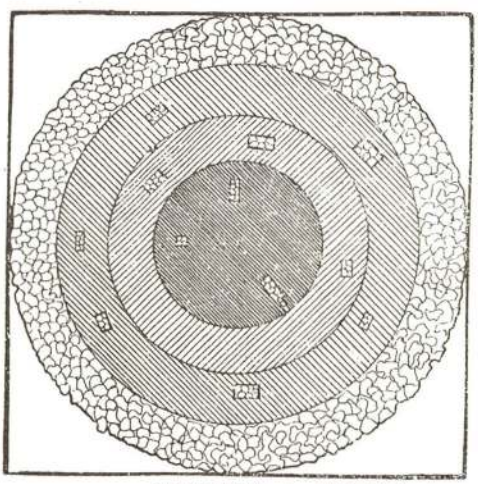
都市構築の基本形態※

ルドロフ・エーベルシタット

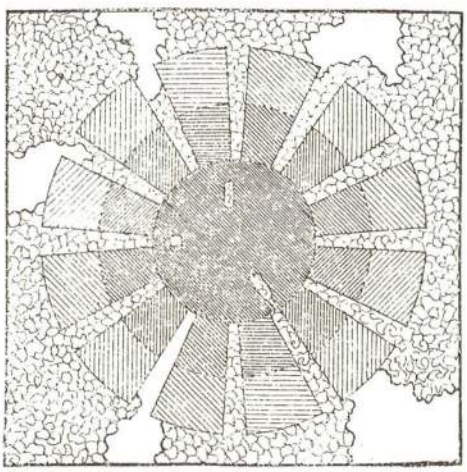
都市の街路計畫を綜合的に觀察するならば、歐洲諸都市の發達が、多く否殆ど全ての場合と稱してよい位、或る定まつた基礎の下に計畫が行はれて居るのを見るであらう。即ちその計畫と云ふのは「集中的」都市計畫であつて、都市は或は輪環的帶を圍らして擴がつて行くのであつた。此の輪環的帶と言ふ一つの形態は、我々に根强く植付けられた多くの見解と同樣に、何百年もの永い間の慣習として吾人に傳へられて來たもので、それは都市計畫家の血となり肉となつて仕舞つたものであつた。中世の都市に於ては都市の周圍に要塞が圍ぐらされ、且つ圍壁を形成して居り、全ての都市計畫には輪廓がつくられて居つたのである。であるから都市の擴張と云ふことは、常に新しい環をめぐらすことであつた。又專制政治の下で都市城砦の失はれた所では、課稅への輪環として入市稅を取る爲の圍壁が設けられたのもあつた。次に前記の城砦の環や課稅への輪環が廢された後には街路の環が、即ち環狀路線が出現したのである。ところが近來確定的な帶として人々は森林帶を要求して居る。故に現代の都市構築に於いては、常に環帶の觀念が消え去らすこれが都市計畫と關連して、都市構築が、都市の擴張が、街路の建設がさては交通計畫さへも行はれて居つたのである。

然るに新しい時代の都市構築に於ては、かゝる觀念を決定的に打破し以つて都市の基本形態に達する爲に、現在の都市の本質に適合する事に努力せねばならない。所謂輪環帶の全ては、大都市の土地政策及交通政策に於ける技術的開發に不利益を齎すものである。更にそれは都市計畫の形態を完成するのに有害な影響を與へ且つ又我等の都市構築の合理的形態の完成に障碍を與へるものである。一つの都市の綜合計畫に對する基本的形式としては、集中的都市計畫の代りに放射的形式のものに取つて代り、輪環帶の代りに放射線が、就中空地帶の代りに楔狀の空地が取つて代るのである斯くして遂に住民が空地の恩惠に浴し得る事の實現が可能となり、且つそれを基本として都市の自然的な發達型が形成され得るのである。

第1圖と第2圖とは、都市計畫に於ける此の二つの相反する根本形式を全く圖解的に示さんとしたものである。而して此の二つの圖面は二つの異



第一圖　集中的都市構成。エーベルシタット、メーリンク及びペーテルゼンの大計畫計畫より。「ベルリン」1910, S.4.



第二圖　放射的都市構成。エーベルシタット、メーリンク及びペーテルゼンの大計畫計畫より。「ベルリン」1910, S.5.

※ R. Eberstadt; Grundformender Stadtanlage; Handbuch des Wohnungswesens und der Wohnungsfrage, 1920, S S. 231-235

つたシステムを簡潔に說明して居る。一見して此の二つのシステムの對比が眼に映つて來る。即ちそれは住居地と空地の配置に存するのである。今此の二つのシステムの相異を最も簡單に要約するならば次の如くなる。即ち昔の都市の基本型は閉鎖型によつて形成されて居るが、新しい都市の基本型は所謂擴張型によつて形成される。

次に住居地設定の形態を觀察するに、都市計畫の此の二つのシステムは、別に理論的に誘導されたものではなく、二つとも自然派生的な歷史的～～～その歷史的時代に從つて自然的な～～～に創約された條件に基いてゐるのである。第1圖の都市計畫は中心への集中を原則として形成されて居る。都市の核は中心點であり、それに向つて住民は群集し、昔時は之れから離れて分散は出來なかつたのである。吾は今の時代に於ても此の傾向が尙ほ部分的に殘つて居るのを觀察する事が出來る。即ち、大きくなりつゝあるドイツの大都市（例へばハンブルグ、ミュンヘン、ドレスデン）に於ては、住民が好まざるに如何に厭々ながら都市の中心から移動して行つたか、或は又如何に緩慢に徐々に外への移動が行はれたか。が然しそれが遂に而も屢々突如として市部の外に向つて急激な止め難き移動となつて現れたのである。

第1圖の如き都市形態に於て、都市中心へ行かうとする壓力に從つた昔時の努力には相當の理由が存する。かゝる都市計畫に對して、集中的、環帶的構築は何ら恣意に基いたものではなく、自然に發達したシステムなのである。都市中心には特別に良い建築や最良の住居地區があつた。それに對しては、環帶狀の都市擴張の方が求心的な形のものより適して居た。傳統の觀念と特別の利益とが協力したのである。しかし就中、それは昔時の交通技術の點にあつた。即ち、住民に迅速に物資を運搬すべき交通機關の缺乏のために、都市中心より離れて住む事が困難となり部分的には不可能であつたのである。

先に述べた如く 絕對的な限定せられない都市計畫の基本形を見出す事は出來ない。

第19圖に圖示された、都市計畫の新しい形も亦何等主觀的考案から導かれたものではなく、之も新しい大都市の發達の實狀に基くものである。新時代の都市擴張の背柱は交通街路、交通線である第2圖の基本プランは單に實際の狀態を見習つたものにすぎない。現在の都市擴張の狀態を見るに放射的交通線がつくられて、環帶ではなく放射の方向に都市は擴張して行く。新しい交通技術による都市擴張の下に、第2圖の基本形が自然的な有益な都市計畫のシステムとして行はれる。

第2に、重要な空地の配置について考究しやう之に關しては、第1圖と第2圖とはつきり異つて居る。空地の組織の必要性は種々强調されて居るが、計畫にかなつた實施や、合目的々な活動は缺けて居る。上述のこれまでの習慣から、大都市の住宅集合の眞中に綠の島、オアシスをつくて居る。個々の凹所に孤島をぶちまけたやうな空地では、新鮮な空氣を導入すると言ふ衞生的な目的は達し得らる可くもない。最近は、特に都市周圍の公園綠地の用意への努力が向けられて居る。之に於ても、今日の構築システム下にては外部綠地の維持それ自身では、その內部に定住する住民に、周圍の大きな綠地の保持する新鮮な空氣を分配するには不適當である。都市住民に對して必要な空氣の導入は、たゞ空地を楔狀に引き入れることによつて達せられる。

註。上述の如き都市計畫の原則はすでに私及びB，メーリンク，R，ペーテルセンによつて，1910年の大ベルリン競爭設計の際に明らかにされて居る。空地の配置に對して，すでに楔狀空地導入の例が示されて居る。ヴィースバーデンの擴張に際し五つの楔が，周圍の綠地から發して都市中心に向つて收斂して行つて，都市中心へ新鮮な純な空氣の導入をはかつて居る。（ヴィースバーデン公共健康指導1908）他の都市に於ても空地を外部から都市中心に舌狀に延ばして居る。ドレスデンにても市民綠地を中心に向つて導入して居る。初期に於いてはエッセンの都市擴張計畫に際してRシュミットに依つて楔形空地の導入が計畫された。

昔の都市計畫はその時代に對しては部分的に模範的な計畫であつたし、今に於いても吾々は多くの價値を認める事が出來る。しかしながら、吾々は新しい基本形を希求する。土地配分や街路計畫に對して、自主的な、傳統の習慣と異つた新しい原則を發達せしめねばならない。（後藤典夫）

本邦都市發達の動向と其の諸問題※

1 議題の意義

我國の都市は極めて長き發達の歴史を有し、又多くの顯著なる變遷を經て來てゐる。殊に中世以降、近世に於ての發達の如き頗る著しきものがあつたことは、普く知らるゝ通りである。我等は、我國に於て都市が如何にして發生し、又如何にして發達して來たか、それは又我國の政治上、經濟上又は文化上に如何なる地位を占めて來たか等の歴史を明かにすることが、現代に於ける我國都市の特殊性を明かにするためにも、極めて必要であると思ふ。

しかし、我國に於て都市が近代的なる樣相を以て發達するに至つたのは、比較的新しい事である資料の不備なるがために正確な統計を以てこれを語ることはできないが、今より50年前に於ては、10萬以上の人口を有した大都市の數は僅か6市に過ぎず、その中 100萬以上の巨大都市は東京唯一つあるのみであつた。市制の施行せられてゐた都市數も40に足らず、その總人口は全國人口の1割にも達してゐなかつた。しかるに最近に於ては、10萬以上の人口を有する大都市は內地のみにても42を算し、その中 100萬以上の巨大都市は4に達し、市の數も 150を超えてその總人口は內地人口の約3割6分に近くなつてゐる。以て都市發達の一般的趨勢を察知することができる。この都市發達の趨勢は、支那事變を契機として、政治上、經濟上、國防上等よりの强烈なる要求により、更に新なる段階に入つたかの如き觀もある。これらの傾向は最近益々激化しつゝある人口の都市集中、地方都市に於ける顯著なる重工業の發達又は國土計畫論、過大都市抑制論等の議論にも窺ふことができるやうに思ふ。

時恰も皇紀2600年の記念すべき秋に際會し、百般の事物はその歴史的觀點に立つて見直されんことを要求してゐる。この際に當り本邦都市の發達を研究してその特質を明かにし、又既に解決せられ若くは現に解決を要求しつゝある諸問題を研究することは、將來の飛躍に備ふるために最も意義あることであると信ずる。

尙、研究討議の對象はこれを本邦都市に限定した。もとより外地都市は當然これに含まれてゐる又滿洲國や中華民國の參加者諸氏が各々自國の都市に關する研究を寄せらるゝことは本議題の研究に資益するところ少しとしないであらう。

2 本邦都市の發達

先づ第一に問題の對象たる本邦都市の概念、並にその特殊性が明かにせられねばならぬ。我國に於て都市とは何を意味するか、都市と都市にあらざる社會は何を基準として區別すべきであるか。又諸外國の都市に比較して如何なる特殊性を有してゐるか。これらは社會學上の問題としてのみならず、經濟史、文化史、地理學又は行政學の方面からも研究せらるることを要するであらう。殊に經濟史や地理學の方面からは、我國の都市が如何なる要因を以て如何に發生し、又如何に發達して來たものであるかは或は全體を通じて一般的に、若くは箇々の都市に就て特殊的に研究せらるゝことを要する。

我國に於ても都市はいろいろな原因から發生し又發達を遂げてゐる。或は農村の自然膨脹によるもの、貨物集散の中心地として發達したもの、工業を基礎として成立したもの、その他政治上、宗教上、軍事上等の理由によりて出來たもの等一樣でない。都市の發生、發達の原因はかく多種多樣であるが、何れにしても、農耕の技術が相當に進歩して農業以外の生活手段が可能となり、國內の治安も保たれ、交通運輸の利便があることを前提要件として、そこに初めて都市の發達を將來したものゝ如くである。

かくして、我國の都市は大體に於て奈良朝時代から發達したものと思はれるのであるが、中世以前に於て先づ著しき發達を遂げたのは、政治上の中心地たる京都であつた。こゝには海外よりの文化もその物資と共に盛に輸入せられて商工業も大いに興り、燦然たる文化が建設せられ、就中都市建設事業の如きは頗る壯大なものであつた。次で

※「都市問題」14.12月號より再錄

難波、博多等の如きはその海外貿易、交通上の要衝として相當に發達してゐたと稱せらるゝが、一般的なる都市の發達が見られるのは鎌倉時代以後なりとせねばなるまい。それはこの時代に入つてから、地方に於ける諸侯の實力が頓に增大し、その保護の下にある城下町が發達するに至つたゝめで、これにより文化の地方的發達も大いに助けられたと思ふ。又その後戰國時代に及んで京都の如きは一時著しく衰微したが、他方に於ては海外との交通が盛になつたために特殊の發達を遂ぐるに至つた港灣都市も生じ、殊に堺の如きは歐洲に於ける自由都市にも似た强力なる存在となつてゐたとも傳へられる。

戰國時代の末期から德川時代の初期にかけて飛躍的發展を遂げた港灣都市も、德川幕府の鎖國政策によりて大打撃を與へられ、その雄大活潑なる海外發展は全く阻止せられたが、これと共に久しきに亘つて國內の平和が保たれ、參勤交代制度のために交通運輸の途が大いに開かれ、加ふるに各藩が競うてその城下町の繁榮、藩內產業の開發等に努めたので、都市は又新なる勢を以て勃興するに至つた。これらの原因によりて最も著しく發達した江戶の如きは、18世紀の初頭既に 100萬餘の人口を擁し、當時何れの歐米都市よりも大なるものがあつたといはれる。次で幕末から明治維新にかけて各藩の產業保護策の下に都市の經濟的地位は著しく向上し、その後封建制度が沒落するに及び新たなる中央集權體制の確立と共に、都市は新しき資本主義時代に入つたのである。

これら往時に於ける都市の興隆變遷の跡を尋ねその原因を究明し、或はその社會文化的特色、都市建設計畫の規模乃至都市構築の樣式、殊に諸外國の都市に見る如き城壁をもつに至らなかつた事情等に就てもこれを審にすることは後世都市の發達を正しく理解し我國都市の特殊性を究めるために忽にするを得ないと思ふ。更に又現代に入つてからは、各都市が如何なる變遷を經て今日の狀態に達して來たかを、その政治的、經濟的、地理的その他の諸事情と共に明かにすることも、將來の動向を察知し、これが對策を講究するためには缺くことができない。

3 本邦都市の現狀

次には都市の政治上、經濟上及び社會上に於ける現在の狀態を究明し、その長短得失を考究せられんことを望む。

これに就ては、先づ都市の分布狀態が問題となるであらう。我國都市の現狀を見れば、巨大都市への人口集中が最も顯著である。それは人口 100萬以上の巨大都市が既に 4 を算してをり、しかもこれら巨大都市の人口吸收率が最も大であることにも示されてゐる。而して10萬以上30萬以下の都市は34に達してゐるのに、その中間に位する30萬以上 100萬以下のものは僅か 4 に過ぎないのであるが、これは果して健全な發達の姿であらうか。又全國に於ける都市の地理的分布を見れば、その著しき部分が京濱地方、名古屋地方、京阪神地方及び北九州地方等に偏在集中してゐる傾があるがこれは何が故にかくの如き形態をもつに至つたのであるか。その原因並に得失に關しては、對策と共に活潑なる論議を期待する。

又都市の人口構成はどうなつてゐるか。その出生地別、性別、年齡別、職業別等の狀態は、その出生率、死亡率等と共に、都市によりても異り、而してそれらは政治上、經濟上、社會上の諸問題とも密接なる關聯を有してゐる。殊に住民の保健衛生上からいへば、都市の生活は、甚しく非衛生的にして住民の生活力を弱めるものであるともいはれ、その出生率の減退、乳幼兒死亡率の高きこと、傳染病患者の多きこと、徵兵檢查に於ける不成績等の事實に照して論證せられてゐるやうでもある。しかしながら、かくの如きは都市生活に避くべからざる運命であるか、或は計畫と指導との如何によりては除去することもできる缺陷ではあるまいか。これらの問題を明かにすることは、都市に對する政策を決定するためにも甚だ必要であらう。

4 都市の經濟と政治

都市の重要性はそれが經濟活動の中心地たることゝ甚だ大なる關係がある。各種の官廳、取引所商工會議所、銀行、諸會社等、政治上、經濟上の凡ゆる中樞機關は何れも都市に集中してゐるが、これらの諸機關は、どのやうに各都市に集中若く

は分散せられてゐるか。又、我國都市に於ける生産額は、既に全國生産總額の半ばを超えてをり、しかも最近に於ける增加率は頗る飛躍的でもある。都市の生産力とその膨脹力との間には頗る密接なる關係があるものと信ぜらるゝが、これらの事情はどの程度まで計數的に明瞭ならしめ得るであらうか。

更に都市の發達は、地價、地代、家賃、一般生活費等にも、さまざまな影響を及ぼしてゐるであらう。これらのものは如何なる形態をとつて都市民の生活に影響してゐるか。これらのものと都市の大さ、若くはその膨脹率との間には如何なる關係があるか。

都市は如何なる政治上の地位を占むるか。都市の區域内に於ける行政事務は、戰時又は事變等に際して如何なる質及び量の增減を受けるか。又都市の發達とその行政事務との間には如何なる關係が見出されるか、國の行政官廳に屬せしめらるべき事務と、自治體の事務との間には如何なる分界が定めらるべきであるか、都市自治體の權限、その能力及びこれに對する監督指導の組織等には遺憾なる點なきか等に就ても十分なる檢討が加へられねばならぬ。

又大都市の活動の範圍及び機構に就てはその國政上に占むる重要なる地位、及びその大なる能力等に鑑み、特別の考慮が要求せられてゐるが、これらも都市の發達を適正に導くためには重要な研究項目であることはいふまでもあるまい。

又都市の膨脹に從ひ、頻りに市域の擴張が行はれてゐるが、それの利害に就ても特に實證的な研究が望ましい。都市の膨脹發達に對應するためには、その他にも、事務組合をつくるなり、特別の行政廳を設置するなり、いろいろの方法があるであらうとも思はれる。市域の擴張には自らなる限度も存すべきにより、これらの方法による利害も併せて討議せられんことを望む。

都市の政治的任務は頗る重いものである。その行政が公正に且つ賢明に行はるゝと否とは國運の消長にさへ影響する。しかるにその重責を擔當するところの市民の自治能力は滿足し得べきものであるか。殊に大都市に於ては、その住民の多くは各地方よりの移住者であるために自ら愛市心に乏しく、又その構成が甚しく多種多樣であるために共同心に缺くるところ多く、ためにその自治政治はとかく圓滑を缺き、ボス政治の跳梁する危險も多く、政治は不公正に流れ易く、行政は能率を失ひ勝ちである等と屢々批判せられてゐるが、都市の發達と自治行政の不振との間には、どのやうな因果關係が存在するものであるか。これらの關係を明かにすることは、自治政治の改善のために最も必要なりとせねばなるまい。

更に都市の生活は匿名的にして、社會的制裁も比較的弱く、れめに、犯罪者の比率も高く、離婚數や私生兒數等が甚だ多いといふものがある。これも果してどの程度まで眞實なのであらうか。これらの點に就てはその文化的、敎育的の地位等と共に徹底的なる研究と批判とが望ましい。

5 都市の發達と對策

都市の膨脹はこれをこのまゝに放任して置いても差支はないか。概していへば商工業者の希求するところは、都市の發展膨脹にあるものゝ如くで殊に中小都市に於ては、如何にしてその都市を大ならしむべきかに苦心してゐるやうである。その方法としては、新なる產業をその地に興すこと、或は工場、學校、官廳、兵營等を誘致することに努めたり、又は隣接町村等を併合してその行政區域を擴張したりすることに努力してゐるものが多い。しかし、これらの方法によりて果してどの程度まで都市繁榮の目的が達せられてゐるか。又これらの方法を成功せしむるためには、如何なる犧牲と準備とが必要があらうか。これらに關しては特にその經驗を有する方面より忌憚なき意見が聞きたい。

次に巨大都市にありては、その殆ど際限なきかの如く見ゆる膨脹によりて、中には大なる脅威を感じつゝある人も多いやうである。もとより際限なき都市の膨脹發達は必ずしも望ましいものではない。如何なる都市にもその大さには何等かの適度があり、その適度を超えれば所謂過大都市の害惡が各方面に現れて、これを救治するには多大の犧牲を必要とするやうなことがあるかも知れない。さうとすればその適度を維持するには、何等かの手段を講ぜねばならぬが、しかし、その適度とは何であるか、又如何にしてこれを發見すべきであるか。その適度なるものは固定的ではなくし

て、流動的性質のものであらうと思はれるが、かゝる流動的適度を維持するためには、如何なる方策が必要であるか。

或は大都市に集中する人口を地方に分散して、多くの中小都市をつくることも考へられるが、このことは言ふに易くして、なかなか成功が困難なやうである。これらの困難を克服するため戰時に際しての空襲、平時に於ての地震、火災、暴風雨、海嘯等の災害を防止するためには、如何なる準備と計畫りが必要であるか。これらの問題は、我國都市の特殊事情に基いて、最も愼重なる考慮を要するものであり、特は都市構築に關する技術者の研究に期待するところが頗る多い。尙、中小都市の充實振興に關する方策についても十分の研究が遂げらるべきは申すまでもないところである。以上の論議は必然的に地方計畫、國土計畫等の根本問題に對して向けられねばならぬが、更に都市と農村との關係、產業立地等に就ても多くの問題を提供するものであらう。

以上は本議題に關聯して、特に主要なりと思はるゝ問題の若干を述べたに過ぎないので、もとより重要問題がこれに盡きてゐるわけではない。この外にも多くの重要項目が存在することゝ思はれるが、便宜上、上述せる諸問題を摘記すれば大體次の如くである。

本邦都市發達の特質
　本邦都市の特質
　本邦都市の起源
　本邦都市發達の諸原因
本邦都市發達の諸研究
　王朝時代に於ける都市の建設
　鎌倉、室町時代に於ける都市の發達
　戰國時代に於ける都市の特質
　封建時代に於ける城下町の發達
　幕末開國前後に於ける都市の盛衰
　明治維新以後に於ける都市の發達
本邦都市の現狀
　都市の分布狀態
　都市の人口權威狀態
　都市の衛生狀態
都市の經濟上及び政治上に於ける地位
　都市の經濟的補給區域
　都市の生產力
　都市に於ける行政事務の變遷
　大都市の有する特殊的地位
　都市民の自治能力
都市の發達と對策
　本邦都市の將來
　都市の發達助長方策
　都市の適度
　中小都市の振興方策
　過大都市の防止方策
　都市分散の方策
　都市の災害防止方策
　地方計畫、國土計畫、產業立地
　都市と農村との關係

計劃的工業都市の出現近し

軍需工業の飛躍的發展から荒漠たる草原や田園であつた處に、人口數萬を有する工業街が出現してゐる處が少くないが、此儘放置すれば雜然たる工場街と化し國策上面白くないと言ふので內務省都市計畫課では新興工業都市計畫を施行し防火、防空、交通、保健上理想的近代工業都を建設することに決定、着々準備中である。此都計施行の候補に上つてゐるところは神奈川縣の相模原、群馬縣の大田、兵庫縣の廣、茨木縣の多賀、山口縣の周波愛知縣の豊川、勝川、岐阜縣ころもなどの各町村で何れも大工場の建設につれ驟く間に人口數千、數萬の工業都となつた譯。

尙今回の都市計劃は工業街を全部形成しない中に500萬坪の地域に亘つて都計を施行し、而も工業街に應しい大幅員道路、防火用貯水池(各處に)防空用綠地廣場を作り、體位向上の爲めの運動公園等を增築、都市の周圍は環狀綠地で圍む等都計技術の全力を擧げて近代的工業都を建設しようと言ふので、その費用は地元負擔と國庫補助を以て當てる方針である(12.21)

會報

本協會員中軍務公用者氏名

前號發表後に於ける本協會員中の軍務公用者は下記の通りであります。(受付順)

會員　野澤　勉君

地方會員　柴田　靖君

普通賛助員　福井高治君

評議員會

1. 昭和14年11月29日大阪市北區中之島3丁目3番地朝日ビルヂングに於て評議員會を開會す
1. 出席者次の通評議員26名監事1名

淺野新一	井手正雄	伊藤正文
猪瀬幸太郎	飯田賢次	石井春雄
石川純一郎	今林彦太郎	岩尾保衛
宇都宮藤次郎	岡本松太郎	荻田眞之助
北垣熊之介	北川正彌	塚本猛次
中島喜平	長尾清一	野中駒市
羽原德衛	花輪正虎	政岡基次
松久保敬三	三浦茂	道田泰治郎
藪中一貫	米倉威夫	以上評議員
井上福藏		以上監事

1. 午後6時10分開會、副會長理事今林彦太郎氏議長となり只今出席者24名にして定款第24條に依り評議員定員の2分ノ1以上の出席に付本會成立の旨を告げ豫て通知の如く次の選擧を執行する旨を宣す
   1. 定款第17條に依る理事3名選擧
   2. 定款第20條に依る會長1名、副會長2名選擧
   3. 定款第17條に依る常務12名互選
1. 議長右選擧方法に付諮りたるに評議員北垣熊之介氏より右一括して前例により投票選擧の代りに議長指名による詮衡委員を擧げて人選を一任したしとの提議あり依つて議長より賛否を問ひたるに(賛成々々の聲あり)異議者なく茲に詮衡委員制に依ることに決定議長より次の5氏を指名し承諾を得たり
   井上福藏氏、猪瀬幸太郎氏、石井春雄氏
   松久保敬三氏、三浦茂氏
1. 次て議長より只今指名の方は直ちに別室に於て詮衡されたしと述べ此間評議員會は休憩する旨を宣す
1. 午後6時30分再會
   議長より只今詮衡委員より次の通り人選せし旨報告ありとて之を朗讀す

理事會長	片岡安氏	
同副會長	今林彦太郎氏	
同同	坂靜雄氏	
常務	伊藤正文氏	岩尾保衛氏
	龜井幸次郎氏	北垣熊之介氏
	北川正彌氏	桐本楠雅氏
	棚橋諒氏	玉置豊次郎氏
	政岡基次氏	三浦茂氏
	藪中一貫氏	米倉威夫氏

(五十音順)

1. 議長右の通夫々當選になりし旨を告ぐ(一同拍手)
1. 夫れより議長は本會議事錄の代表署名者に次の2氏を指名し其承諾を得たり
   石川純一郎氏　塚本猛次氏
1. 茲に於て議長は以上にて選擧終了に付本日の評議員會は之を以て閉會する旨を宣し散會す
   時に午後6時45分

常務會(第22回)

時　12月4日午後6時－6時50分
所　陳列場別室
出席者　理事　今林副會長　坂副會長
監事　松本監事
常務　桐本主記　黒田主記
伴野主記　三浦主記

藏中主記　岩尾主計
松井主計　龜井編輯

議　事
1. 役員引繼會並慰勞會開催の件……承認
2. 會員委員會より經費要求の件……承認
3. 助手採用の件……承認
4. 職員下半期賞與並昇給の件……次回まで保留
5. 會員詮衡

報　告
1. 10月分會計報告
2. 入營、除隊者報告

十二月例會（講演會）

時　12月6日午後6時—8時10分
所　大阪朝日新聞社三階廣間
出席者　約 250名

木造建物建築統制規則に關する講演會

1. 午後6時聽講者既に滿員坂副會長開會の挨拶を述べ12月1日より實施せられし標記規則に就き大阪府當局の方より御解說を聽くこととなりし旨を告げ下記の通兩講師を夫々紹介す

木造建物建築統制規則に就て
大阪府建築課長　井上　新二氏
同課　地方技師　玉置豐次郎氏

1. 井上課長は上記規則の運用に付玉置技師は主として許可標準に就て懇切なる說明あり實際問題として出席會員一同大いに稗益する所あり最後に質疑應答に入り午後8時講演終了
1. 伴野主記常務講師に對し一同を代表して謝辭を述べ會員一同拍手を以て之に和し午後8時10分盛會裡に有意義なる本講演會を終り一同散會す

材料委員會（第9回）

時　12月7日午後6時50分—9時
所　倶樂部室
出席者　委員長　松久保
幹　事　木野山、道　田
委　員　秋　田、楠　瀨、竹　花
矢田

1. 用材生產統制規則に關し寸法規格の統一案作成の件

法制委員會（第10回）

時　12月8日午後6時30分—8時20分
所　倶樂部室
出席者　委員長　玉　置
幹　事　武　田
委　員　本　田、村　田、平　野
森　口、横　見

1. 建築關係法令集編纂に關する件
2. 市街地建築物法令編纂に關する件

主記會（第7回）

時　12月13日午後4時—8時30分
所　倶樂部室
出席者　桐　本、黑　田、伴　野、三　浦、
藪　中、各主記

1. 職員下半期賞與並に昇給に關する件

常務會（第23回）

時　12月18日午後5時30分—7時
所　陳列場別室
出席者　理　事　今林副會長　坂　副會長
監　事　松本監事
常　務　桐本主記　黑田主記
伴野主記　藪中主記
岩尾主計　松井主計
龜井編輯　棚橋輯編
堀口編輯

議　事
1. 昭和15年度常務會に引繼事項の件……承認
2. 職員下半期賞與並昇給の件……承認
3. 會員詮衡

報　告
1. 12月例會終了報告
2. 役員引繼會及慰勞會準備報告
3. 會員委員會結末報告
4. 11月分會計報告
5. 出征、入營、除隊報告
6. 片岡會長寄贈圖書報告

會員動靜

入會者

會　員
關　鐵　男君　兵庫縣川邊郡伊丹町大廣寺135
（大阪市役所營繕課）

貫野鶴松君　天王寺區眞法院町9（京都市役所營繕課）
篠原勝行君　旭區森小路6ノ110（株式會社淺高組大阪支店）
藏野庄次君　兵庫縣川邊郡長尾村山本蠶30ノ1（阪堺電鐵株式會社工務課）
美濃德一君　東成區小橋南ノ町3ノ94 中尾由松方（津田敏雄建築事務所）
大澤松治郎君　住吉區住ノ江町 157（合名會社大阪橋本組）
森里好久君　京都府乙訓郡向日町字鷄冠井12（京阪電氣鐵道株式會社土木部建築課）
小柴秀隆君　普通贊助員ヨリ轉格
津田新吉君　兵庫縣武庫郡御影町石屋左美也159（津田工務店自營）
中川竜雄君　兵庫縣武庫郡住吉村字反高林187ノ6ノ6（黑川代學工業所）
水谷正男君　尼崎市大物町2ノ190（大阪市役所建設課）
香川善男君　府下三島郡茨木町上中條153（西本組大阪支店）
小島正五君　府下三島郡高槻町字高槻117（株式會社中山製鋼所技術課）
井川豐治郎君　府下北河內郡枚方町岡12（大阪府社會部）
稻垣好謙君　西宮市宮西町35（西本組大阪支店）
山本金藏君　西宮市今津山中町45 太平寮アパート內（大谷製鋼所營繕課）
杉本士郎君　大正區大正通8ノ48（自營）
富田勘治君　旭區大宮町7ノ61（第一相互住宅株式會社建築課）
畔上眞治君　府下北河內郡枚方町大字茄子作2.465（大阪府警察部建築課）
井原國雄君　府下泉北郡堀尾村上野芝向ヶ丘344（自營）
河村惇君　府下北河內郡守口町字土居606（株式會社清水組大阪支店）
岸貞吉君　東淀川區三國町922（大阪市役所經理部營繕課）
濱田茂吉君　住吉區住吉町萬代西5ノ41（同）
戶次秀夫君　住吉區田邊東ノ町5ノ9（同）

地方會員

永井忠君　佐世保市港町71（佐世保海軍工廠會計部）
金井豐正君　新京特別市中央通54兒玉寮17號內（東邊道開發株式會社建築課）
村上保君　同 吾野町吉野寮內（同）
和田敏雄君　濱松市鴨江町1441（東洋紡績株式會社營繕課）
北川武夫君　德山市東山德山曹達株式會社合宿所內（德山曹達株式會社建築課）
勝浦武治君　德島市島田町字中筋43（德島縣廳營繕課）
花城惠俊君　沖繩縣宮古郡平良町字下里771（沖繩縣耕地課宮古出張所）

特別贊助員

大谷之則君　西成區北吉田町13（杉田材木店）
增田千里君　神戶市神戶區山本通4ノ41（三井物產株式會社大阪支店次長）

普通贊助員

藪內幸雄君　東成區東桃谷町3ノ176（三津建築事務所）
寺脇長藏君　府下中河內郡枚岡町額田1052
松浦要君　天王寺區大道1ノ103 船原正雄方
三村久和君　西成區海道町57（南大阪工業會）

退會者

會員

小野茂雄君

地方會員

尾田正友君　高波隆助君

特別贊助員

青柳保君

普通贊助員

西楠吉君　泉川眞馬君　森實太郎君

轉居・轉勤

會員

菅喜義君　住吉區山坂町1ノ26（構造社）

幸田武雄君　丸龜市石川部隊田岡隊
木子弘吉君　府下北河內郡友呂岐村字香里淀見ヶ丘
小西速夫君　豐中市柴原春日園664
前田亥之助君　東淀川區柴島町97
武信正信君　府下北河內郡枚方町岡588
網永庄八君　豐中市新免1.039
燕木信祐君　新潟縣中魚澤郡十日町寅甲1
伊藤甫君　大連市關東洲廳防空課
陶浪真彦君　住吉區住吉町萬代西1丁目交樂莊內
佐々木俊朗君　東區今橋1ノ9　帝國ビル內日本ポルトランドセメント同業會內

地方會員

村中義雄君　廣島縣御調郡向島西村東富濱金輝鱗尾道肥料工場內（株式會社清水組出張所內）
井上勝彌君　奉天市鐵西區勸工街四段2號（滿洲住友金屬工業株式會社）
榮信義君　兵庫縣加古郡加古川町木村78ノ4
阪永金重君　住吉區田邊本町6ノ27
神原義平君　高松市外磨屋町西ノ町
中西一郎君　新京特別市大同大街30號　海上ビル中央土木株式會社新京出張所內（電3.296）
山內武雄君　神奈川縣三浦郡新富
江島正則君　宇都宮市東區本町1丁目
柴田靖君　廣島縣芦品郡府中町土生
松永巍君　東區今橋4丁目　三菱信託ビル東畑謙三建築事務所內
吉田正一君　東京市澁谷區隱田2ノ63
塚本吉平君　東京市麹町區內幸町1ノ1（株式會社松村組東京支店）
杉本正一君　北京東城胡九胡8號（株式會社清水組北支支店）
藤井康之佑君　府下泉南郡濱寺町下913
富士原宗行君　福井市外牧島福井高等工業學校內

特別贊助員

小川憲治君　旭區森小路町44
中村和夫君　住吉區昭和町中4ノ31

普通贊助員

上井茂介君　尼崎市昭和通1ノ34石田義平方
岩田唯夫君　朝鮮京城府大和町2丁目　憲兵隊司令部內
苅田源次郎君　東淀川區豐里町1758ノ13
森本源造君　神戸市灘區篠原中町1ノ111
南清次郎君　旭區新森小路中3ノ112　佐々木筐一方
福永昇君　新京特別市神泉路中央銀行宿舍14號　福永薰方
濱田滿次郎君　豐中市新屋敷高砂通3ノ7ノ1

改姓

會員

網永庄八君（舊姓勝本）

死亡

普通贊助員

高木正三君　昭和14年10月9日逝去
（謹んで哀悼の意を表す）

編輯後記

☆聖戰下の新年で、而も意義ある2.600年の春を迎へた。國は擧げて事變處理に邁進せんとする新年でもある。新しい覺悟と我が民族的自覺の上に底力のある忍耐力を以つて眞の愛國心を昂揚せねばならぬ時に遭遇して居る

☆此の時にあたり、我等事變の進展と共に、新たなる樣相を以つて事變處理に關する重責の一部分を我等の技術及知識等を通じて擔はねばならぬのは勿論である。

☆此の意味で我が「建築と社會」の擔ふべき使命たるや重且つ大なるものがある事を認識せねばならない。今や我々は『建築と社會』を通じて一つの啓蒙運動を實踐し、建築報國の實を擧げねばならない時ではないでせうか。

☆只徒らに建築家仲間の月旦の爲に貴重なる紙面を割愛する時でない、我等建築家のみが持つ美點を互に昂揚して、元氣ある建設的氣分を橫溢させ、來るべき時艱を「へバヒ」ことなく克服仕樣ではありませんか。

☆幸ひ、盛り上がる元氣のあふるゝ2.600年を迎ふるの辭を多數の大家より得たのを嬉く感じ、今年こそは會員と協會が打つて一圓となつて有效適切なる編輯を行ひ、時局と共に「建築と社會」の發展を期してゐる。

☆而も今年は、我協會の加盟團體なる都市問題會議が東京に於て開催される故、都市と建築とは不可分なる關係の故に活潑なる論陣が本誌上にて行はれる事を期待してゐる。

☆更に、勞務者住宅問題も、法律メーカーの抽象用語の羅列による住宅政策では結局が不良住宅の發生を助長せる意外のなにものでもない故、心ある建築家の目覺しき活躍とあい俟つて此の問題に關する華しき意見の發表も期待してゐる。

☆本號に貴重なる玉稿を賜つた諸氏に多くの感謝を捧ると同時に上記の件に更に指導的玉稿を賜る事を期待して編輯後記とす。(聰平)

建築と社會

第23輯　第1號

毎月1回1日發行　定價　1册　50錢（郵稅3錢）
　　12册　6圓（〃　36錢）
昭和14年12月25日印刷　昭和15年1月1日發行

發行・編輯兼印刷人　戸川弘
大阪市北區朝日ビル日本建築協會內

印刷所　プラトン印刷社
大阪市西區江戸堀南通2丁目13番地

發行所　社團法人　日本建築協會
大阪市北區中之島3ノ3　朝日ビル
電話長北濱(23)4501番(9)
振替口座大阪39975番

特約販賣店　柳々堂書店
大阪市西區京町堀羽子板橋西
電話土佐堀2440番
振替口座大阪2084番

禁轉載

本號に掲載せるものは、一切これを無斷にて轉載し又は單行本に上梓その他の復製行爲をなすことを禁ず。

廣告掲載料金

普通	1頁	1回	15,00
普通	半頁	1回	8,00
普通（前書第1頁）	1頁	1回	45,00
普通（前書第2頁）	1頁	1回	40,00
普通（後書第1及最終頁）	1頁	1回	25,00
アート（中挿）	半頁	1回	20,00
表紙2	1頁	1回	60,00
表紙3	1頁	1回	45,00
表紙4	1頁	1回	80,00
建築事務所錄	1欄	1回	1,50
（建築關係業者廣告內）	1欄	1回	5,00

廣告掲載御申込は本會へ直接願ひます。
本誌購讀御注文はすべて前金で本會直接又は特約店へ、振替貯金又は爲替で御拂込を願ひます。郵券代用は一割增、代金引換はお斷り致します。

"建築と社會" 第23輯第1號　廣告索引

ア　旭硝子株式會社……12
　　淺野スレート株式會社……14
　　阿部鐵工所……26
イ　伊藤式コンクリート製造所……1
エ　榮進社……25
　　荏原製作所……31
オ　大阪窯業セメント株式會社……中揷
　　大阪伊丹商店……24
　　大野製作所……表紙 4
　　奥村重兵衛商店……23
カ　河津裝飾店……27
キ　桐田商會……18
ク　久保商店……19
ケ　建盛商會……6
サ　佐久間工業株式會社……17
　　坂田ベンチレーター製作所……6
　　三英電機製作所……30
　　三正商會……19
セ　政正合資會社……9
　　清光社……3
タ　田島應用化工株式會社……表紙 2
　　田中昌司商店……9
　　大洋組……20
　　田村商會……28
ト　利倉幸商店……7
　　東洋リノリユーム株式會社……2
　　東洋陶器株式會社……29
　　巴商會……21
ナ　寧樂屋家具裝飾店……表紙 3
　　南滿鑛業建材合資會社……15
ニ　日本建築紙工株式會社……7
　　日本陶織株式會社……11・32
　　日東物產株式會社……13
　　西原衞生工業所……10
　　西孫南店建築金物部……5
ノ　野澤幸三郎商店……22
ハ　汎建製作所……15
ヒ　美素工業所……中揷
マ　松井商店……11
　　松下電器株式會社コンヂット部……4
ミ　三井物產株式會社……8
ム　村田商會……前附 1
ヤ　矢橋大理石商店……5
ヨ　横河橋梁製作所……16
　　淀川鐵工所……27